聖　学　院　大　学
〒362 埼玉県上尾市戸崎1番1号
TEL. 048－781－0031（代）

講義内容 1993

聖学院大学

1993年度

講義内容

SEIGAKUIN UNIVERSITY
聖学院大学

１９９３年度

講　義　内　容

目　　次

1．一般教育科目（全学科共通）…… 5

　1）人文の分野…… 5

　2）社会の分野…… 13

　3）自然の分野…… 21

2．外国語科目（全学科共通）…… 29

3．保健体育科目（全学科共通）…… 57

4．基礎教育科目（全学科共通）…… 59

5．政治経済学部 政治経済学科 専門科目…… 66

6．人文学部 欧米文化学科 専門科目…… 115

7．人文学部 児童学科 専門科目…… 122

1．一般教育科目（全学科共通）

1）　人文の分野

キリスト教概論　(4)　　教　　授　西　谷　幸　介

講　　師　濱　田　辰　雄

この授業は一般的に言えばキリスト教への入門ということであるが、本学における学問研究と人間形成の基礎としてのプロテスタント・キリスト教の精神を会得するという意味で、学生諸君には特別の意気込みと自覚をもって出席してもらいたい。

この授業を通じて、まず前期はキリスト教の基本線を理解し、また基本的所作を修得する。直接に聖書の言葉に触れつつキリスト教の使信を学び、聖句を暗誦し、主の祈り等を習得する。初めてキリスト教に接する諸君にもよく理解を得た上で指導していきたい。

以上に基づき、後期はキリスト教信仰の中心点を学び、さらに日本史および世界史との関わりという視点から、キリスト教を大局的に把握する。

教科書　『聖書』（日本聖書協会）

『讃美歌』（日本基督教団出版局）

『神を仰ぎ、人に仕う』宗教センター編（聖学院ゼネラル・サービス）

『聖学院の精神と歴史』宗教センター編（聖学院ゼネラル・サービス）

ヘンデル作曲『ハレルヤ・コーラス』楽譜（シンキョウ社）

参考書　「諸君は孫弟子」金井信一郎（聖学院ゼネラル・サービス）

キリスト教概論（政治経済学科）　(4)　　専任講師　菊　地　　順

この授業の目的は、講義等を通して、本学の理念であるプロテスタント・キリスト教の精神を理解・習得することにある。

キリスト教は、その背景を成すイスラエル民族の歴史を入れると、優に3千年を越える歴史をもっている。また、ただ長い歴史をもつというだけではなく、その考えにおいて大変歴史的である。キリスト教は、歴史の初めと終わりを語る。そして、イエス・キリストを歴史の中心と見る宗教である。今年度の授業においては、特にこの歴史的視点に注目し、それを軸としてプロテスタント・キリスト教の精神を学んで行くこととする。また、そのことを通し、同時にキリスト教の基本的知識を学ぶことを目的とし、本学で初めてキリスト教に触れる人たちにも、十分入門としての役割を果たすよう意図されている。

使用する基本的文献は、以下のように他のキリスト教概論の授業と同じである。その他の文献は、授業の中で指示するかプリントを配布する。

教科書　『聖書』（口語訳）（日本聖書協会）

『讃美歌』（日本基督教団出版局）

『神を仰ぎ、人に仕う』宗教センター編（聖学院ゼネラル・サービス）

『聖学院の精神と歴史』宗教センター編（聖学院ゼネラル・サービス）

ヘンデル作曲『ハレルヤ・コーラス』楽譜（シンキョウ社）

参考書　「諸君は孫弟子」金井信一郎（聖学院ゼネラル・サービス）

キリスト教概論（欧米文化・児童学科）　(4)　　専任講師　菊地　順

この授業の目的は、講義等を通して、本学の理念であるプロテスタント・キリスト教の精神を理解・習得することにある。

特に今年度の授業においては、現代人に対し、キリスト教の精神がどのように関わり、またどのような意味をもっているのか、という視点（弁証学的視点）から、プロテスタント・キリスト教の精神を学んで行くこととする。そのため、ヨーロッパの思想や現代の精神的状況にも触れる、幅のある学びとなるであろう。また、そのことを通し、同時にキリスト教の基本的教えや歴史を学ぶことを目的とし、本学で初めてキリスト教に触れる人たちにも、十分入門としての役割を果たすよう意図されている。

使用する基本的文献は、以下のように他のキリスト教概論の授業と同じである。その他の文献は、授業の中で指示するかプリントを配布する。

教科書　『聖書』（口語訳）（日本聖書協会）

『讃美歌』（日本基督教団出版局）

『神を仰ぎ、人に仕う』宗教センター編（聖学院ゼネラル・サービス）

『聖学院の精神と歴史』宗教センター編（聖学院ゼネラル・サービス）

ヘンデル作曲『ハレルヤ・コーラス』楽譜（シンキョウ社）

参考書　「諸君は孫弟子」金井信一郎（聖学院ゼネラル・サービス）

倫理学　(4)　　教授　鵜沼裕子

倫理学の課題は「良く生きる」ための生き方を探究することにある。このように言うと多くの人は、そんなことが研究や学習のテーマになりうるのだろうかという疑問を持つだろう。もちろんそのような課題に模範答案があるわけではないし、またかりにあったとしても、それは教室で教師から教わって得られるようなものではなく、各自が見出していくほかはないのである。

それならば、倫理学を教科として学ぶことの意味はどこにあるのだろうか。「良く生きる」という倫理学のテーマは、各自が手探りで、個人の限られた経験や知識だけを頼りに探究するにはあまりに大きすぎる。それゆえ私たちは、このテーマにかかわる先人たちの思索のあとや現代の思想家たちの発言の中に、考える手がかりを求めるのである。

倫理学にはさまざまな角度からの取り組みが可能であるが、本年度はまず倫理学という学問へのオリエンテーションを行い、次いで主として日本人や日本文化に関する論考を手がかりに、日本人の倫理観の特質について考えたい。各国の文化や国民性にそれぞれ特色があるように、倫理観も時代や社

会によって異なり、日本人が当然のこととして受け入れている秩序意識や行動様式も、他の社会では通用しないこともある。私たち日本人が日ごろ常識として従っているものの考え方を倫理学の観点から整理しつつ見なおしてみることを通して、国際化時代を「良く生きる」ための倫理観の確立につなげてほしいと考えている。

参考書　「新倫理学事典」金子武蔵編（弘文堂）

倫理学演習 (2)　　教　授　鵜沼裕子

テーマ：日本人の倫理観

――その特質と思想的・宗教的背景を考える――

倫理学の課題は個人として社会の中で「良く生きる」ための普遍的な行為の原理を探ることにあるが、世界各国の文化や伝統にそれぞれ特色があるように、倫理観にもまた国によってさまざまの違いがあり、私たち日本人は日常、日本社会の常識として共有されている倫理観に従って生活している。

ところで、外国に行ってみて、その国の人びとと自分たちとのものの考え方の違いに戸惑ったという経験をもつ人は少なくないだろう。反対に、私たち日本人が当たり前のことと考えている世間常識も、外国の人びとにには必ずしも当たり前として通用しないことがある。そうした中で、「ある国の人びとが、自分たちの秩序像ないし世間常識をごく当たり前、したがって万国共通、人類普遍と無邪気に信じて、自分たちの流儀で他国と交渉、交流を進める」（京極純一『日本人の秩序像』より）なら、誤解や混乱を招く原因ともなるであろう。聖学院大学は国際化時代にそくした人間教育をめざしているが、すぐれた国際人としての倫理観の確立のために、まず私たち自身の倫理観を検討し反省してみることから始めたいと思う。

まず前期には身近な問題を材料に、私たち現代日本人のものの考え方、秩序意識について考え、後期には、日本の倫理思想に関する古典的な諸論考も参考に、日本人の倫理観の思想的宗教的背景を考えていきたい。

形式は学生の個人発表とグループ発表を中心に、全員によるディスカッションを行う。

履修条件は特に必要としないが、日本の宗教や思想にも関心を持ち、かつその分野の文献を読むことに意欲を持つ学生の積極的な参加を期待している。講読する文献や参考図書は教室で指示する。

哲　学 (4)　　助教授原　一子

哲学のことを英語でphilosophyと言うが、これはギリシア語のフィロ（愛する）とソフィア（知）から成り立つ語で、知を愛することを意味している。では知を愛するとはどういうことだろうか。本当に知るとはどういうことであろうか。わたくしたちは、よく、あのことについては知っている、とか、もうそれは分かりきったことだ、などと言うが、よく考えてみると、知っているようでいて実は何も知らない、ということが実に多いことに気付かされるであろう。そして、分かりきったことだ、とか、当たり前のことだ、と思い込み、改めて問い直すことをしない傲慢さが、この世界に数々の先

入観や偏見を生み出してきた。わたくしたちは、謙虚に、自己について、また自己を取り巻く世界について考えてみる必要がある。

その際、思索の手本になるのが哲学史である。ソクラテスが身をもって示した愛知の精神とは如何なるものであったか、フランシス・ベーコンは人間の持ちやすい先入観としてどんなものを挙げているか。カントは人間の認識能力の限界をどこに見たか、ヘーゲルは世界史の発展過程をどのように理解したか、などを学ぶことによって考える力を養っていきたい。一見難解な哲学用語も、それを考えた哲学者の具体的な愛知の営みに裏付けられれば理解しやすくなるであろう。

本講義では、それゆえ、西洋哲学史を概説しつつ、哲学の基本概念を説明する。哲学的なものの考え方は諸学の基礎でもあるから、真剣に受講し、大学生に相応しいノート作りをして欲しい。

教科書　『西洋哲学史　改訂版』岩崎武雄（有斐閣）教養全書

哲学演習　(2)　　助教授　原　一子

「哲学」と聞くとすぐ、難解だ、と思う人もあるかもしれない。しかし、イマヌエル・カントは、自分は哲学（フィロゾフィー）を教えるのではなく哲学する（フィロゾフィーレン）ことを教えるのだ、と語ったそうである。われわれも、哲学すること、即ち、自分を取り巻くこの宇宙や世界、そして自分の生き方をじっくりと考えることから始めよう。その場合、考える、と言っても、ただ思いつくままにあれこれ考えるのには自ずから限界があろう。そこで先哲の言葉にじかに接し、考えることの方法を学ぶことが必要になるのである。

今年度は近代から始める。デカルト（1596－1650）は、哲学におけるアルキメデスの一点、すなわち、疑っても疑ってもなお疑い切れない、明晰・判明なものを求めようとして、全てのものを疑うことから出発した。これが有名な「方法的懐疑」だが、その結果、今考えたり疑ったりしているこの自己だけは疑えないという結論に達した。その思索の過程を『方法序説』によって跡づける。

次に、デカルトと同時代人で、人間や人生について深い洞察をしたパスカル（1623－1662）の思索の跡を『パンセ』（瞑想録）によって辿り、さらに現代の実存の思想家ヤスパース（1883－1969）の『哲学入門』を読みながらいかに生きるべきかを共に考える。

テキストには岩波文庫、新潮文庫など入手しやすい翻訳を用い、受講生には毎週の当番を割り当てて、資料作成・要約・コメントなどをしてもらう。また一冊読み終えるごとにレポートをしてもらう。参考書は開講時に紹介する。

教科書　『方法序説』デカルト（岩波文庫）
　　『哲学入門』ヤスパース（新潮文庫）
　　『パンセ』パスカル（中公文庫）

国文学（政治経済学科）　(4)　　教授　黒木　章

初めに「文学（芸術）とは何か」の問題と言語表現の意味と距離について原理的な確認をする。そ

の後近代日本の小説を具体的に読解する。作品の読解は明治期が中心となろうが、次の順序で進めることになろう。①『民権演義情海波瀾』(戸田欽堂　1880)、②『舞姫』(森　鷗外　1890)、③『牛肉と馬鈴薯』(国木田独歩　1901)、④『門』(夏目漱石　1910)、⑤『友情』(武者小路実篤　1919)。

見られるように明治期を10年ごとに区切ってその年の代表的な作品、大学生の教養として読むに値する作品を取り上げることによって明治という時代がどのような展開になっているかを大雑把に捉えられることを意図している。勿論作品の周辺にある様々の問題を取り込みながら展開したい。

多くの作品を扱うとはいえないが、〝小説読みのおもしろさ〟を享受しながら近代日本の諸問題について考える契機になることを願っている。小説読みは元来〝遊び〟である。しかしこの〝遊び〟は本質的に人間にしかできない上質の〝遊び〟である。大学生こそこの〝遊び〟を体験してもらいたいと願うので積極的な参加を期待する。

スケジュールとして、4～5月を原理問題の確認に当て、6月に①を扱う。

テキストのうち、①はコピーを配布するが、②～⑤は文庫本で容易に入手できる(授業展開上、参加者のテキストが同じである方が都合よいのでその都度確認する)。

国文学(欧米文化・児童学科)　(4)　　教　授　黒木　章

夏目漱石を扱う。漱石は近代日本を代表する作家であるが、彼は文字通り明治と共に誕生し『心』にあるように「明治の精神に殉じる」かのように、大正5年にはその生涯を閉じた。余程長期にわたって活躍したように思われがちであるが、小説執筆に専念できたのは10年間にすぎない。この間に提示された作品は、日本近代の栄光と矛盾、可能性と不可能性を見事に疑縮しているといえる。我々は漱石を通して近代日本の人間の諸問題を考えることにしよう。

年間計画としては、前期にロンドン留学中の漱石についてその事跡を調査しつつ、その間に執筆された書簡その他を扱いながら、作家以前の漱石を考えることとする。後期は具体的に幾つかの小説を読んで、漱石における西洋と東洋及び近代日本の人間の問題を考えることにしたい。

年間を通して細かな読みが要求されるので受講生にはきついと感じられるかも知れないが、偉大な作家漱石の生活と思考の現場にはいり込むことができれば小説を学ぶ者としてこれ以上の喜びもないであろう。

受講生の数によって多少の変更はあるかも知れないが、可能な限り学生との対話を意図したい。従って一種の演習形式になることを望んでいる。意欲的な参加を希望する。

さしあたり出口保夫著『ロンドンの夏目漱石』(河出書房新社)、角野喜六著『漱石のロンドン』(荒竹出版)、塚本利明著『漱石と英国』(移流社)、平川祐弘『夏目漱石一非西洋の苦闘－』(新潮社)などを輪読しながら我々の視点と問題点を絞ることにしたい。

テキストは『漱石全集』(新書版、岩波書店)を用意されることが望ましい。

国文学演習 (2)　　教　授　黒　木　章

前年度に続き、夏目漱石を扱う。

漱石は日本の近代の出発と共に生をうけ、明治の終焉から僅か5年後に生涯を閉じた日本近代の代表的作家であるといえるが、漱石文学の持っている可能性と壁は、そのまま日本近代の可能性と限界性を示しているといえよう。本演習は漱石の生き方、特にその思想性が彼の環境及び時代とどのように関わるかを作品を通して考えるものである。従って漱石の評論文や小説とそこに扱われる問題の時代的意味を明らかにしなければならない。作品と時代環境－その連関の確認を前提とした作品研究になる。

教養課程の演習であるから、文学・小説のおもしろさを発見するとともに作品の背後にある近代日本の人間と社会の問題を感受する知的訓練になることを願っている。

扱う作品は「三四郎」「それから」「門」「道草」「行人」「こころ」の順になるが、この間「現代日本の開化」や「私の個人主義」などの評論を適宜加えるつもりである。

方法としては一つの作品を連続三週間扱うグループ発表の形式とする。従って2人或いは3人で一つのグループを作り、(1)時代環境の中でその作品が持つ意味、(2)作品構成、人物構成、文体表現の分析等(3)作品評価－同時代評と今日的評価についてなどの3項目についてそれぞれ発表し討議することになる。

年度末には参加者全員が個人或はグループの責任でレポートを作成し、これを簡便な冊子にまとめるよう望んでいる。

グループ形式になるので意欲ある学生が多数参加することを期待する。

美　術 (4)　　専任講師　寺　内　幸　雄

日本美術・西洋美術の流れの中でスライド及びビデオなどを使い、鑑賞を主に講義を行う。

日本美術は主に彫刻家荻原守衛を通し、それに関係の深い明治大正の作家達と、日本古代上代の美術などの結びつきを学ぶ。

西洋美術は、フランコ・カンタブリア美術（旧石器時代）からルネッサンスまでの作品を通し、人類と美術との関り、美術の根元について学ぶ。

教科書　『日本美術史』監修　辻惟雄（美術出版）

　　『西洋美術史』監修　高階秀爾（美術出版）

参考書　「日本の彫刻　東京国立博物館鑑賞シリーズ3」

美術演習 (2)　　専任講師　寺　内　幸　雄

美術演習は実技を中心として授業を進めます。

美術といっても造形の分野は広く、平面造形では、絵画（日本画・油絵・水彩・版画など）、立体造形では、彫刻・工芸、なかでも工芸の分野は広い、又デザインは、私達の生活総てにわたっています。

過去現在の美術を見つめ制作に生かす様願っています。美術の専門、高度なものを求めてはいません。子供は生活体験の中から素直に感動し表現しています。その大胆なよさに関心させられることがあります。それはうまい絵ではありませんが素晴らしい良い絵があります。感動の中の造形、描くこと造ることの楽しさの一端でも習得出来ることを希望します。

音　楽　(4)　　講　師　藤　田　明

音楽は我々が経験できないさまざまな事柄を想像させてくれる。

この授業では、ロマン派の音楽と作曲家を取り上げ、時代的な背景や、その作曲家、演奏家の人生観について考えていく。

参考書　「ルートヴィヒ二世と音楽」ローベルト・ミュンスター著　小塩節訳（音楽之友社）

「狂王ルートヴィヒ」三保元訳（中央公論社）

音楽演習　(2)　　講　師　藤　田　明

音楽に接する方法として、演奏会や、CD、LD等で音楽を鑑賞することと、自ら歌を歌ったり、楽器を演奏すること等があげられる。

本演習では、主に合唱曲を用いて、発声や歌唱法を学びながら、音楽の美しさを追求していく。

又、打楽器を使って、音楽的即興表現をも試みる。

歴史学　(4)　　講　師　小　田　謙　爾

歴史小説の名作、それも大作を読んでみたい。前期に予定しているのは、シェンキェヴィッチ『クオ・ヴァディス』、辻邦生『背教者ユリアヌス』である。後期にはロシア文学から選ぶつもりであるが、受講生諸君の希望も取り入れたい。歴史小説には、舞台となった時代と作者自身の生きた時代という二つの歴史背景がある。授業では名作を味わうと同共にこうした時代背景について、また史実と小説の叙述の関係について解剖を行いたい。受講生諸君に求められるのは、教師の喋ることや黒板に書くことを丹念にノートして暗記することではもはやない。問題意識をもって授業に参加すること、疑問が生じたらこれを徹底的に追求することである。活字離れのはなはだしくなった昨今、授業をきっかけにこうした作品を読んでおくことは、必ずや心の糧となろう。

教科書　『クオ・ヴァディス上、中、下』シェンキェヴィチ（岩波文庫）

教育学　(4)　　助　教　授　石　津　靖　大

教育の歴史をところどころ覗く程度の小さな試みにすぎない。

前年度の不備を繕って、授業の予定を次のように考えている。エレン・モーガンの水棲生活説（人の特性）。とりかえばやものがたりの両性具有(人の特性)。『ここまでを前期の予定としている。前期の状態を参考にして、夏休み中に後期の計画を立て直すが、一応後期の授業は次のように考えている。』

ラシドールの大学起源論（学校と教育）コメニウス錬金術的教育論（学校と教育）。

教育学演習 (2)　　助教授　石津靖大

『文学部唯野教授』を読んだ。誰でも大学の先生になれる、誰でも大学生になれる、今はそんな時代だと著者は言っているようだ。にたようなことは昔からある。

江戸時代の後半、藩校・塾それに先生・学生がどっと生れた。師が亡くなると弟子たちが墓石を建て墓碑文を刻するのが流行した。名もない旧墳墓があっちこっちに在ったが、地域の活性化で少なくなった。学生のころから、何とはなしにそんな墓碑銘を一つ二つと拾ってきた。

この際読んでみたい。おもに漢和辞典を引きながら漢文を読む。何かのときそういう墓碑に出会い、碑文を解読して、こういうものが在るよと知らせてくれると本当に有難い。そんな願いをもっている。

2) 社会の分野

法　学（政治経済学科） (4)　　専任講師　加　藤　恵　司

法学は、いわゆる法律の条文解釈や判例研究、学説などの詳細について覚えこむことだと考えるものがいる。初学的が一般教養として法学を学ぶにあたって重要なことは、法的な物の見方や考え方、すなわち、Legal mind を身につけることである。そこで、本講義は、法的思考の核心たる法の一般理論ないし基礎理論の知識を付与することを目的とする。

法的思考は、健全な常識を基礎として、合理的、科学的な観点から法の原理、法の本質を理解することにある。複雑な現代社会に目を向ける時、市民の常識的な正義や衡平感覚と合致しないために矛盾を感じたり、ひとたび法律が制定されてしまうと強制的に服従させられるようになり割り切れない気持ちになることがある。その結果、法律はその専門家の所与のものと考えたり、法にある種の不信感を抱くことすらある。このこのような諦観は、学問する立場からは禁物である。正義、自由、平等、人権、愛などを基礎にした説得力ある提言、論評、意見こそ法的思考の視座となるのである。

さて、この法的思考を養うために判例を中心としたクイズ擬を解きながら講義をすすめていく予定である。学生諸君は、時間内に解答を重ねて、地道な勉学の姿勢を獲得してほしい。学問に王道をないのだから……

講義内容、前期：社会規範と法、法の概念と法の目的、法の淵源と種類等。

後期：立法と法の効力、法の適用と法の解釈、法律関係等。

但し、法思想史、法学説史、法の発展史（法系）など上記項目外の内容については適宜講義の中に組み入れていく。尚、教科書、参考書などは開講時に指示するが、『コンパクト六法』(岩波)、『ポケット六法』(有斐閣)、『ディリー六法』(三省堂）などの小型のものでよいから授業時には必携すること。

教科書　『六法』(コンパクト・ポケット・ディリー・どれでもよい)

法　学（欧米文化・児童学科） (4)　　専任講師　加　藤　恵　司

「真の法は人々の心臓の上に書かれたものだ」とルソーが言ったように、法が国民の心に記されなくては法は単なる空文にすぎない。日常生活の中で各個人がいかに法とかかわり合っているかを理解する。殊に現代民主主義においては各人が法を育てていかなければならない。それ故、sense of Law を法律を専門にするしないにかかわらず心得る必要がある。

法は、技術的な一面を持っているが、元来人間性に基づいたものであり、人と人が相生きるためにある。法を単なる生活技術と考えたり、役にたつから学ぶのではなく、社会生活における健全な常識の基礎として法学を学ぶ。以上のような意識で講義する心積もりである。

講義内容　前期には法と常識、法とは何か、法学とは何か、法と道徳、法と強制等

後期には成文法、慣習法、判例法、法の種類、権利と義務等

尚、教科書、参考書などは開講時に指示するが、『コンパクト六法』(岩波)、『ポケット六法』(有斐

閣)、『ディリー六法』(三省堂) などの小型のものを授業時には必携すること。
教科書　『六法』(コンパクト・ポケット・ディリー・どれでもよい)

法学演習 (2)　　専任講師　加藤恵司

本演習は3年次以降の演習を意識したプレゼミを目的とする。まず、速読、熟読の両者を駆使して読解力、理解力を身につけ、テーマに応じて発表、討論を繰り返しつつ判断力、応用力を獲得し、学問に自覚的に取り組む姿勢を養う。

法律は、現実社会に生きている。社会変動の激しい複雑な現代社会に相次いで惹起される新たな問題に対処するためにさまざまな立場から法的要請が求められている。ところが、社会通念を覆するような法律はかえって混乱を招来するし、社会正義の実現をめざさない法はかえって不幸を生んでいる。我々の生きている社会問題を考えるにあたって、現代の法秩序の特徴や法の機能を理解しておくことが肝心である。

なお、昨年度までに法学の授業を受講していないものは、あらかじめ「法学」「法学入門」といったテキストを一冊読んでおいてほしい。

前期には、法の基礎理論の復習と前年度の講義で取り扱えなかった法の理念、理想について検討する。同時にほかのテキスト、参考書、新聞等を用いて学生の興味に合わせてアップ・ツウ・デートな事件について報告させる。

後期には、前期の実績の上にたち、あるときは憲法、あるときは民法、あるときは刑法といったごとくに毎週テーマをかえて現代社会が直面している問題を扱う。関連する判例、事例の調査をして全員で討論をし、法とは何か、法は如何にあるべきかを再考する。

参考書類は、適宜指示する。但し、法律に関する自分の興味を喚起しておき、初回の授業時にそれを発表できるようにしておかれたい。また、進級レポートは必修とする。

日本国憲法 (4)　　教　授　酒井文夫

一般教育科目としての日本国憲法 (現行憲法) を学ぶに際しては、第一に日本近代史の歩みを勉強すること、第二に明治憲法の特質を知っておくべきこと、第三に欧米近代の憲法思想について理解を深めておくことが大切である。以上の三視点を念頭に置いて、次の順序に従い、講義を行いたい。

Ⅰ. 明治維新の意義と特質
Ⅱ. 明治憲法の制定過程
Ⅲ. 明治憲法の基本原理と特質
Ⅳ. 敗戦と現行憲法の制定課程
Ⅴ. 現行憲法の基本原理
　(1)国民主権
　(2)永久平和主義

(3)法の支配

(4)人権思想の要点

(5)権力分立制の要点

講義をうけるときは、必ず『ポケット六法』を教室に持参して欲しい。そして、私の講義内容を、真剣にノートに取って欲しい。

教科書　『ポケット六法（平成五年版）』星野英一・松尾浩也・塩野宏（有斐閣）

政治学　(4)　　教　　授　秋　吉　祐　子

本「政治学」の授業は政治現象について、各自の生活基盤となっている身近な領域（ミクロ）から、国際社会という大きな範囲（マクロ）に及んで観察し、、各自がそれらの意味や背景についてさらに探究する意識をもつようになることをめざす。

政治学の導入教科であることから本科目は政治現象を考察するうえで、基本的な（キーワード）概念、制度についての学習が主となる。

授業内容の理解を深めるための、ビデオ観賞、クラス討論等をとり入れる。

国際化社会に生きるために必要となっている意志伝達、意見交換の水準を高めるために、レポート作成（各授業後にテーマが与えられる）、ディベート（グループ対抗ディスカッション）も行なう。

具体的なスケジュール（シラバス）は最初の授業時に配布する。

備考　本授業は要求事項が多く、ハードであるが経験的には自主的かつ積極的にとり組む姿勢をもつ受講生は、得ることが多い。

教科書　『現代政治の基本知識』浦野起史他編著（北樹出版）

『図解世の中こうなっている　改訂・国会官庁のしくみ』(PHP 研究所)

政治学（政治経済学科）　(4)　　専任講師　鐸　木　昌　之

政治に関して興味をもつこと、また政治学的思考に慣れることを目的にする。政治現象を解明する理論の初歩を説明しながら、現実の政治現象を政治学的枠組みを使って解説していく。受講者は少なくとも新聞を毎日読んできて欲しい。

教科書　『現代政治学入門』篠原一・永井陽之助（有斐閣）

『職業としての政治』マックス・ウェーバー（岩波文庫）

参考書　「ジョゼフ・フーシェ」ツヴァイク（岩波文庫）

政治学演習　(2)　　教　　授　秋　吉　祐　子

1993年度の政治学演習は、地球規模で多角的に政治社会の現象を観察し、新しい政治学を模索することを目的とする。

授業形態は学生の発表、討論が中心であり、毎回レポート（１回1000字）を提出する。後記はディ

ベートをとり入れる。受講生は資料の収集、整理を行ない、報告や討論の準備をし、レポートを作成する等多くの時間と努力が要請される。

受講希望者は自主的、積極的に本授業に参加し、グループ学習に協力する意志をもつことを条件とする。受講生の決定は、面接によって確定する。

備考①１年次の政治学履修を条件とはしない。

②受講決定者は、春休みに指定の本を読み、ノートをとり、新学期最初の授業時に提出する。(1993年１月に具体的内容を発表する)

経済学 (4)　　教　授　石　部　公　男

一般教養の経済学であるので、経済学という学問分野に固執するのではなく、現代の経済現象全体について、基礎的な理解の糸口がつかめるように幅広い内容としたい。この意味から、伝統的な経済学の内容である経済理論と歴史、および政策との関連について概略を述べた後に、流通、金融、企業、会計といった商学や経営の分野にまで言及し、経済社会全体を理解するための基礎的知識の養成に意を払う。

具体的参考書等は授業中に適宜触れるようにするので、学生は指示された本を各自で読みこなしてゆくことが必要である。政治経済学部の学生はできるだけ履修することが望ましい。人文学部の学生と政経学部の学生に対する授業内容はほぼ同じであるが、政経学部の学生については、やや経済理論にウェートを置いた内容とする予定である。それは２年次以後、経済原論が必修となっているので、理論経済の基本と原論とのつながりを考えてのことである。テキストは場合によっては履修者の状態を見て、授業が始まった後、追加指定などの多少の変更もあり得る。

教科書　『経済社会と経済学』石部公男（学文社）

参考書①「経済学入門」(新版)　川口・熊谷・森嶋共著（有斐閣）

②「経済がわかる事典」山一証券経済研究所著（日本実業出版）

③「近代経済学」斎藤謹造編（有斐閣新書）

経済学（政治経済学科） (4)　　助　教　授　大　森　達　也

本講義は、必須ではありません。しかし、受講希望者の学生諸君にとっては、大学入学して最初の経済学の講議となります。諸君が経済学を好きになれるかどうかは、本講義の受講結果に左右されることも大いに考えられるのです。それだけでも、本講義がいかに重要のものか分かることと思います。

とりあえず、本講義では、経済学関連の他の講義受講全般に対する導入部として位置づけ、経済学の様々な側面を学習することを予定しています。例えば、経済学の成立の背景と現在の位置づけ、日本経済を知る上で必要となる経済統計の読み方や基礎的な経済理論などです。一年間で、こうした盛り沢山の内容を消化するためには、非常に講義のスピードは早くならざるを得ません。したがって、受講希望の学生諸君には、しっかりとした受講姿勢を持って本講義に望むことを期待します。

なお、本講義では、講義内容をもとにした小テストを毎週行うほか、前期および後期の筆記試験、レポートの提出などを必須とします。

教科書　『まんがDE入門経済学』西村和雄（日本評論社）

『入門経済学』伊東元重（日本評論社）

経済学演習　(2)　　教　授　石　部　公　男

一般教養の経済学の単位を修得したものを原則として対象とするが、2年次に経済学を平行履修しているものでも可とする。又各自で経済学を独習し、上記と同等以上の経済学の知識のある学生でも可。但し、全く経済学の知識の無い者は本演習を履修することを不可とする。

経済学全般について、理論、歴史、政策の各分野からグループ単位で発表者を決め、学生各自の発表形式で行う。発表グループは授業が始まってから決定するが、発表グループの学生は前もって全員にテーマを知らせ、責任をもって資料等を作成し、ゼミ員全員に配布する。

発表内容について全員で討論を行うが、私の方からも質問やコメントを適宜行う。

全員に対する使用テキスト等については開講後履修者に伝える。1年生で履修した経済学の授業で使用したテキスト類は全員が再読をしておく必要がある。一般教養の演習であるので、3年生になって経済原論の専門演習を履修する義務はない。しかし、経済原論（理論経済学）を3年の演習で履修しようとする者は本ゼミを履修するのが望ましい。教養演習という点を踏まえ、内容的には経済学とともに商学、会計学、商業及びそれらに関する法律等についても幅広く触れるので、学生は十分な学習が必要である。

〔参考資料〕

①「やさしい経済予測入門」PHP研究所（PHP. BUSINESS LIBRARY）

②「経済データの読み方」（岩波書店）

③「10大経済学派と続世界十五大経済学」（富士書房）

④「経済社会と経済学」（学文社）

⑤日経文庫「経済学基本用語辞典」（日本経済新聞社）

〔配布資料〕

「やさしい手形・小切手のはなし」他・全国銀行協会連合会編・・・全員無料配布の予定

社会学　(4)　　助　教　授　土　方　　透

社会学とは、その名の示すとおり「社会」を対象とする学問である。しかし、この複雑な社会と対決するためには、それ相応の準備が要求されよう。まず攻略するための弾薬（概念）が必要であり、さらにまた作戦（理論・学説）が欠かせない。

本講義は、社会学の基礎概念を受講者にまとめてもらう作業を並行しつつ、講義者がその概念を中心に理論・学説の展開を示すといった方法をとることで社会学の立体的把握を試みる。さらに、こう

した把握を通して、従来の理論・学説を成り立たせている背景に言及し、加えてその背景に対して学が現在到達した成果からのアプローチを展開する。

従って、講義の内容は、広く社会学を越え、社会科学全般また必要とあらば、科学一般にまで及ぶこととなる。すなわち、既存の諸々の学問の成果を武器に、「社会」なるものの解明に挑むのである。

いわゆる教科書的な理解、把握を越え、それが現在、学としての社会学にどのような問題を投げかけているか、さらに現代社会における問題をどのように解明しうるか、という点にまで言及したい。

教科書　教室で指示する。

社会学演習　(2)　　助教授　土方　透

現代社会は、それを構成する要素の算術的増加と、その諸要素間の関係数の幾何級数的増加により、限りなく「複雑である」といわれている。また、こうした複雑な社会にあって、我々をとりまく情報の量は、もはや豊富という域を凌駕し、過多といってよい。しかし、この「複雑」という言葉の意味するところは、単なる無秩序やカオスではない。複雑であるがゆえに、それ相応のメカニズムを有し、またその解明に向けて学問が成立するのである。このような社会のなかで、我々がすべての情報を入手し、さらに把握・理解することは不可能である。我々は選択しなければならない。

本ゼミは、広く社会科学・人文科学にあって社会学の領域で評価されている著作を選択し、その多読を心がける。とりあえず社会科学系・人文科学系を問わず、一般に学生に要求される教養を広く身につけることで、どこに出しても恥ずかしくない学生の育成を試みたい。

大学における高等教育は、教員から学生にたいして行われる一方的な講義よりも、むしろ学問的真理を介し個人的な交流を通じてなされるゼミナールにこそ、その醍醐味があるといえよう。したがって各ゼミ員は、ゼミナールの参加にあたって、相当の準備が要求されることを覚悟してほしい。そうした学生の積極的・能動的参加なくしては、有意義なゼミは成立しえないからである。目安として、岩波新書程度のものであれば、週に最低一冊は読むことがゼミ参加の条件となろう。それが、最高学府たる大学に所属する学生のマナー・常識というものである。それ以外、履修に当たっての条件は、とくに設けない。

宗教学　(4)　　教授　J. D.リード

宗教学の歴史、主な理論、現代の宗教学会における主な研究テーマに関する紹介。

教科書　『世界の宗教』岸本英夫編（大明堂）

宗教学演習　(2)　　教授　J. D.リード

日本社会を中心に祭、通過儀礼、祖先儀礼などの宗教現象について学ぶ。

教科書　『宗教学とは何か』柳川啓一（法蔵館）

『現代救済宗教論』島薗　進（青弓社）

文化人類学 (4)　　講　師　関　三　雄

文化人類学（Cultual Anthropology）は新しい学問ではあるが、それなりに長い前史がある。見方によってはコロンブスと共に始まるといってよい。ともかくも、人間と文化をより包括的に捉えようとするのが文化人類学といえるであろう。

本講義では基本的な理論や観念をなるべく具体的素材を使いながら説明する。材料はわれわれの周りにいくらでもころがっているのである。

聴講する学生諸君には頭脳の柔らかい好奇心の旺盛な人たちを期待する。

教科書　『文化人類学入門』祖父江孝男（中公新書）

参考書　「文化の気まぐれ」関三雄著（㈱フォーユー）

心理学 (4)　　教　授　丸　山　久美子

一般教育に必要な心理学の知識を前期はゲシュタルト学派の実験研究を中心に、後期は行動主義学派の実験研究を中心に講義する。

教科書　『図解心理学』福屋武人監（学術図書）

心理学演習（政治経済学科） (2)　　教　授　丸　山　久美子

精神分析学の二人の学祖フロイトとユングに関する理論の相違を日本人の視点から検討する。一般教育の心理学を受講した学生に限定する。

参考文献

1．精神分析の理論　　C．ブレナー（山根訳）誠信書房

2．フロイドの系譜　　J. A.ブラウン（宇津木訳）誠信書房

3．夢の意味（ユング心理学概説）　　C. A.マイヤー（河合訳）創元社

4．フロイトとユング　　小此木啓吾、河合隼雄　思索社

5．ユングとポスト・ユンギアン　　A．サミュエルズ（村本訳）創元社

心理学演習（欧米文化・児童学科） (2)　　教　授　丸　山　久美子

現代の病理：ナルシシズムという現象を精神分析の観点から分析し、青年の悲哀喪失の裏にかくされた幼児期の母子分離不安に関する臨床心理学的考察を行う。

参考文献

1．精神分析の理論　　C．ブレナー　（山根訳）誠信書房

2．家族依存症　　斉藤　学　誠信書房

3．自己愛人間　　小此木啓吾　朝日出版社

4．コフートの心理療法　　中西信夫　ナカニシヤ出版

5．ナルシシズムという病い　　A．ローウェン　（森下訳）　新曜社

6．ダンディズム　　山田　勝　NHKブックス

情報文化演習 (2)　　講　　師　岩　渕　美　克

1．講義のねらい　　本演習に於いては、情報化社会といわれる現代において社会に散在する様々な情報の意味とその役割についての理解を深めていくことにより、現代社会を的確に理解することを目的とする。また、その過程の中で、社会に対して決して傍観者にならず、社会内の自分の立場、役割に付いても考えてもらいたい。

2．講義の内容・年間スケジュール

A）情報とは何か；情報の定義、情報化社会の意味するもの等について、現実的な例に基づいて説明する。現代の特徴を表すことは、事象について各々の意見を交換する（4～6回）。

B）情報媒体とは；情報媒体としてのマス・メディアの機能や現実での働きについて、学生同士の討論形式によって、自らの考えを検討し合う（5～7回）。

C）グループ研究；本演習を通じて芽生えた、あるいは以前より持っていた自らの問題意識にしたがって、いくつかのグループに分かれて研究発表を行う（6～8回）。

この成果は、秋の学園祭に於いて、発表する。

D）レポート作成；各グループの研究発表を修正し、その結果をレポートとして提出する（3回）。

3．受講生への希望　　本演習は、講義とは異なり、受講生の旺盛な参加意欲によって充実したものとなり得る。したがって、積極的な態度で演習に臨んでもらいたい。積極的な態度に対しては結果如何に関わらず評価をくだしていきたい。また、演習では知識のみならず、さまざまな考え方等も学んでほしい。

アメリカ文化演習 (2)　　教　　授　平　　良

この演習はオグルソープ大学に夏期留学をする者に提供される。アメリカで学習するに当り、アメリカについての「常識」がないことから理解出来ないことが少くないので、留学前に最小限度の「常識」を持つ必要がある。

前期は演習を行い、オグルソープ大学に留学後レポートの提出を求める。成績は演習への参加、オグルソープ大学での成績、帰国後のレポートを総合して評価する。

演習開講予定日は別に通知する。

教科書　『概説アメリカ史』有賀貞他（有斐閣）

3) 自然の分野

生物学 (4)　　教　　授　志　田　俊　郎

生物学が取り扱う範囲はずい分広いものであるが、この授業でとり上げるのはそのうちのごく一部（例：物質循環、公害、遺伝、進化、脳、血液、酒等々）である。内容、教材は受講生諸君が仮りに高校時代生物を履習していなくても十分理解できるように工夫してある。また、取り上げ方も高校生物のように、何かを憶え込むとか、計算式をたてて答えを出す、などということも要求しない。そうではなくて、現在我々人類がかかえている諸問題のうちで生物学がかかわりをもつ部分にスポットをあて、問題をどうとらえ、どう考えていったら少しでも改善の方向へむかえるのかということを考えてほしい。暗記を禁ずる。

教科書　『*Syllabus of Biology*』SATO & SHIDA

生物学演習 (2)　　教　　授　志　田　俊　郎

この演習は簡単な実験と講義とから成る。実験の内容は Syllabus of Biology にのっている、クロロフィルの分析、果実の実験、豆腐作り、牛乳の実験等々以外に、石けん作り、草木染め、ヨーグルト作り、組織培養等も予定されている。このような実験を通して、生命の大切さと、生物の不思議さを学び、また医学、農学、薬学といった応用生物学の分野にも目をむけていく。さらに最近話題になっているバイオインダストリーへのアプローチも試みるつもりである。食品、アルコール飲料等の製造工場見学も予定している。

自然科学概論 (4)　　教　　授　標　　宣　男

現代の科学は，その当初からこのような形で存在したわけではなく、その背後に長い歴史を持つ。本講では、古代から現代までの自然科学の歴史を概括する。まず古代オリエントから始め、ギリシャ・ローマ等の古代の自然観に触れ、ついでルネッサンスを経て近代自然科学の基礎ができたヨーロッパ17世紀の「科学革命」について学びたい。特に各時代の思想と自然観又宇宙観の関係、キリスト教と自然科学の関係について考えてみたい。さらに近代以後現代にいたる科学の発展についていくつかのトピックスを中心に講ずることにする。本講により自然科学という人類の知的創造物の意義を理解したい。

教科書　新版『科学とは何か』八杉龍一（東京教学者）

自然科学演習 (2)　　教　　授　標　　宣　男

現代科学は自然の奥深くに潜む秘密を明らかにし、その結果大きな利益を我々は手にいれた。特に原子力は、得られるエネルギーの巨大さから現代の科学技術社会を支える大きな要素の１つとなっている。しかしその反面その危険性も指摘され、米ソで起きた２つの巨大事故によりそれが現実的なものとなったことは未だ記憶に新しい。特に原子力事故の場合の危険性は放射線が主役を演ずる点が他

の諸産業で起る事故とは異る。本演習ではこの放射線とは何であるか、なぜ恐れられるのか、放射線を防ぐ為にはどうしたら良いか、又人体は放射線に対しどのように反応するのか等を以下に示す２つの書物により学ぶことにする。

科学技術の時代の問題に特に興味を持っている学生の参加を希望する。

教科書　『放射能を考える』森永晴彦（講談社）

改訂新版『人は放射能になぜ弱いか』近藤宗平（同上）

科学技術論　(4)　　教　授　標　宣　男

技術の歴史は人類の誕生とともに始まるといっても過言ではないであろう。

事実いかなる古代文明も独自の技術の歴史を持っていた。しかし、その技術が現代のような巨大なものとなるためには科学との結び付きが必要であった。科学は17世紀に西欧に成立した特異な自然観であるが、その大きな功績の１つは「エネルギー」なる概念とその「保存則」さらにエントロピーなる概念を自然現象の背後に見出したことである。実際、物質の質量まで含めた「エネルギー」の保存則は現代科学の中心的基本法則である。このエネルギー保存則の技術への応用こそ、科学が力であることを示し、現代科学技術文明を成立させた最大の要因であり、エントロピーの法則こそ「エネルギー」の持つ現代の問題を明瞭に示すものであるといえよう。

本講では、以上の点を考え科学技術論として「エネルギー問題」を取上げることとする。我々は日々様々な種類のエネルギーを消費して生活しているが、それらのエネルギーについて発生原理、変換法則について具体的に学ぶ。さらに、エネルギーはその影響力の大きさ故に様々な問題（例えば安全性や酸性雨）をかかえているが、それらについても「エントロピーの法則」にも言及しつつ理解を深めていくと同時に、予想される将来のエネルギー源についても言及する。

講義には特定の教科書は用いないが、参考として下記の書物を挙げる。なお講義の中で時々レポートを提出させる。

参考書　「エネルギー最前線」加納時男（NHK ブックス）

「エネルギー新時代」芽　陽一（㈶省エネルギーセンター）

物理学　(4)　　教　授　標　宣　男

現代は科学技術の時代と呼ばれるが、物理学はこの科学技術を支える学問の１つである。従ってその理解は現代を知る上で大きな役割をはたす。本講では、力、エネルギー、熱、電磁波、原子等物理学の基礎と考えられる項目について触れ、物理とは物質をいかに見ていかに取扱うものであるかを学びたい。物理学は数学と関係の深い学問である。文化系の授業であるところからなるべく数学を用いずに概念の把握に重点を置くが、数学を全く排除することは出来ない。代数的な多少の知識および微積分学の初歩的知識を必要とする。本講により現代物理の自然観を把握したい。

教科書　『光と物質』桜井邦明（東京教学社）

化　学（政治経済学科）　(4)　　講　　師　厚　東　伸　佶

自然科学（natural science）の中にあって、化学（chemistry）は物質を物質としてみる唯一の学問である。『ある物質が別の物質に変化する』事象は化学が取扱う。本講では物質の製造を行う化学産業を中軸に、エネルギー、環境、衣食住、医療、先端技術などへの化学の関わりを取り扱いたい。

1．基礎化学通論（原子、分子、結合、分子形状、化学反応、状態）
2．エネルギーと化学（石油精製、燃料、バイオマス）
3．環境と化学（農薬、廃棄物）
4．衣食住と化学（繊維、食品、建材）
5．医療と化学（医薬品、医用材料、洗剤）
6．先端技術と化学（電子材料、感光剤、セラミックス）

参考書　「文科系のための現代の化学」渡辺　啓（日新出版）（B－c）
「社会科学系の化学」尾藤忠旦（槇書店）（B－c）
「化学一般…生活に関係深い物質」高瀬慎一郎（三共出版）（B－c）

化学（欧米文化・児童学科）　(4)　　講　　師　厚　東　伸　佶

自然科学（natural science）の中にあって、化学（chemistry）は物質を物質としてみる唯一の学問である。『ある物質が別の物質に変化する』事象は化学が取扱う。本講では自然と人工物の中での生活一般を中軸に、様々な化学関連事項を取り扱いたい。

1．基礎化学通論（原子、分子、結合、分子形状、化学反応、状態）
2．色と化学（染料、花、写真、視覚物質、指示薬、着色剤、絵具）
3．味と化学（人工甘味、旨味）
4．匂いと化学（香粧品、着香剤）
5．医療と化学（医療品、医用材料）
6．生活用品と化学（建材、食器、衣類）
7．聖書と化学
8．園芸と化学（農薬）
9．廃棄物と化学（毒劇物、危険物）

参考書　「文科系のための現代の化学」渡辺　啓（日新出版）（B－c）
「生活の化学」千谷利三・和田悟朗（三共出版）（B－c）
「自然化学」中島豊比古・高原光子（開成出版）（B－c）

数　学（政治経済学科）　(4)　　講　　師　土　田　喜　輔

数学は現代において自然科学はもとより経済理論の分野においても一つの言語である。数学の中で微分積分学は重要な基礎であるのでこれを学ぶことは大切である。大学での微積分は高校段階におけ

るものと素材は似ているが調理の仕方が異なる。この講義では出来るだけ平易をモットーにして味つけをする積りである。数学はどの分野でも段階的な性格をもつからそれを理解するには前にやったことを記憶する必要がある。従って、常に復習することが大事である。

教科書　『経営情報学のための微分積分』山田、石原、鑰山、進藤、坂野共（共立出版）

参考書　「微積分早わかり」秋山武太郎（日新出版）

数　学（欧米文化・児童学科）　(4)　　講　　師　土　田　喜　輔

現在の高度情報化社会において数学的な考え方が非常に尊重されている。それはさまざまな与えられた問題に対し本質的な役割を果している最小条件を見出しそれを根拠として理論を構成するにある。文科系の諸君が数学を毛嫌いする理由の一つに機械的な計算を操ることにあったと思う。この講義ではいわゆる数学的計算というものに無縁である。コンピューターサイエンスの基礎の役割を果す線形代数を通して数学的な考え方の面白さを味わって貰いたいと考えている。

教科書　『経営情報学のための線形代数』石原、坂野、鑰山、進藤、山田、長谷川共（共立出版）

参考書　「数学選書１　線型代数学」佐武一郎（常華房）

地　学　(4)　　教　　授　黒　部　　隆

地球とそれをとりまく広大な自然環境、そこに起こった遠い過去から現在までの自然現象、さらには未来の展望と地学の内容は広範である。

地球の長く大きな歴史において、私たちの生きている現在は、ほんの一瞬であり、一点にすぎない。

自然全体を総合的に把握するにしても、個別の知識が不十分であっては目的をはたすことができないのはもちろんである。自然個々の理解から正しい自然の全体像がつかめるのである。

ここでは、地球の表層部（教科書・Ⅰ章およびⅢ章）、地球内部に関連した諸問題（Ⅱ章）、地質構造・岩石・鉱物（Ⅳ章）および地史学的諸問題－古生物・古生態－（Ⅴ章）についてのべる。

教科書　『地球科学汎説』井東澄雄編著（八千代出版）

地学演習　(2)　　教　　授　黒　部　　隆

地学の理解を深め、とくに自然に対する総合的な、歴史的な観方を学びとることが重要な意味をもつものと思われる。地球上に生活する人間にとっては、自然環境を正確に知ることが必要である。

現在に一番近い過去、「人類の時代」ともいわれる過去200万年の多彩な新生代第四紀という時代は地球の歴史の中でも特異な時代であり、いわゆる氷河の発達した時代である。何回もくり返し氷期と間氷期がおとずれ、海陸の分布、植生などは、この変化の中から現在のような姿になった。現在の自然環境の大部分がこの時代に直接的な起源をもっている。第四紀という時代はいわば日本島の完成時代である。

第四紀の日本に深い関心と、特に積極的に学ぶ意欲をもった諸君とともに自然史の正しい認識を得

たい。

環境学（政治経済学科） (4)　　専任講師　村　上　公　久

キーワード：‘人間－環境’系、地球環境問題、保続的開発

1970年から現在まで、即ち学生諸君の平均年令に相当するこの20年間の間に、我々の地球の環境は、急速に悪化した。この間日本列島の約６倍の面積の森林が失われ、中国の耕地面積に相当する陸地が砂漠化した。東西両陣営の対立が解消しつつあり核戦争の脅威が減少しつつある今日、世界的規模での最大の問題は環境の急激な悪化による生物圏の全的壊滅の危険、すなわち地球環境問題である。この科目ではシステム「‘人間－環境’」系を考察し、全的壊滅を回避させる殆ど唯一の戦略「保存的開発」の可能性を探る。

1．さまざまな自然観

　　世界各地の自然（気候、植生、景観、風土、人々の自然観）

　　わが国の自然、風土の特徴

2．‘人間－環境’系

　　主体（人間）と環境の相互関係（呼応関係）によって形成されるシステムとしての「‘人間－環境’系」

3．「地を治めよ」（旧約聖書　創世紀１：28）

　　主体（人間）が帯びている生物圏への責任

4．エコロジーに関する概念

　　生物圏の理解

　　エントロピーの概念

5．人工増加と、環境・天然資源

　　人工爆発を支えるための再生可能な資源

6．地球環境問題

　　地球サミット「アジェンダ21」の検討

7．新しい課題「保続的（持続的）開発」

8．「宇宙船地球号」から「地球村」へ

環境問題に関する、実際的な理解と解決への試みについては、主として専門教育科目「環境計画論」で扱う。

環境学（欧米文化・児童学科） (4)　　専任講師　村　上　公　久

キーワード：‘人間－環境’系，地球環境問題，保続的開発

1970年から現在まで、即ち学生諸君の平均年令に相当するこの20年間の間に、我々の地球の環境は、急速に悪化した。この間日本列島の約６倍の面積の森林が失われ、中国の耕地面積に相当する陸地が

砂漠化した。東西両陣営の対立が解消しつつあり核戦争の脅威が減少しつつある今日、世界的規模での最大の問題は環境の急激な悪化による生物圏の全的壊滅の危険、すなわち地球環境問題である。この科目ではシステム「'人間－環境'」系を考察し、全的壊滅を回避させる殆ど唯一の戦略「保続的開発」の可能を探る。

1．さまざまな自然観

　　世界各地の自然（気候、植生、景観、風土・人々の自然観）

　　わが国の自然、風土の特徴

2．'人間－環境'系

　　主体（人間）と環境の相互関係（呼応関係）によって形成されるシステムとしての「'人間－環境'系」

3．「地を治めよ」（旧約聖書　創世紀１：28）

　　主体（人間）が帯びている生物圏への責任

4．エコロジーに関する概念

　　生物圏の理解

　　エントロピーの概念

5．人工増加と、環境・天然資源

　　人工爆発を支えるための再生可能な資源

6．地球環境問題

　　地球サミット「アジェンダ21」の検討

7．新しい課題「保続的（持続的）開発」

8．「宇宙船地球号」から「地球村」へ

人文学部において本科目は一般教育科目として環境問題について広く理解を供する共に、専門科目「現代文明と環境」の基礎科目の性格を持っている。

「現代文明と環境」を受講する予定の者は、本科目を受講しておくことが、望ましい。

環境学演習　(2)　　専任講師　村上公久

キーワード：地球環境問題、保続的開発、事例研究

この科目ではシステム「'人間－環境'系」を考察し、地球環境問題に関する研究報告を検討し、事例研究を中心に保続的開発の可能性を探る。

概略Ⅰ．地球環境問題に関する報告書を学ぶ。

　　Ⅱ．各報告書を分析し、比較検討する。

　　Ⅲ．「保続的（持続的）開発」の方策を検討する。

　　Ⅳ．「保続的（持続的）開発」の事例を研究する。

内容Ⅰ．地球環境問題に関する各報告書よりテキストを抜粋して用いる。

・The Global 2000 Report（1982「西暦2000年の地球」）

Council on Environmental Quality, The White House カーター大統領によって作成されレーガン大統領によって無視された、西暦2000年の地球環境を予測した報告書　この報告書以前の代表的諸報告書を含めて学ぶ

・Our Common Future（1987）

World Commission on Environment and Development, Sustainable Development を最初に提唱し、UNCED（地球サミット）の基本理念を提供した報告書

・State of The World（1987～　各年度版「地球白書」）

Lester Brown et al. World Watch Institute, Environmental Revolution（環境革命）という新しい概念を中心に L. Brown と村上の研究交流を含め学ぶ

・World Watch Institute Reports

World Watch Institute,モノグラフより数種を選んで学ぶ

・Agenda21（UNCED 地球サミットの総括宣言）

・「環境基本法の案文」（1992）日本国政府法案

現行の「公害防止法」を廃し Agenda21（UNCED）の我が国における取り組みの基本を示す法案、を検討する。

Ⅱ．各報告書を分析し、比較検討する。

例えば、Julian L. Simon v. s. Herman Kahn の論争を検討する

Ⅲ．Sustainable Development「保続的（持続的）開発」の方策を検討しその可能性を探る。特に、Renewable Resources を中心に検討する

Ⅳ．「保続的（持続的）開発」の事例を研究し、環境保全と開発を考えると共に、特に開発途上国における保続的開発を考える。

BIOSPHERE－２（Space Biosphere Venture,モンスーン、海洋、熱帯降雨林、砂漠を人工装置内に再現したミニ地球での生活実験）

Yellowstone National Park の森林火災処理

村上のプロジェクト「BIO－REFOR（熱帯林再生研究者連合）」

村上の研究「Agro－Forestry の総合流域管理における位置」

Ⅰ．とⅡ．を並行して進め、その後Ⅲ．Ⅳ．を研究する。

教材、資料は順次　受講生全員に配布する。

英文の資料を大量に読みこなす努力が要求される。

健康科学演習　(2)　　助教授　鈴木　明

人間がその生涯の各年齢段階において活力に満ちた、しかも明るく豊かな生活を実現できることは、

生きがいのある人生を全うする上での基盤である。健康の維持増進はこのことと深く関係している。

健康の基礎は日々の暮らしの中にあり、食生活、運動、勉学、労働などを中心とした生活習慣と環境の長年にわたる相互作用が健康状態に大きな影響を及ぼしている。またその予防にはその年代に応じた適切な栄養、運動および休養を基礎とした生活の改善が必要となる。すなわち従来のように、単に疾病から逃れるだけの消極的な対応では不充分であり、医学をはじめ、栄養学、体育学、心理学、社会学など、総合的な視野のもとに、積極的な実践を通して各人が自分に適した健康な生活(Quality of Life) を獲得することが要求される。

本演習は今年度から開講するものであるが、とくに健康教育学の視点から行う。したがって、単に疾病の講義ではなく、個人および集団の健康を守るために必要な基礎知識の他、食生活、運動生理等を含めた健康獲得への実戦対策を示す。とくに成人病の低年齢化やエイズなど、今日問題になっている健康問題を中心に進めていく。全員が課題を持ち、後期には、個人及びグループ発表、質疑応答を中心に行っていく。参考書は開講時に紹介する。履修条件はとくにないが、新書程度の本を毎週一冊読んでいく努力が必要である。

2．外国語科目（全学科共通）

英　語Ⅰ（政治経済学科）　(2)　　教　　授　杉　本　栄　司

前期では、すでに諸君が高校で学んだ英語力で充分読みこなせる程度の、比較的平易なテクストを用いる。しかしその内容は社会の各分野（政治・経済・文化等）から選んだ話題で、さまざまな状況下で使われる英語を勉強し、英語への興味、話題の幅を広げるのに役立つものである。諸君には相当量の練習問題を課し、内容理解のための技術訓練につとめるよう指導する。英語力というものは、スポーツや音楽などの練習と同じように、修練を積めば高まるが、量が少なかったり、練習を怠ったりすればたちどころに低下するものである。常に心がけて練習し、練習に充分時間をかけなければならない。予習をして授業に出ることを鉄則とする。各自が到達目標をかかげ、それに向かって励むことが大切である。テクスト本文はテープにとり、自宅で、暗記するぐらい繰返し繰返し声を出して「読み込む」ように心がけること。政治経済を専攻する諸君が意志伝達の手段として英語を駆使できるということは素晴しいことである。ひとつまたひとつと言葉の意味や用法がわかり、発声化され、自己表現の手段となっていくのは楽しみであり、喜びである。予習も復習もそのためにあることを憶えておいてほしい。

教科書　『*Do Not Foreign Me*』T, Hakes 他（三修社）
　　『*Active Listening*』R, Northridge（成美堂）

英　語Ⅰ（政治経済学科）　(2)　　助　教　授　柴　田　史　子

「辞書で単語の意味を調べて訳す」という英語の読み方を脱して、少々意味のわからない単語があっても文脈から推測して意味を補い、書き手が伝えたいことは何か、それはテキストのどの部分に述べられているかをつねに考えながら読む積極的な読みの態度を養い、文章の内容や情報を直接英語で読みとる練習をする。

さらに、リスニングの訓練を行ない、総合的な英語力の養成をはかる。

教科書　『*An Interactive Approach to Successful Reading*』Hiroko Tajika（三修社）
　　『*Listening Challenge*』Helen Donald Timothy Kiggell（Macmillan Language House）

英　語Ⅰ（政治経済学科）　(2)　　講　　師　坂　東　シゲ子

今日の社会は国際化社会といえます。特に経済と情報の国際化は、高度になっています。人の国際化も進んでいます。今ここで「国際化とは何か」、「国際人になるにはどうすればよいか」、について、テキストを通して考えてみたいと思います。

授業は１講義で３ページ位読む予定です。英文を英語で理解できるよう技術訓練を指導することにつとめます。英語の収得は、毎日の練習の積み重ねであることを忘れずに、充分の予習をして授業に出ることを望みます。

教科書　『*The Meaning of Internationalization*』Edwin O. Reischauer（成美堂）

英　語Ⅰ（政治経済学科）　(2)　　講　　師　藤　原　博　道

今日のあまりに発達した文明社会に生きる者は、老若男女を問わず、何らかの精神的な圧迫を受け、身体的消耗を強いられずにはいられない。心身のバランスを突き崩そうとする因子に満ちているのが、他ならぬ現代であり、このところを十二分に理解している著者は、親しみにあふれた語り口で、心身両面にわたる健康法を具体的に説いている。

学生諸君には、しっかり予習をして授業に臨んでもらいたい。テープも適宜に活用する。また、英字新聞などのプリントも併用して、授業内容の充実に努めたいと思う。テキストは、年間を通じて、6～7課をこなす予定である。

教科書　『*Peace of Heart*』Peter Milward（NCI）

英　語Ⅰ（政治経済学科）　(2)　　講　　師　保　永　美和子

これからの世界を担って行く貴方がたが、今、世界で実際に共通語として役立っている英語を使えるようになるのは素晴しい事である。

この授業では、新聞記事を題材にして、読解、聴解等の問題を組み合わせたテキストを使用し、英語力の向上と同時に英字新聞を読めるようになる事を目指す。必ず充分な予習をすること。また音読は大変有効であるから繰返し音読すること。語彙を増やし定着させる事が大切であるから、度々単語テストを行う。これと平行して、実際的で楽しい内容の listening 教材を用いて、神経を集中して情報を聞き取る練習を行う。また、時々、愉快な小話の dictation をしたり、実用的な英語の quiz をする。この様に種々の方面から英語を勉強することによって、英語力の向上を目指す。時間をかけて予習をし、繰返し練習して、習ったことを身につけてもらいたい。

教科書　『*Multiple Approaches to Communicative English*』森田彰他（三修社）
　　『*Listen for It*』Richards, Gordon & Harper（Oxford Univ, Press）

英　語Ⅱ（政治経済学科）　(2)　　教　　授　寺　田　正　義

この授業では、時事、社会問題を題材にしたトピック別の英語表現を学んでいきます。あわせて、LL 教室で会話表現の聴解および表現訓練を行います。

教科書　『*How to Express Current Topics in English*』長江芳夫他編（英潮社）

英　語Ⅱ（政治経済学科）　(2)　　教　　授　山　本　鐐　造

諸君が高校で学んできた教材は、たとえば文学などは高校生用の単語や文法にやさしく書き換えたものであったり、高校水準の語句に縛られた範囲内で作成されている。

大学の英語はその制約がないから、文学書の原典に接し、作家の意気込みや雰囲気に直接ふれるこ

とができる。また専門書や実務の英文に接すれば、実社会に使われている英語の広さと深さを知ることができる。

英語はまたキリスト教国である英国、米国で発達してきた言語であるから、文学の表面や裏にはその精神と文化が込められているし、読めば読むほど味も出る。

英語IIは〝reading comprehension and writing″であるから、単語の予習は当然必要である。

テキストは適当なものを選び、必要に応じてプリントで支給する。

英　語II（政治経済学科）　(2)　　講　　師　近　内　トク子

今や地球を取りまく環境は、水、土、空気いずれをとっても、人間の手で汚されています。地球を美しく保つには、私たちが何をし、何をしてはいけないかを学びながら、英語に習熟して行きたいと思います。英語の基礎は文型の理解にありますので、最初の数時間は、文型演習に当てます。

教科書　『Another Green World』John Lander（金星堂）

『基本英文法作文演習』徳永守儀（成美堂）

英　語II（政治経済学科）　(2)　　講　　師　竹　野　一　雄

英語で書かれたテクストを読む力のレヴェル・アップをめざします。併せて、英字新聞を読むための基本的な語彙と語法の修得を目標とします。毎週、皆さんが充分に準備をし、熱意をもって授業に臨むことを期待します。

教科書　『*That's Your Opinion*』John McCaleb（朝日出版）

『*Newspaper English for Reading and Writing* 1992／1993』（弓書房）

英　語II（政治経済学科）　(2)　　講　　師　富　田　光　明

今日'国際化'という言葉をよく耳にするが、はたして我々日本人は、外国人とスムーズにつきあってきただろうか。中学から英語を勉強し、多少なりとも他の外国より、英語圏の文化を知っていると思っている我々が、いざ英語圏の人々と接したとき、思わぬ誤解をうむことが、たびたびある。これは、もはや言葉の問題ではなく、相手の文化の背景を知らないことによるものであろう。

この『異文化との出会い』というテキストは、カルチャー・ショックが、どのような状況で、どのような形となってあらわれるのかについて、日本女性がアメリカで体験したことに基づき、いくつかのエピソードで示している。我々読者は、これらのエピソードを読んで、すぐに良し悪しを決めるのではなく、そこに潜む深い文化の相違点を見い出し、それらを比較し、相手を正確に認識することである。これによって、我々は、アメリカ式の作法を無意識にとり入れることはなくなり、むしろ、いまゝで意識していなかった日本人の作法を再確認することになる。

さて、授業の進め方ではあるが、学生諸君は、各レッスンのエピソードの最初の部分（その課のテーマとなる）を十分理解してから、エピソードを読む。もし、わからない単語が出てきた時には、な

るべく『英英辞典』を用い、英語の説明でその単語の内容を理解するように努めることによって一層、英語というものが身近なものに感じてくる。各課の最後に記された「カルチャー・ノート」は、カルチャー・ショックを事前に防ぐよい方法を示している。授業では、この記事（材料）を参考にしながら、討論していきたい。

とにかく、学生諸君は欠席せず、よく予習をしてくること。出席及び発表を重視したい。

教科書　『異文化との出会い』小林純子、J. B. Altr（成美堂）

英　語II（政治経済学科）　(2)　　講　　師　藤　原　博　道

ここに収められている25篇の詩は、ミルワード教授が、エリザベス朝から19世紀末に至るおよそ三百年の間に書かれた、様々な詩人の代表作を集めたものである。

詩を理解するにあたって近道というものはない。読者百篇意自ら通ずという諺どおり、要は、詩の姿全体が現われてくるまで辛抱強く読み込むことである。暗唱してこそ自分のものとなる。

年間10～15篇を扱うが、作品の紹介記事をしっかり通読し、作品理解を深めたい。テープを併用し、朗読法にも触れ、英米の名演説もいくつか紹介するつもりである。

教科書　『英詩へのいざない』Peter Milward（鶴見書店）

英　語III（政治経済学科）　(2)　　助　教　授　H. バートンルイス

This course will build on basic communication skills which the students have already gained in high school, with improved listening and speaking ability as the goal. The first part of the course will concentrate on vocabulary building, and the final few weeks will emphasize listening analysis skills. Students will be expected to attend every class and to participate in classroom discussion and activities. There will be no single textbook for the course, but the instructor will prepare exercises and classroom materials.

英　語III（政治経済学科）　(2)　　講　　師　K. O. アンダスン

The purpose of this class is to practice daily English conversation and master a few basic idioms through student pairwork. There will be weekly homework assignments and two examinations a year. Grades will be based upon test scores, homework assignments, and class participation. Attendance is mandatory.

教科書　『*Interchange 1 Student' s Book*』Jack C. Richards（Cambridge University Press）

『*Interchange 1 Workbook*』Jack C. Richards（Cambridge University Press）

英　語III（政治経済学科）　(2)　　講　　師　A. レイチェルスン

Purpose : This English Conversation class is designed to increase students' comprehension of

English through a variety of methods.

Lessons will focus on several areas of interest to the student population.

Active participation in conversation will be the integralpart of the curriculum.

Topics will feature international understanding and intercultural communication as well as reading, writing, and the development of listening skills.

The course willnot be lecture－based, but emphasize interactive communication.

Topics : Two textbooks and a special English only learner's dictionary will be required:

1. Hearsay－Griffee/Hough
2. Coast to Coast Ⅰ －Harmer/Surguine
3. Longman Active Study Dictionary of English

Specific topics will include:

－Daily life
－Introductions
－Travel
－Money and Foreign Currency
－Numbers
－Customs
－Telephone Conversation

Grading ：	One major examination	25%
	Quizzes	15%
	Homework	10%
	Class porticipation/attendance	50%

教科書　『*Hear Say*』Dale T. Griffee and David Hough (Addison－Wesley Pubushers Japan ltd.
『*Coast to Coast1*』Jeremy Hormer and Harold Surguine (Longman)

参考書　「*Longman Active Study Dictionary of English*」(New edition withcdorillustrations)

英　語Ⅲ（政治経済学科）　(2)　　講　　師　B. ディレート

In this class there will be a focus on speaking and listening. Working with an intensive listening text, students will learn to listen to English as it is spoken

Naturally for speaking practice, students will improve their fluency as well as their accuracy through activities such as pair work and group discussion.

教科書　『*Hearsay*』Dale T Griffee (Addison Wesley Japan)

英　語III（政治経済学科）　(2)　　講　　師　R. D. バーガー

The purpose of this class is to introduce the studemt to spoken English. This includes practice in both understanding and producing spoken English.

教科書　『*Health talk*』Mc Bean Bert (Macmillan Language House)

英　語IV（政治経済学科）　(2)　　教　　授　寺　田　正　義

blind, deaf, dumb の三重苦を負わされたヘレン・ケラー女史の存在はあまりにも有名で説明を要しないと思うが、詳しいこととなると知らない人も多いと思う。この授業で扱うテキストは、ヘレン・ケラーが、アン・サリヴァンという師を得て、その言葉につくせぬ献身的な努力によって、闇の中から光明を見出していく過程が、淡々とした平明なスタイルで書かれている。人生とは何か、人間とは何かを英文を通じて共に考え、学びたいと思う。

教科書　『*The Story of My Life*』ヘレン・ケラー（成美堂）

英　語IV（政治経済学科）　(2)　　助　教　授　大　森　達　也

みなさんが中学から始めた英語学習は、この英語IVで８年を終えることになります。この間に英語がどれくらい身についたでしょうか？「ほとんど・・」と答える人が大多数なのではないですか。社会に出て、ヘラヘラでいるか、ペラペラでいるか、それは個人の選択です。できればあと２年、もう一度英語を学習しなおして欲しいですね。その出発点として、自分の英語がどの程度なのか知っておく必要があります。したがって、みなさんにとって、この英語IVは終着点であると同時に、出発点でもあるわけです。というわけで、今年度は基本にそって英文内容を正確に理解するための読解力を身につけることに重点をおき、授業をおこないます。

テキストは、最初の講義の時に指示します。

英　語IV（政治経済学科）　(2)　　助　教　授　柴　田　史　子

文章を読もうとするとき、それが母国語であれば、文章の種類や読む目的に応じて人は無意識のうちに速読、多読、精読などの読み方を選び、すでに持っている背景的知識も活用して内容を理解しようとする。そのような読み方が英語でもできるようにすることがこのクラスの目指すところである。

さらに、視聴覚教材を用いたリスニングの訓練を行い、総合的な英語力の養成をはかる。

教科書　『*Interactive Reading*』The JACET Committee (Asahi Press)

『*Japan Watching*』Kiyoshi Hasegawa (Seibido)

英　語IV（政治経済学科）　(2)　　講　　師　保　永　美和子

世界中で共通語として役立っている英語を理解し使いこなす力を身につける事を目標に、このクラスでは、内容を英語で理解できるよう考慮して授業を進める。テキストは、新聞記事を題材にして、

読解・聴解及び各種の練習問題があり、政治・経済・社会の方面の語彙がマスターできるよう配慮されたものである。しっかり勉強して社会科学の分野のものを楽に読めるようになって頂きたい。時々単語テストをして語彙の定着をはかる。これと平行して listening 教材を用いて聴解の練習を行い、また、愉快な小話の dictation や、実用的な英語の word game をして、種々の方面から勉強することで英語力を向上させたいと思う。

教科書　『*Day-to-Day Information 1993/94*』松井顕敏　白野伊津夫（弓プレス）

『*10-Minute TOEFL Listening Exercises*』及川正博，E.Johnson, P. Gobel（桐原書店）

英　語Ⅳ（政治経済学科）　(2)　　講　　師　三　浦　眞　理

毎日我々は英語を身近に感じながら生活し、それほど難しい国語とは誰も思っていないでしょう。しかし、読解力の不足、特に単語力の不足のため思うように身についていないのが現実ではないでしょうか。そこで、英語の読解力を身につけるためにテキストを出来るだけ多く読むことにします。そして、内容をまとめる力を養うと共に、必要な文法事項の再確認と大切な英語表現の学習をもきちんするとこを目標とします。またさらに理解を深めるために、読んだ文の内容についてディスカッションをし、個々人の考えを発表し合う場とします。従って、毎時間必ず予習し、授業には辞書を携帯することを厳守して下さい。

テキストは最初の講義の時に指示します。

英　語Ⅳ（政治経済学科）　(2)　　講　　師　望　月　浩　義

K. Ishiguro, G. Greene, M. Spark の短編小説を教材として使い、英文法の実際的な活用を総合的に学習していく。特に重要と思われる時制、人称、話法等の概念を復習し、語法の面では助動詞の用法を中心に学んでいく。一般の文法書ではあくまで基本的な助動詞が解説されているだけなので、授業では実際に英文の中で見られる様々な助動詞（推量、提案、助言等）の詳しい解説と小テストを繰り返し行う。

私的公的を問わず欠席届は一切受け取らない。毎回の出席は当然のことだが、また逆に出席だけでは単位は取れない。発表による評価、小テスト、前期後期試験などによって最終成績を算出し、素点重視とする。

公私に係わらず欠席届は一切受け取らない。毎回の出席は当然のことだが、また逆に出席だけでは単位は取れない。発表による評価、小テスト、前期後期試験などによって最終成績を算出し、素点重視とする。

教科書　『*New British Writing Past Dream and Beality*』

K. ISHIGURO G. GREENE, M. SPARK　（南雲堂）

『*Understanding and Using English Grammar 2nd. ed*』

Betty Schrampfer Azar　(Prentice Hall)

英　語Ⅳ（政治経済学科）　(2)　　講　　師　望　月　浩　義

M. Spark の短編を読む。一人称の語りで時間が前後するという形式の小説を教材にして、英文法の実際的な活用を総合的に学習していく。特に重要と思われる時制、人称、話法等の概念を復習し、語法の面では助動詞の用法を中心に学んでいく。一般の文法書ではあくまで基本的な助動詞が解説されているだけなので、授業では実際に英文の中で見られる様々な助動詞（推量、提案、助言等）の詳しい解説と小テストを繰り返し行う。

公私に係わらず欠席届は一切受け取らない。毎回の出席は当然のことだが、また逆に出席だけでは単位は取れない。発表による評価、小テスト、前期後期試験などによって最終成績を算出し、素点重視とする。

教科書　『*The Dark Glasses*』Muriel Spark（鶴見書店）

『*Understanding and Using English Grammar 2nd. ed*』

Betty Schrampfer Azar（Prentice Hall）

英　語Ⅳ（政治経済学科）　(2)　　講　　師　望　月　浩　義

現代イギリス作家の短編集をテキストに使う。特に日常的会話表現に注意して読んでもらいたい。イギリス語独特のスラングや日常表現が若干みられるが、全体的には気になるほどの片寄りはない。文法事項の復習だけに留まらず、高校では詳しく学習することを要求されなかった語法の面での学習にも力を入れていきたい。時制、人称、話法等を復習しながら授業を進め、さらに、小説を読む時に学習者が戸惑いがちな助動詞について新たに詳しく学んでいく。一般の文法書はあくまで助動詞の基本的用法が解説されているだけなので、授業では実際に英文の中で見られる様々な助動詞（推量、提案、助言等）の詳しい解説と小テストを繰り返し行う。

公私に係わらず欠席届は一切受け取らない。毎回の出席は当然のことだが、また逆に出席だけでは単位は取れない。発表による評価、小テスト、前期後期試験などによって最終成績を算出し、素点重視とする。

教科書　『現代珠玉短編集』J. Farjeon, L. Colwin John Wain など（朝日出版）

『*Understanding and Using English Grammar 2nd. ed*』

Betty Schrampfer Azar（Prentice Hall）

英　語Ⅰ（講読初級）（児童学科）　(2)　　教　　授　杉　本　栄　司

本年度は、ファンタスティックな童話で知られるジョージ・マクドナルドの作品を読み、物語をゆっくり鑑賞すると同時に、テープの朗読を聞いて作品を理解する練習もおこなう。またこの一年間に、夏休みなどを利用して、各自好きな作品を一篇選んで自分の実力で自分なりに童話風に和訳してもらう。

また、毎回英・米の日常生活からとったトピックスや会話を聞き、クイズやディクテーションをお

こない、かれらの生活や文化の諸事情を学びながら、役に立つ英語の練習もする。

教科書　『*The Golden Key*』George MacDonald（三修社）

『*Active Listening*』R. Northridge（成美堂）

英　語Ⅰ（講読初級）（欧米文化学科）　(2)　　教　　授　寺　田　正　義

精読と速読の訓練を中心に授業を行います。精読は時事英語に慣れるために英字新聞や雑誌から素材を得て読みます。速読はテキストとLL教室のマルチタイプのコンピュータを使用して行います。読解力と聴解力との相関も高いので、上記の訓練にあわせて聴解訓練も行います。

教科書　『*FASTER READING IN ENGLISH*』安藤昭一他（英潮社）

英　語Ⅰ（講読初級）（欧米文化学科）　(2)　　助　教　授　柴　田　史　子

文章を読もうとするとき、それが母国語であれば文章の種類や読む目的に応じて、人は無意識のうちに速読、多読、精読などの読み方を選び、すでに持っている背景的知識も活用して内容を理解しようとする。そのような読み方が英語でもできるようにすることがこのクラスの目指すところである。

さらに、視聴覚教材を用いたりリスニングの訓練を行い、総合的な英語力の養成をはかる。

教科書　『*Interactive Reading*』The JACET Committee（Asahi Press）

『*Japan Watching*』Kiyoshi Hasegawa（Seibido）

英　語Ⅰ（講読初級）（児童学科）　(2)　　助　教　授　柴　田　史　子

「辞書で単語の意味を調べて訳す」という英語の読み方を脱して、少々意味のわからない単語があっても文脈から推測して意味を補い、書き手が伝えようとしていることは何か、それはテキストのどの部分に述べられているかをつねに考えながら読む積極的な読みの態度を養い、文章の内容や情報を直接英語で読みとる練習をする。

さらに、リスニングの訓練を行ない、総合的な英語力の養成をはかる。

教科書　『*An Interactive Approach to Successful Reading*』Hiroko Tajika（三修社）

『*Listening Challenge*』Helen Donald, Timothy Kiggell（Macmillan Language House）

英　語Ⅰ（講読初級）（児童学科）　(2)　　教　　授　大井上　　滋

英語の発音、構造、語彙の意味をしっかり捉えて基礎を作る。内容の要点をはっきり捉るようにする。その上で、読みのスピードをあげる訓練をし、短時間にまとまった量の英文が読みこなせることを目標としたい。教材にはなるべく児童学科にふさわしいものを選びたい。とりあえず下記のテキストでスタートするが、年間に2、3回読めるようになることを望んでいる。

教科書　『*Stories of Americen Kids*』Johnson, Vaughn 他、飛田茂雄注（金星堂）

英　語Ⅰ（講読初級）（欧米文化学科）　(2)　　講　　師　千　田　明　夫

今日、複雑な日米関係を反映して、両国民が互いに相手国の国民性、社会と文化の様相について正しく認識すべき必要性に迫られている。授業では特にアメリカ人の価値観と生き方について具体的な例示によって学んでいく。と同時に、小テスト、レポート、英語による口頭発表などによって語学力の向上をはかる。

教科書　『*AMERICAN WAYS－For Better Understanding American People－*』

Gary Althen (Macmillan)

英　語Ⅱ（作文初級）（児童学科）　(2)　　教　　授　大井上　　滋

「これを英語で何というか」いつも身の廻りのことをそのように考える時間にしたい。とはいっても英語と日本語は、発想も構造も異なるので、その差異に注目し、またよい範例を、表現を覚えるのがよいと思われるので、下記のテキストを用いながら授業をすすめたい。こまかい文法的誤りに、こだわらず、意味が通じる文になるよう、学生諸君と一緒に考えながらの授業にしたい。

教科書　『*WRITNG AMERICA*』ジム・クヌーセン、小田卓（南雲堂）

英　語Ⅱ（作文初級）（欧米文化学科）　(2)　　講　　師　小貫山　信　夫

1．講義のねらい：英語で論旨の通った、まとまりのあるパラグラフを書けるようになること。

2．講義の内容および方法：最初に示された一節の文章を模範として言ったり書いたりする練習を積み重ね、徐々に変化を加えていく。話題は学生たちの生活に密着した事柄に関しているので、平素自分たちがよく使う表現を英語ではどう表現するのかを学ぶ。

3．年間のスケジュール：前期－1章から3章まで　後期－4章から6章まで。

4．受講生への要望：英文を読んだり、英語で話しをする間にも、英文を書くために役立つ表現を見つけて、頭の中に貯えるように心がけて欲しい。

教科書　『*A FIRST STEP TO PARAGRAPH WRITING*（日常英語の表現法）』

斎藤宏、Bruce M. Wilkerson（成美堂）

英　語Ⅱ（作文初級）（欧米文化学科）　(2)　　講　　師　小　島　　明

英作文というと頭から苦手だと思い込んで、敬遠してしまう学生が多い。日本語と英語という全くちがった言語体系に属する文章をブリッジして、意志が疎通できるようにするには、多くの困難を伴なうことは勿論である。しかし、これらの困難を乗り超えて日本語が英語でうまく表現できた時の喜びはまたひとしおである。

本講では文法やプラクティスに終始して、とかく無味乾燥になりがちな英作文の講義を、できるだけ興味あるものとするために、欧米の文化を紹介した文章を読んだり、ビデオテープを見たりして、英語が使われている社会の文化的背景を探りながら、英文を書く場合に必要な基礎的な知識が習得で

きるように指導したい。

なお、教科書は特に使わず、毎回次週分の教材をプリントして配布し、予習を義務づける。したがってできるだけ欠席しないように。

配布教材の例

○ Car Problems

○ The Logical American, the Emotional Japanese

○ Language Learning

○ The Federal Government

教科書　その都度プリントして配布する。

英　語II（作文初級）（児童学科）　(2)　　講　　師　近　内　トク子

英語の基本は、読む場合も、書く場合も、５文型を充分に理解し、５文型を基礎とした、さまざまなパターンに習熟することにあります。前半は５文型のさまざまな型の演習を行ない、後半は、本格的に英作の演習に入ります。

教科書　『ユニーク英作文Ｉ』中山常雄他（成美堂）

『基本英文法作文演習』徳永守儀他（成美堂）

英　語III（会話初級）（欧米文化・児童学科）　(2)　　専任講師　D. T. グリフィー

This course will practice listening and speaking. Your grade will come from attendance, participation and tests. We will use a textbook and other materials the instructor will provide.

教科書　欧米　『*More Hearsay*』D. Griffee (Addison-Wesley)

児童　『*Hearsay*』D. Griffee (Addison-Wesley)

『*The Chocolate Cake*』Carolyn Graham (Regents Prentice Hall)

英　語III（会話初級）（欧米文化学科）　(2)　　助　教　授　H. バートンルイス

This course will build on basic communication skills which the students have already gained in high school, with improved listening and speaking ability as the goal. The first part of the course will concentrate on vocabulary building, and the final few weeks will emphasize listening analysis skills. Students will be expected to attend every class and to participate in classroom discussion and activities. There will be no single textbook for the course, but the instructor will prepare exercises and classroom materials.

英　語III（会話初級）（児童学科）　(2)　　講　　師　B. G. アシュレー

This class will help the posticipants to use already learned English in an active, communicative

way. In addition, we will learn how to listen and respond to a variety of social, academic and everyday situstions. I expect the students to be outgoing and energetic. There will be no lectures so class time will be used for communication in ENGLISH between students and between students and teaches.

英　語Ⅳ（講読中級）（欧米文化学科）(2)　　教　　授　杉　本　栄　司

このクラスではテクストの内容を英語で理解し、英語で考える習慣を身につけるように指導したい。それにはテクストを繰返して読み、テープで何度も聞き、書いてみることが大切である。わたしたちの英語学習にはこれが決定的に欠けているように思われる。言葉の意味を日本語で知り、英文を日本語に訳して理解する作業はそれなりの意味をもってはいるが、例えばその英文の著者と内容について意見を交わす際にはなかなか大変であろう。人間関係をふまえた言語のダイナミズムをしっかり知って英語修得に取り組むことが重要である。

［この授業で使用するテクストは現代の日本についてのトピックスを数多く選び、これについて意見を述べるとき、どのような表現を用いたらよいかという点を考慮し、その向上を計るように編纂されている。もちろん表現法を習ってもそのための意見がなくてはだめである。学生は政治、経済、社会、宗教、文化、大学生活等について話題をたくわえ、それについてユニークな意見をもち、それを英語で言い表わすように努めることをすすめる。］

教室でのクラス・パフォーマンスを重視する。一回の授業を前半・後半に分け、前半ではテクストを中心に読解の訓練をして眼を養い、後半ではテープ教材を聞いて耳の訓練をする。

教科書　『*Human Problems of Today's World*』Brian Powle（金星堂）
　　『*Listening Time*』岡編（成美堂）

英　語Ⅳ（講読中級）（児童学科）　(2)　　教　　授　寺　田　正　義

blind, deaf, dumb の三重苦を負わされたヘレン・ケラー女子の存在はあまりにも有名で説明を要しないと思うが、詳しいこととなると知らない人も多いと思う。この授業で扱うテキストは、ヘレン・ケラーが、アン・サリヴァンという師を得て、その言葉につくせぬ献身的な努力によって、闇の中から光明を見出していく過程が、淡々とした平明なスタイルで書かれている。人生とは何か、人間とは何かを英文を通じて共に考え、学びたいと思う。

教科書　『*The Story of My Life*』ヘレン・ケラー（成美堂）

英　語Ⅳ（講読中級）（欧米文化学科）　(2)　　教　　授　大井上　　滋

読解の力、英語の読解力は、ある程度量がこなせなければならない。一回の授業で、短篇一篇ぐらいは読み終えるくらいの気持ちで臨めば、面白さもわかり、成就感もできて、さらに読みたいという

気になる。そのような観点から下記のアメリカ短篇集を選んだ。ただ効率的に読むというのでなく、アメリカ文化を支える人間のもろもろの姿を文学作品を通して深く考えるようにしたい。

教科書　『*AMERICAN SHORT STORIES OF TODAY*』

EDITED BY ESMOR JONES（南雲堂ペンギン）

英　語Ⅳ（講読中級）（児童学科）　(2)　　教　　授　大井上　　滋

読解の力、英語の読解力は、ある程度量がこなせなければならない。一回の授業で、短篇一篇ぐらいは読み終えるよう努力したい。そうすれば成就感も湧き、面白くなる。さらに読みたいと考えるようになる。テスキトに下記のものを選んだ、ごく短いのもあれば、比較的長いのもあるが、なるべく一回に一篇の目標ですすみたい。ただ効率的に読むだけでなく、文学作品を通して、人間性の深い問題もじっくりと読みこみたい。

教科書　『*AMERICAN SHORT STORIES OF TODAY*』

EDITED BY ESMOR JONES（南雲堂ペンギン）

英　語Ⅴ（作文中級）（児童学科）　(2)　　教　　授　大井上　　滋

文の構成、組立てを、文単位からパラグラフ単位へと、英語で表現することを、共に学びたいと思う。

教科書　『*WRITING English Paragraphs*』S.KATHLEEN KITAO, KENJI KITAO（英潮社）

英　語Ⅴ（作文中級）（欧米文化学科）　(2)　　講　　師　小貫山　信　夫

1．講義のねらい：英語に対する語感を高めるために、内容のわかっている身近な社会的問題を英語でどう表現するかを学ぶ。

2．講義の内容及び方法：テキストの各章は、導入部としての参考英文〔A〕、その内容に対する英問〔B〕、穴埋め問題〔C〕、英作問題〔D〕、ディクテーション〔E〕、関連語句〔F〕、参考囲み記事〔G〕から成り立っている。先ず〔A〕、〔B〕、〔C〕に当ってその単語に慣れてから、実際の英作〔D〕に取り組み、更に〔E〕、〔F〕、〔G〕によって、そのトピックスに対する英語の知識を補い固める。

3．年間のスケジュール：前期－１章から７章まで　後期－８章から14章まで。

4．受講生への要望：時事英語に慣れるために、英字新聞や英語週刊誌に親しむよう努めて欲しい。

教科書　『*WRITING CURRENT ENGLISH* 時事英作文〔新版〕』日本時事英語学会（研究社）

英　語Ⅴ（作文中級）（欧米文化学科）　(2)　　講　　師　小　島　　明

今日のような国際化社会では、単に英語が読めるだけなく、それを実際に運用して、私たちの思想や意見を外国人に説明し、理解してもらうことがますます必要になってきている。しかし、外国語で

ある英語で文章を書くことは、読んで意味を理解することよりも、はるかに難かしいことである。特に日本語は英語と言語体系が根本的にちがうので、発想自体を英語的に変えないと英語らしい文章は書けない。それには日英の発想上の相異点によく注目して、英語表現法の特徴を正しくつかみ、日本語に対応する英語の語彙を一つ一つ増やしていくことが必要である。このような努力の積み重ねによってのみ、英語らしい文章が書けるようになるのである。

本講では文法や英作文のプラクティスのみの無味乾燥な授業にならないように、ビデオテープなどの視聴覚教材を使って、英語が使われている社会の背景を探りながら、興味深い授業になるように努力したいと思っているが、諸君の方も毎回出される練習問題のホームワークを必ずやってくる努力をしてほしい。

教科書　『日米比較英作文入門』武田良一（英宝社）

英　語V（作文中級）（児童学科）　(2)　　講　師　坂　東　シゲ子

テキストのPresentationは散文形式と対話文形式が交互に採り入れてあり、Exerciseは単に和文英訳だけでなく、多くの実生活に密着した練習問題、例えば、税関申告書を記入したり、ある招待状に対して、返事を書かせるなどが採り入れてある。

このテキスト使用によって、今まで習った英語力を引き出し、日常生活が英語で表現出来るよう学習していただきたい。

教科書　『*EXPRESS YOUR VIEWS IN ENGLISH*』斉藤宏（成美堂）

英　語VI（会話中級）（児童学科）　(2)　　助　教　授　H. バートンルイス

For intermediate and advanced students who wish to improve overall English communication skills. The number of students will be limited, with every student expected to participate actively in each class session. There will be no textbook for this course, although prinyted handout materials will be distributed every week.

英　語VI（会話中級）（欧米文化・児童学科）　(2)　　専任講師　D. T. グリフィー

This course will practice listening and speaking. Your grade will come from attendance, participation and tests. We will use a textbook and other materials the instructor will provide.

教科書　欧文　『*More Hearsay*』D. Griffee（Addison－Wesley）

　　児童　『*Hearsay*』D. Griffee（Addison－Wesley）

　　『*The Chocolate Cake*』Carolyn Graham（Regents Prentice Hall）

英　語VI（会話中級）（欧米文化学科）　(2)　　専任講師　村　上　公　久

This course is designed for a learner who has gained basic ability in English to fulfill the

following three purposes: to be able to introduce himself / herself and his / her cultural background, to be able to express certain ideas in his / her own English, and to learn conversational expressions.

The student who is already competent in the rudiments of English grammar and conversation has good reason to feel disheartened when he / she encounters a situation in which he / she is required to discuss of general interest in the language. The reason for this is twofold. In the first place, he / she has at his / her command only a fairly limited vocabulary. If this problem is basically that of WHAT to speak, the second is related to HOW to speak. He / She is not quite at home with the wide range of syntactical variations and rhetorical devices that are necessary.

The answer for these problems is to be found in the lecture and the study materials provided through this course.

日本語Ⅰ（中級Ａ） (2) 講　師　佐々木　卓　爾

留学生と帰国子女の背景は多少異なるが、いずれも何年か予備期間、つまり初級日本語学習を経ている。そういう学生のために講義を行うのであり、大学で専門の勉強をやっていく場合の日本語の不足を補うことになる。学生の初級の課程で与えられた文法知識、たとえば各種の助詞の機能とか用言の活用形や補助形式の用法などを土台として、一般的に日本の大学で要求される理解・表現の型をとり出して実際に応用できる力を養っていく。そこで、ここで第一義とすることはやはり学生が講義が「よく聴ける」、本が「よく読める」ということになるが、第一年目は教科書の内容に関して話しができることに多少重点をおく。教科書は一年間で一冊終えるようにする。

教科書　『日本語表現文型』中級Ⅰ　筑波大学日本語教育研究会（凡人社）

日本語Ⅱ（中級Ｂ） (2) 講　師　佐々木　卓　爾

学生が日本の大学で要求される理解・表現の型をとり出し、それぞれの特徴について考え、実際に応用できる力を養うことを行うが、目標の講義が「よく聴ける」、本が「よく読める」ということのためには、十分理解し簡単な討議もできるようになる力をつけることが必要になってくる。それには、考えたことを表現できる前にまず書いてみて、それを表現力の土台にするという工夫も大切である。それで、そのような教科書の内容に基いた「書き方」の練習も随時とり入れていくつもりである。外国人が日本に来る場合はその国で日本語をならうのと異なり、外部で聴解のチャンスがあるが、読解力、書く力は学校で与えられなければならない。その意味から「書く表現力」をつけていく。

教科書　『日本語表現文型』中級Ⅱ　筑波大学日本語教育研究会（凡人社）

日本語Ⅲ（上級Ａ） (2) 講　師　佐々木　卓　爾

一応日本語ⅠⅡを土台とした中級日本語を、聞く（聴く）、読む段階で身につけた学生が、更に日本

の文化や文学表現を中心に多くの分野から多様な文章に接することを目標とする。つまり小説、評論、随筆のみならず、多くの読み物、新聞、手紙、日記、講演、落語などの文化論、文学作品などである。すぐれた日本文を読むことにより日本や日本人に対する理解を深めていく。

教科書　『外国学生用　日本語教科書上級Ⅰ』

早稲田大学日本語研究教育センター（早稲田大学日本語研究教育センター）

日本語Ⅳ（上級Ｂ）　(2)　　講　師　佐々木　卓　爾

日本語Ⅲの中でも随時とり入れていたが、言語関係として政治、経済、社会学、数学、物理学、地学、気象学、心理学、演劇、美術建築などかなり広い分野のものをここでは扱うことになる。それに古典的なものなど必要に応じ、古い教材、新鮮な教材など合わせて補充していく。また日本語ⅢⅣを通して、自分の意見を正しく伝えられ、討論できるとともに、文章や論文が書けるよう指導する。

教科書　『外国学生用　日本語教科書上級Ⅱ』

早稲田大学日本語研究教育センター（早稲田大学日本語教育センター）

ドイツ語Ⅰ（初級Ａ）　(2)　　助　教　授　原　一　子

ドイツ語の初級文法をマスターすることが本講義のねらいです。ABCから丁寧に指導しますが、新しい語学を学ぶことは決してなまやさしいことではありません。ドイツ語には、英語には見られなかったさまざまな語尾変化がありますから、徹底的な反復練習によって変化を確実におぼえることが必要です。１回１回の授業で習ったことを着実に反復学習すること、「学んで時に」ではなく「学んで即ちこれを習ふ」ことが大切です。従って、欠席は禁物です。毎回なるべく多くの学生を指名して練習をしますので、授業に参加するのだ、という気迫をもって臨んでください。語学は努力の積み重ねであることを肝に銘じて着実にマスターしてゆきましょう。

教科書　『大学のドイツ文法　緑版』岡田朝雄、岩崎英二郎（朝日出版社）

『夏休みの練習』練習帳シリーズ⑩（郁文堂）

ドイツ語Ⅰ（初級Ａ）　(2)　　講　師　小　谷　哲　夫

文法の講義とはいえ、先ず発音の仕方から学んでゆくわけですから、初めの授業に対する姿勢が何よりも大切だと思います。仮に、英語が不得手な人でも、ドイツ語を習得してやるというような意志の強さをもって積極的に取り組めば、必ず一年後にはその結果が得られることを保証します。

２年生になって作品を読んでゆけるに十分なドイツ語の知識を限られた１年間で習得してもらうためにも、この文法の授業はかなり厳しく行なうつもりです。授業の進め方も、学生諸君をアット・ランダムに指名して練習問題に答えてもらいますし、年間を通しての出席状況も評価として加点の対象にします。

ドイツ語の知識に関し全くの無の状態から出発して、ひとつひとつの段階を消化し、厳しい授業を

一年間耐え抜いた後の実りある大きな結果とその喜びを得られることを期待します。

教科書　『ドイツ文法のつぼみ』春日・高橋・小谷（朝日出版社）

『２週間のドイツ語練習帳』清水　他（東洋出版株式会社）

ドイツ語Ⅰ（初級Ａ）　(2)　　講　師　兒　玉　彦一郎

ドイツ語のABCから始めて、接続法までの初級文法の習得を目標にします。ドイツ統一によって、テレビなどでもドイツ語が身近に感じられるようになりましたが、これらのドイツ語を「ドイツ語で」発音したいものです。

この授業では、「文法と辞典を使ってドイツ語で書かれた文を読む」ための基礎となる知識を学習しますので、その意味で予習は必ずしも必要としませんが、授業に集中し、復習することを期待します。

授業は一日一単元で毎回新しいことを学習するのですから、それに関する文法をチェックする意味でも、教科書と辞書は必ず持って来て下さい。

内容には、ドイツへの旅を想定した説明がありますので、将来のドイツ旅行のためにも、しっかり勉強して下さい。

教科書　『新訂・コミュニケーションの文法』木藤／新倉／ジャコムッティ（朝日出版社）

ドイツ語Ⅱ（初級Ｂ）　(2)　　助　教　授　原　　一　子

ドイツ語Ⅰ（文法）と並行して進みながら、読解力・表現力などの応用力をつけることが本講義のねらいです。文法で習ったことを復習しながら、初級ドイツ語を読んだり、書いたり話したりできるようになること、辞書を引きながら文章が読めるようになることを目標とします。

他文化理解の第一歩はその国の言葉を学ぶことから始まります。言語表現を通じてものの考え方のちがいを知ることはとても楽しいことです。自分にとって新しい世界が開かれるように感じることでしょう。

しかし、新しい言語を学ぶことは、決してなまやさしいことではありません。文法構造を理解するだけではなしに、複雑な格変化や語尾変化を覚えなければなりませんが、これには相当の忍耐と覚悟がいります。授業は、テキストの音読、日本語訳、文法事項の復習、練習問題などを中心にすすめてゆきますが、語学は努力の積み重ねであることを肝に銘じて、その日その日の課題を確実にこなしてゆくよう心掛けて下さい。毎回、なるべく多くの学生を指名して反復練習をしますから、授業に参加するのだ、という気迫をもって臨んでください。変化表を覚え、辞書を引けるようにさえなれば、あとは自力でどんどん読むことが出来ますので、学生諸君が一回一回の課題をおろそかにせず、着実に努力することを期待します。評価にあたっては、出席状況はもちろん、予習や宿題などの日常の学習態度も重視するつもりです。

教科書　『*ABC* ドイツ語文法読本』大岩信太郎（三修社）

ドイツ語II（初級B） (2)　　講　師　田島正行

文法事項を簡単に説明しながら、やさしいドイツ語のテキストを読んで行く予定。読解力をつけることを主眼にし、辞書があればやさしいドイツ語の文章が読めるようにしたいと思っている。そのためにも、予習や練習問題は必ずやって来てもらいたい。例年思うことであるが、能力があるにもかかわらず、主体的努力に欠ける者が多い。外国語を習得するのは、なるほど根気のいるめんどうな事ではあるが、反面、地道な努力が必ず報われるのも確かである。諸君の主体的努力を期待する。

教科書　『春のドイツ語』小潮　節（朝日出版社）

ドイツ語II（初級B） (2)　　講　師　宮崎泰行

ドイツ語の初学者を念頭において授業を進める。文法と読本を並行して進めてゆくので、出席者は毎回予習を課されることになる。大学における語学の授業は、中高の英語の授業と比べて、難度が急激にあがってゆくのが普通であり、苦労が伴うものと思われる。しかし、辞書を手にして原文を読み解く喜びは大きい。結果として、そんな喜びの味わえるような手伝いができることを目指して、共に学んでいきたい。

教科書　『琥珀の部屋』岡村三郎、ヨアヒム・バイラント（朝日出版社）

ドイツ語II（初級B） (2)　　講　師　宮原　朗

ドイツ語の日常的な表現に慣れ親しみ、簡単な文章が理解できるようになることを目指します。ドイツ語I（文法）の授業と相補ってドイツ語力を養成します。

教科書の内容は、現代のドイツ語圏が舞台で、前半は楽しい会話が主体、後半は種々の斬新なテーマをめぐる易しい文章です。発音練習、意味の把握、応用練習等、毎回なるべく全員にやってもらいます。きちんと予習して、欠かさず出席すること。これを貫けば、かならず力がつきます。諸君の健闘を祈る。

教科書　『ドイツの一年（文法読本）』宮原　朗／M. ヤコブス（郁文堂）

ドイツ語III（中級A） (2)　　講　師　田島正行

例年通り、今年もエンデのメールヒェンを読む。改めて述べるまでもなく、エンデの作品は〈子供のための童話〉というよりも、むしろ〈大人のための童話〉であり、深い透徹した世界観及び人生観が平明な美しいドイツ語で書かれている。それは、今日の我々に深刻な内省を迫るものであるだろう。予習は必ず各人、やって来てもらいたい。諸君にまずテキストを訳読してもらい、その後で文法的説明をしながら解説する。諸君の主体的努力を期待する。

教科書　『見える音楽―「モモ」より』エンデ：子安美知子／樋口純明共編（郁文堂）

ドイツ語III（中級A） (2)　　講　師　兒　玉　彦一郎

ドイツ語で書かれた文を実際に読むことによって、ドイツ語の文法を確認し、ドイツ語に慣れることを目標にします。初めは、やさしい文から始めて、だんだんと読むスピードをあげていきますので、しっかり勉強して下さい。授業は一日一課を基本としますので、みなさんの予習を期待します。授業には必ず教科書・辞書の両方を持って来て下さい。

教科書　欧米・児童　『ドイツ語表現練習読本』尾崎／大谷（三修社）

　　政経　　『ヴィーン』清水健次（朝日出版社）

ドイツ語IV（中級B） (2)　　講　師　小　谷　哲　夫

1学年で習得したドイツ語の知識を基礎に、応用段階として、ひとつのまとまった作品を熟読してゆきます。その際、和訳してゆくことを中心とするよりも、むしろ、文法に則した細かな分析を行なうことにより、ドイツ語の文章構造をより深く理解し、更に作家の思想や時代背景なども考察してみたいと思います。

授業は毎回アット・ランダムに学生を指名し進めてゆきますので、各自が年間を通して数回和訳や文法事項に関して質問を受けることを覚悟して、必ず授業には予習をして参加することを条件とします。また、授業中のそうした和訳や質問を受けたことや出席状況は全て平常点として評価に加えてゆきます。定期試験においても授業中のしっかりしたノートが大きく影響するものと考えて頂きたい。

教科書　『スープ鍋とお玉のお話』M. エンデ（三修社）

　　『フランツと僕』P. ローザイ（行人社）

ドイツ語IV（中級B） (2)　　講　師　宮　崎　泰　行

文法をひととおり終えた学生を念頭におきながら授業を展開するが、必要に応じて文法事項にも触れる。将来の専門書講読、研究に際して必要な基礎学力の養成をめざしたい。出席者は毎回の予習を課されることになるが、予習（下調べ）も習慣の問題なので、できるだけ早く慣れるよう励まれたい。

教科書　『世界史笑百科』信岡資生（第三書房）

ドイツ語IV（中級B） (2)　　講　師　宮　原　　朗

ごく易しい読物からはじめて、次第にレベルを上げてゆき、最終的には中級程度の読解力がつくようにしたい。手始めに読むのは現代の童話(下記のとおり)。発音練習と訳読。毎回なるべく多くの諸君にやってもらいます。出席を大切に。そして予習を怠らぬこと。これが上達のこつです。意欲的な参加を期待します。

教科書　『小さな夜警さん』G. Ruck-Pauquêt（芸林書房）

フランス語Ⅰ（初級Ａ） (2)　　助教授　鹿瀬颯枝

フランス語Ⅰは、初歩の段階からフランス語の全体像がみえてくるよう配慮し、ことばの機能を中心に、基礎的文法知識を養っていく。１年間で初級文法の骨組みを習得できるようにしたい。

具体的には、毎回、前半で、テーマ別に文法の基本事項を学習し、まとめる。後半で、それぞれの事項について、理解を深め、応用力をつけるために練習問題をやっていく。これにより、読解力や表現力を確かなものにしていきたい。

大学に入って初めて学ぶフランス語であるから、スタート・ラインは皆、同じ。何事も始めが肝心であることを覚えて頑張ろう！

◎最初はプリントを使います。次に

教科書　『ル・フランセ　*Le francais*』斎藤昌三（白水社）

フランス語Ⅰ（初級Ａ） (2)　　講　師　石田明夫

フランス語Ⅰは文法中心の授業で、一年間でフランス語の初歩文法を一通り理解し、辞書を使って簡単なテキストを独力で読めるようになるのを目標にしている。そのため、少ない授業時間をカバーするため、ほとんど毎週 exercices（練習問題）の提出は義務づけられる。年間通して、学生諸君がその exercices の反復練習と添削によってフランス語文法になじみ、フランス語の文章を書くことでフランス語そのものになじむことをねらいとする。

学生諸君が授業に臨むとき、課題提出はもちろんだが、常にその課の予習、特に辞書を使ってフランス語の単語を引いておくことが肝要である。新しい言葉を習得するということは新しい世界に足を踏み入れること、労多きことかもしれないが、スリリングな楽しみがあることも確かである。

教科書　『ル・フランセ』斎藤昌三（白水社）

フランス語Ⅰ（初級Ａ） (2)　　講　師　竹内久雄

大学生になって新しい外国語を学ぶ場合、文法的な知識は大きな手だすけになります。しかし、その際、文法の学習が文法用語の学習になってしまってはつまりません。あくまでも生きた全体としてのフランス語の骨組みとして、文法を学習したいと思います。それはフランス語による表現、という目的を持つ文法学習ということでもあります。「表現」を単純な反復練習にしないためにも、ある程度の体系的知識は不可欠なのです。

なお仏和辞典は必ず購入し（参考書欄参照）、授業時に持ってきて下さい。

教科書　『アンシャンテ』高遠弘美（駿河台出版社）

参考書　「クラウン仏和辞典」（三省堂）

　　「プチ＝ロワイヤル仏和辞典」（旺文社）

フランス語II（初級B） (2)　　助教授　鹿瀬颯枝

フランス語IIは、初学者がフランス語の発音から始めて、日常的な語彙・表現、コミュニケーションに必要な基礎知識を身につけていくことをめざす。フランス語Iが「聞く、読む、書く」を中心とするのに対して、IIは「聞く、読む、話す」を中心としたい。

具体的には、フランスの生活場面をスケッチした短い会話をもとに、話しことばとしての自然なフランス語に親しみ、実際に対応する力を養う。

◎最初はプリントを使います。次に

教科書　『ドゥ・コンセール1　*De Concert* 1』大阪日仏センター（朝日出版社）

フランス語II（初級B） (2)　　講師　石田明夫

フランス語IIはフランス語の発音、表現（簡単な挨拶言葉）及び最終的な段階として簡単なフランス語のテキストを辞書を指針に実際読めるようになることを目標とする。そのため授業内容は前期と後期二段階に分ける。前期の授業は発音と会話を中心にしてフランス語に慣れることを目標とする。学生諸君は、教室内の仲間どうしにつまらぬ羞恥心など不要のものと思って、臆さず、思い切って言葉（フランス語）のキャッチ・ボールを楽しんでもらいたい。発話行為は声を出すことから始まる。ぜひフランス語の音を獲得して、巷で流れるフランス語をフランス語と確認し、できれば理解可能な表現を聞きわけてほしい。後期は、フランス語Iで文法事項もある程度理解したとの認識から、学生諸君が必ずフランス語テキストの内容・訳読を発表することで授業を進める。

前・後期通じて、授業に臨む際必ず予定の課の予習、つまり未知の単語がないよう辞書を引いておくことは当然だが、特に前期の場合、発音の反復練習を復習すること（テープ使用可）が肝要である。新しい言語を習得することは新しい世界に足を踏み入れること、様々な価値感や新たな視点を獲得する一歩となることは疑いえない。冒険心を発揮してほしい。

教科書　『東京—パリ、初飛行』藤田裕二他（駿河台出版社）

フランス語II（初級B） (2)　　講師　斉藤　豊

中学・高校6年間を通じて学んできた英語を手がかりにして、フランス語の全くの未習者である新入生諸君が、一年後に比較的簡単なフランス語の文章を正しい発音で読み、構文を理解し、分からない語句を辞書を引いて自分で調べられるようにするのが、この授業のねらいである。ABCの発音から始めて文章語である単純過去まで教科書に則し一年間で学ぶ。英語の場合なら中高5年分の文法事項を一年間で身につけるのだから、一回の授業でこなす内容もかなり圧縮されている。従って、当初予習の必要はほとんどないが、次回までに完全に理解し覚えておかないと分からないことだけがどんどん積み重なって行くことになるので、復習を絶対に欠かしてはいけない。それにはまず授業中に説明をよく聞き、不明の点を質問してその日習ったポイントを把握する必要があるが、その際役立つのが諸君の英語の知識である。英語との共通性から入り、フランス語の特質に目覚めて欲しい。例えば、

アルファベットは共通だが、ABCはエイビイスィーではなくアーベーセーだというように。

授業は、ほぼ一回に一課のペースで進む。最初にフランス語の音、そして英語に比べてはるかに規則的なつづりと発音の関係を学ぶが、これは一度に覚え切れる訳はないので、新しい単語を一つずつ覚える毎に繰り返し参照して気が付いたら自分の物になっていたというのが望ましい。第一課は「名詞と冠詞」であるが、全体の流れとしては「動詞」を中心として組み立てられている。初心者が感じる大きな困難の一つに動詞の変化が難しいということがよく挙げられるが、これはまずそのメカニズムを頭に入れた上はただひたすら練習を繰り返せばだれにでも覚えられるものである。最終21課の「接続法」まで粘りと根気を持ってついてきて欲しい。

教科書　『入門フランス語文法21課』小泉清明、斉藤豊（駿河台出版社）

フランス語Ⅲ（中級Ａ）　(2)　　助教授　鹿瀬颯枝

フランス語Ⅲは、初級Ⅰ・Ⅱを終えた者を対象として、あまり抵抗なく、自然に読物に入っていけるようにしたい。最初に易しいテキストから入り、自力で「読む」習慣をつける。徐々に中級クラスのものに挑戦、最終的には、辞書があれば自分の読みたいものをこなせるようになってほしい。

具体的には、最新のプリントとテキストを使いながら、フランスの四季折々の出来事を取りあげ、この国の文化、社会、そして言葉に触れる。他に１編、名作（短篇）を読む。

教科書　『フランス・四季の手紙』鹿瀬颯枝（白水社）

フランス語Ⅳ（中級Ｂ）　(2)　　講師　石田明夫

フランス語Ⅳでは１年で習得したフランス語の知識を生かして、フランスの民話を読み、独力でフランス語のテキストを読める能力を身につけることを目標とする。またフランス語を通して異文化体験をし、また民話及び童話の言語と物語構造について考察する。そのため、テキストに教科書以外のもの、例えばシャンソン、映画なども利用したい。

授業の進め方は、１年の復習をする最初の一・二時間目を除いて、学生諸君の発表形式を取るので、必ず全員が予定の個所を予習して来なければならない。また、「グリム童話」、「シャルル・ペローの童話」及び「美女と野獣」等の民話・童話になじんでおくことが望ましい。

教科書　『フランス民話』石田明夫（錬金社）

フランス語Ⅳ（中級Ｂ）　(2)　　講師　斉藤　豊

実用的なフランス語を読むことによって、一年生の時に学んだ入門フランス語の知識を再確認する（忘れた事はもう一度覚えよう）と同時に、まだ十分に定着していると思われない条件法や接続法などの生きた用例に接して、言わば基礎という骨組みの上に応用力という肉付けをして、将来の諸君にとって有効な道具となる生きたフランス語を身につけることをねらいとする。テキストは、Pierre Germa：DEPUIS QUAND——les origines des choses de la vie quotidienne（1979）を原著とする

教科書『フランス語はじめて物語』（中川信吾・原田佳彦編、白水社）を使用する。このテキストは、「われわれの身の回りにある事物はいつごろから使われるようになったのか」というだれにでも興味のある事柄を取り上げて「簡明なフランス語で解説し」、「文明の歴史」に思いがけない照明をもたらしてくれる（編者「あとがき」に拠る）。これを読むことによって、私達は、日常的なフランス語の読解力を養うと共に、身の回りの事物に対してこれまでと違う新鮮で情愛の込もった見方を持つようになるだろう。取り上げられる項目は、「テニス」、「スキー」、「ビリヤード」などのスポーツから始まって「じゃがいも」、「とうもろこし」、「トマト」などの野菜まで、全部で26項目であるが、分量は少ないもので「セディーユ」の７行、多いもので「コーヒー」の57行と多い少ないがあるが、大体一回の授業で20から30行位ずつ読み進めば一年間で読み終えることができるだろう。

最後に受講生への要望として付け加えておくと、毎回指名するので、正確にフランス語を声に出して読み、かつこなれた日本語に訳せるように、十分な下調べをしてくることが望ましい。さらに、百科辞典などで関連項目を調べてくれば申し分ないだろう。

教科書　『フランス語はじめて物語』ピエール・ジェルマ（白水社）

フランス語Ⅳ（中級Ｂ）　(2)　　講　　師　竹　内　久　雄

１年生で学習したフランス語の基礎的な知識を復習しつつ、生きたフランス語、つまりさまざまな状況な中で発語されるフランス語の表現を理解する力をつけたいと思います。１年次でフランス語に興味を持てた人も、投げ出したくなった人も、知識を確実なものとし、少しでも身についた語学とするため、もう１年努力してみましょう。

なお授業時には必ず仏和辞典を持参してください。

教科書　『フランス語全方位』大阪日仏センター（早美出版社）

スペイン語Ⅰ（初級Ａ）　(2)　　講　　師　上　野　勝　広

スペイン、中南米のおよそ20ヶ国および国連の公用語になっているスペイン語の学習を通して、新しい言語観や価値観に触れながら、我々の視野を広める糸口にしたい。

下記のテキストを用い、ABC からの基礎文法を解説する。その都度、受講生諸君には理解の確認と学習事項の定着を図るため、積極的に練習問題に取り組んでもらうことになる。使用テキスト中の練習だけでは不充分なので、随時プリントを配布し、補充しつつ実践的応用力の養成に努めてゆく。文法事項と並行させて、簡単なモデル会話のパターンも学ぶ。

前期はスペイン語の文字と発音から不規則動詞〔語根母音変化動詞〕（第７課）までを扱い、後期は不規則動詞の続きから２種類の過去形〔完了過去と不完了過去〕（第14課）まで進める。

スペイン語は我々日本人にとって確かに親しみ易い外国語だが、決してやさしいとは言えない。特に学習の要となる動詞の活用は頻度の高いものに限って複雑な不規則変化を示す。その修得には、かなり根気強い練習が要求される。予習はともかく、復習は必須である。受講者はそれなりの覚悟と積

極性を持った上で、授業に臨んで頂きたい。当然、担当講師もベストを尽くす所存である。

教科書　『ようこそスペイン語の世界へ—ミニ会話と初級文法—』宮本博司（大学書林）

参考書　「現代スペイン語辞典」（白水社）

「新スペイン語辞典」（研究社）

「スペイン語の入門」瓜谷良平著（白水社）

スペイン語II（初級B）　(2)　　講　　師　上　野　勝　広

基礎文法の解説と練習を中心としたスペイン語Iの授業とできるだけ連動させながら、ビデオを活用して初歩的なスペイン語会話の授業を行なう。まず受講生の一人一人がスペイン語で挨拶と簡単な自己紹介ができることを当面の目標とする。

前期はスペインで製作されたビデオ教材『エンクエントロス』を視聴しながら、基本動詞の用法を軸に自然で多彩な表現方法を身につけてゆく。これは子ども向けに編集されたマルチメディア教材だが、軽快なテンポで展開するアニメやお伽話、歌、コントなどを楽しみながらしっかり学習を進めたい。後期は複数のビデオ教材を組合わせ、スペイン語圏の文化的背景への理解も深めながら、音声を重視したスペイン語の理解力と表現力を高めてゆく。

受講生の諸君には、毎回の授業において積極的に耳を凝らし、口を動かしてもらわねばならない。沈黙を通すことは許されない。従って評価にあたっては、平常点を重視する。

プリント使用。

参考書　スペイン語Iと共通

スペイン語III（中級A）　(2)　　講　　師　上　野　勝　広

スペイン語の基礎文法の仕上げと講読を行なう。

前期はスペイン語Iの継続で、未来形（第18課）から接続法過去完了を用いた条件文（第25課）まで、文法事項の解説と実践的な応用を含めた練習に集中する。次から次へと新しい動詞の形式と用法を学ぶことになるので、受講生は復習を怠らないことが肝要である。内容補充のため、随時プリントを配布し、授業に活用する。

後期は平易な探偵ものの短編小説〝El hombre que veía demasiado〟（『見過ぎていた男』）を講読する。ストーリーを楽しみながら、読解力の養成を図りたい。プリント使用。

教科書　『新世代のスペイン語』福嶌教隆（くろしお出版）

参考書　「現代スペイン語辞典」（白水社）

「新スペイン語辞典」（研究社）

「現代スペイン語講座」岡田辰雄著（芸林書房）

スペイン語Ⅳ（中級Ｂ） (2)　　講　師　上　野　勝　広

スペイン語Ⅱに引き続いて、複数のビデオ教材を活用しながら、音声面を重視したスペイン語基礎会話と作文の授業を行なう。

単純な西問西答の練習から指定テーマによるミニスピーチや簡単な手紙作成などをこなしてもらう予定である。語学的訓練と並行させながら、スペイン・ラテンアメリカの豊かな背景文化を紹介し、同地域に対する理解を深めたい。

受講生の諸君には、毎回の授業において積極的に耳を凝らし、口と手を動かしてもらうことになる。沈黙を通すことは許されない。従って評価にあたっては、平常点を重視する。

プリント使用。

参考書　スペイン語Ⅲと共通

中国語Ⅰ（初級Ａ） (2)　　講　師　川　上　久　壽

中国語の発音と平易会話による中国語を通して中国語の初級語法の習得を目的とします。学習者テキストの本文をくりかえし音読して暗記したうえ、文法要点を学び、さらに練習問題によってその知識をたしかめ、自己のものとして下さい。

教科書　『文法をふまえた中国語テキスト』宮田一郎・楊為夫・陣文芷（光生館）

中国語Ⅰ（初級Ａ） (2)　　講　師　銭　春　蘭

学習目標：中国語の正しい基礎発音と聴解力の基礎ができる。簡単な会話ができる。

授業内容：教室用語、自己紹介、挨拶、日常会話、会話による基本文法の例示と応用、正しい発音定着のための発音の訂正。

教育の方法：聴解力の向上に重点を置いた授業なので、なんとかして中国語による授業が早く分かるように工夫するのが指導ポイントとなる。基礎力養成授業の中で身に付いた発音の基礎を一層正しく定着させるために、できるだけピンインで理解させるようにすると同時に常に言葉をピンインで書かせたり、発音声調を言わせたりするのも大事である。

教科書　『楽しい中国語（新訂版）』楊名時・瀬戸口律子（明治書院）

参考書　「会話からの中国語入門」香坂順一（光生館）

中国語Ⅰ（初級Ａ） (2)　　講　師　林　嘉　言

中国語の学習で、最も難しいと感じるのは発音と四声である。しかしながら、発音と四声は中国語の命であるとも言われているように、これをマスターしない限り、中国語を正確に話し、聞くことは不可能である。それゆえに、このクラスでは先ず中国語の正しい基礎発音と四声の練習に重点を置くことにする。基礎発音と四声がある程度習得できてから初級会話、文法、読解へと進んでいく。勿論、基礎発音と四声の練習では大いにビデオとテープを活用し、視覚と聴覚の両面から刺激を得ることに

より、中国語の学習意欲を高めていく。

成績評価は、平常点と出席を重視するので、欠席はできるだけ避けるべきである。

教科書　『簡明基礎中国語』伊地智善継編（東方書店）

『新版標準中国語Ⅰ』上野恵司（白帝社）

中国語Ⅱ（初級Ｂ）　(2)　　講　師　川上久壽

中国語の発音と身近な会話それに平易な散文の読解力を養い中級中国語へ移行するための基礎づくりをする。授業は第一に発音、つづいて会話の読解が行なわれる。発音では拼音の読み書きを完全にマスターしなければならない。会話と散文の読解は語法に裏打ちされた授業が行なわれる。辞典は最初の授業から必ず持参せねばならない。辞典をひくことに早く慣れることが肝要である。

教科書　『中国語教本』中野達（白水社）

中国語Ⅱ（初級Ｂ）　(2)　　講　師　銭　春蘭

最初から中国語で説明するように努める。易しい言い方から難しい順への規則を考慮に入れて説明のしかたを工夫したり、印象を深めるに常に温故知新のつもりで習ったことを新しい内容と結びついて繰り返し復習したりする必要がある。なお、授業の効果を高めるため、必ず予習をした上で受講し、練習問題をちゃんとやって欲しい。

教科書　『新編基礎漢語』香坂順一・上野恵司（光生館）

参考書　「現代中国語文法」香坂順一著（光生館）

中国語Ⅱ（初級Ｂ）　(2)　　講　師　林　嘉言

いかなる外国語をマスターするにも反復練習が最も肝要である。限られた語彙と基本文型しか習得していない状況下では、反復練習は代替や転換などの練習を通じてのみ可能である。また、ビデオとテープも反復練習にとって大変効果的であると考えられるので、できるかぎりそれらを大いに活用する。ヒアリングは初級段階から徐々に慣れる必要があるので、その練習も行う。

成績評価は、平常点と出席を重視するので、欠席はできるだけ避けるべきである。

教科書　『簡明基礎中国語』伊地智善継編（東方書店）

『新版標準中国語Ⅰ』上野恵司（白帝社）

中国語Ⅲ（中級Ａ）（ＡＢＣＤクラス）　(2)　　講　師　銭　春蘭

中級の中国語応用テキストを使って、中国北京を中心に、小林と海燕らが交わす会話を通して、初級段階での学習内容の要点と、それを踏まえての新たな学習事項とを、各課を分かりやすく、ゆっくりはっきり言うように心掛ける。ポイントと練習をし、十分な学習成果があがるよう工夫する。一貫した自然な話題を追いながら、知らず知らずのうちに中国語の力を確かなものにしていく。

教科書　『標準中国語応用会話編　小林在北京』上野恵司（白帝社）

参考書　「最新中国語教本」北京語言学院　劉山、季培元（中華書店）

「中国語中級コース」平井勝利著（白帝社）

中国語Ⅲ（中級Ａ）（ＧＨＩＪクラス）　(2)　　講　師　銭　春　蘭

中国語Ⅰ、Ⅱで習得した中国語の発音、基礎文法を土台として、今度の授業は日常会話と基本文型に重点を置いて行う。中級の中国語教材を利用し、口に発し、耳で聴かれる話しことばから入るよう学習の自然なかたちであると考えている。なお、授業の効果を高めるため、必ず予習をした上で受講し、練習問題もちゃんとやって欲しい。

教科書　『標準中国語２』上野恵司（白帝社）

参考書　「中国語学の基礎知識」香坂順一

中国語Ⅲ（中級Ａ）　(2)　　講　師　林　嘉言

初級で習得した基礎学力に基づき、会話力の充実、表現力の拡大、応用力の発達などを目指し、できるだけ多くの応用文を繰り返し練習することにより、主に、中国語を話す能力および聞く能力の向上に努める。テキストのテープだけでなく、副教材用の会話中心のビデオも多いに活用する。

成績評価は、平常点と出席を重視するので、欠席はできるだけ避けるべきである。

教科書　『中文課本基礎編』竹島金吾（金星堂）

『トレーニング中国語』竹島金吾（白水社）

中国語Ⅳ（中級Ｂ）　(2)　　講　師　川　上　久　壽

読解力養成のため魯迅と親交のあったロシヤの盲目の詩人エロシェンコの童話集（魯迅訳）を読みます。この童話は魯迅の創作とおなじく内容豊かで思想性もあり文章は魯迅作品より平易です。ただ、ここで使用する教材は魯迅譯文集第２巻所収≪エロシェンコ童話集≫からのコッピイであるため現在出版されているすべての中国語教科書のように発音が全部ついているわけでもなく、また註解もついておりません。したがって、学習者には異常な勉強、努力が必要となります。学習者は予習で克明に辞典をひき、≪文法を踏まえた中国語テキスト≫の〈文法要点〉を参照しながら日本語訳を作製したうえ教室にのぞむこと。復習では授業で明らかとなった自分の訳文の正誤を点検し、正しい意味を頭に浮べながら音読すること、そういう作業が大切です。

教材のプリントは最初の授業のとき配布します。辞典と≪文法を踏まえた中国語テキスト≫は毎時間必ず持参すること。

教科書　『エロシェンコ童話集』エロシェンコ作魯迅譯

魯迅譯文集第２巻よりコッピイしたもの

中国語Ⅳ（中級Ｂ） (2)　　講　師　林　嘉言

このクラスは読解力の向上と作文力の上達に重点を置く。中国語の基本文型を体系的に学習することによって、構文を習得できるようにし、より正確な読解力をつける。また、テキストの練習問題を中心に、応用問題および添削によって中国語の作文能力の向上も目指す。

成績評価は、平常点と出席を重視するので、欠席はできるだけ避けるべきである。

教科書　『中文課本基礎編』竹島金吾（金星堂）

『トレーニング中国語』竹島金吾（白水社）

3．保健体育科目（全学科共通）

体育実技Ⅰ　(1)

教　　授　窪田恭子
助教授　鈴木　明
講　　師　池森隆虎
講　　師　梶谷幸市
講　　師　斎藤春枝
講　　師　関　博之
講　　師　山城屋正満

ヒトの身体的健康は、スポーツ・身体運動の日常的な実施により維持・増進されることが明らかにされている。走・跳・投・蹴などの基本的動作の習熟に加えて、生涯を健康にすごすために有用な知識を獲得し、実践する機会を定期的に得ることは意味のあることだと思われる。本講では多種のスポーツの実践を通して、ヒトのからだの仕組みと健康について考える契機としたい。

一連の講義では前述の基本的運動動作に関わる多種のスポーツ種目を実施し、その習得および習熟に努める。と同時にスライドやVTRを利用したミーティングの時間を設定し、運動の技術と運動に対するからだの応答のしくみ、トレーニングの原理などについて、現代スポーツ科学の最新トピックスを交えながら科学的な理解を深める。4月から5月にかけては運動能力・体力テストを実施する。

尚、医師等から運動を止められている人は別コースがあります。

体育実技Ⅱ　(1)

助教授　鈴木　明
講　　師　斎藤春枝
講　　師　池森隆虎
講　　師　関　博之
講　　師　本田宗洋
講　　師　山城屋正満

生涯を見通した時に職業人として、また家庭人として要求される〝体力〟の獲得と、その維持・増進に関する知識と技能を与える。

体育実技Ⅰで学んだことを基礎に、一般持久力の向上を念頭においてより高度な実技を展開する。前期開始直後には運動能力、体力テストを実施し、自分自身の体力水準を理解し、自身にあったトレーニングを展開する。実技種目に関しては、選択必修の形をとり、一つの種目をほぼ半期にわたって行い、その種目をより深く理解することを目標にしている。種目は、バドミントン・バレーボール・バスケットボール・硬式テニス・ハンドボール・レクリエーションスポーツ・ゴルフ・ソフトボール・サッカーなどを予定している。またシーズンスポーツトして、夏のトレッキング、冬のスキー実習を計画している。詳細は保健体育科の別紙（4月のオリエンテーション時に配布する）[注]を参照のこと。

尚、激しい運動が禁止されている人は、別のコースがあるので、担当教員に相談すること。
注）別紙を必ず読み、選択コースの申し込み〆切日を必ず守ること。

保健体育講義 (2)

助教授　鈴木　明
講　師　池森隆虎
講　師　梅津迪子

科学技術の進歩はわれわれの生活様式を大幅に、しかも急激に変化させている。このことは生物としての人間に歪みを生じさせずにはおかないであろう。この歪みが近年の健康水準や、体力の低下となって現われていることが指摘されている。

そこで、「体力科学」の視点から、運動生理学を一般化し、体力向上のメカニズム、個人の健康水準の維持と増進に寄与できる内容を提示したい。さらに健康教育の立場から、近年未成年の間で問題になっている飲酒・禁煙・成人病・エイズなどにもスポットをあて、よりよい健康生活を送るための基礎を作りたいと考えている。

教科書（政経）　『現代人のための保健体育理論』（改定版）鈴木明・和田雅史（共栄出版）
（人文）　『大学保健』大塚正八郎（犀書房）

4．基礎教育科目（全学科共通）

基礎教育演習 (2)　　教　　授　秋　吉　祐　子

本授業は、大学の生活を円滑に行なうために用意された教科である。

前期は大学生活に慣れるためのプログラム（ワープロ授業を中心とする）とし、後期は、学習生活に慣れるためのプログラム（レポート作成、グループ討論、発表、個人スピーチ等）とする。

具体的なスケジュールは、最初の授業時に配る。

基礎教育演習 (2)　　教　　授　安　倍　北　夫

三つの目標を考えている。

第一は大学教育の入門的位置づけである。これは何よりも自発的学習態度を身につけることから始まる。自分で主題を選び、問題意識をもち、過去の知識をさぐり、比較し、批判し、自分なりにそれをうけとめることである。カリキュラムは一人一人がこうして自分なりの修学プログラムとして、造られていくであろう。

第二は学問研究の入門的位置づけである。問題意識に応じて、問題の鮮明のためにどんな研究方法があるのか、文献をよんで読解すること、読解した内容をまとめること、まとめられたものを文章化すること、文章にしたものを発表し他者に了解してもらうこと。さらに他者の発言や発表を正しく理解すること、文献や他者の考え方について自分の意見をもちそれを発表し、相互の間でコミュニケートすることは、いづれの学問領域でも基礎的に必要とされることである。

第三は学園の共同体の一員としての自覚と規範を身につけることである。学園のメンバーとしての自覚、教師との人間的接触、ゼミのメンバー相互の間での交流の中で基本的に守らなければならない約束やルール、努力や協力を身につけることがそれである。

具体的には何冊かの初心者向きのテキストをゼミの全員でよみ、発表者となり、討論する道程をメインとし、それに加えてアセンブリー・アワーでの学長講話や、始業講話、礼拝の講話などを良い機会としての感想の交換や、他のゼミとの交換を展開していく予定である。

基礎教育演習 (2)　　教　　授　北　山　直　樹

大学で学ぶための、基礎的条件を整えることを目標とする。

具体的には、

講義のきき方；文章のまとめ方；発表の仕方；コンピュータについての理解；必要なデータの探し方；図書館の利用の仕方；スポーツに親しむこと；等々。

なお、それらの合間に

横田喜三郎「世界と共に歩む」の後半（第３章）を読んで、日本国憲法の成立や、日本国の経済大国としての条件等を勉強することとしたい。

教科書　『世界と共に歩む』横田喜三郎（読売新聞社）

基礎教育演習　(2)　　教　　授　堀　家　文吉郎

○この演習は割当・必修で、受講者にクラス選択の自由がないのは気の毒だが、同じことは私についても言える。同じ方向へ行くバスに、偶然乗り合わせたぐらいに思うより致し方なかろう。

○諸君が将来、（学界を含めて）どの方面に進もうとするにせよ、この学部を卒業して世に立つには、論理的に consistent な文章や、口頭による意見の発表によって、明晰に相手方に自分の考えを伝える技術・能力が身についていなければならない。だがその前に、伝えることの主題を自分で発見・整理できなければならないのは言うまでもない。この演習では、こうしたことの習練に、もっぱら時間を掛けたい。

○とりあえず、問題発見の手掛かりを見付けるために、下記の本を読む読書会を行う。それが済んだら以後は、諸君推薦の本を順次俎上に置くことにしたい。

○なお、私は諸君の書いてくれた文章をコピーして保存し、学年末にはそれの改訂版の提出を求める。どの程度、思考の進展、文章の彫琢があり得るかを知るためで、これが学年末試験の代わりになる。

記

○奥村宏『会社本位制度は崩れるか』（岩波新書、新赤版248）、新書版・242頁、1992年10月、岩波書店。

基礎教育演習　(2)　　教　　授　丸　山　久美子

一年間のスケジュール表を渡し、その線に沿って学習習慣をつけるように訓練する。

ことに、現在、社会で起こっている諸問題（たとえば、エイズ危機、院内感染、ターミナルケア、地球環境汚染、人間関係の歪みなど）について、学生間でディベート形式で討論し、その結果を学生達に評価させ、全員参加のかたちで、これらの問題解決の糸口を探る。

一年間に読むべき本は、スケジュール表に沿って提示される。

基礎教育演習　(2)　　教　　授　吉　田　博　司

政治学の基礎知識を講義する。学生はしっかりノートを取ることが必要。勿論質疑応答も盛んに行われることが望ましい。

基礎教育演習　(2)　　助　教　授　後　藤　兼　一

1．演習のねらい・・・大学生として、また将来社会人として必要なスキルである人の話を聞き、それを整理し、自分の考え方をまとめ、話し合い、さらに発表する力（コミュニケーション力）をみにつける。また同時に本を読み、それを理解し、自分の意見としてまとめ、それを書き物にする力（ドキュメンテーション力）をみにつける。この二つの力の必要性を理解し、実践できるよ

うになることをねらいとする。

2．演習の内容および方法・・・コミュニケーション力として、聞く・考える・話すの三つ、ドキュメンテーション力として、読む・考える・書くの三つを講義と実習をつうじておこなう。

3．演習の年間のスケジュール・・・前期はコミュニケーションとドキュメンテーションの考え方を中心に講義をし、ワープロを実習します。夏休みに本を読み、本の要約と自分の考えをレポートにします。後期はレポートをもとにディスカッション（できればディベイト）を行い、さらに自分の考えを整理し、ワープロを使ってレポートにまとめます。

4．受講生への要望等・・・積極的に参加してほしい。受け身ではこまる。やむおえない場合をのぞき、遅刻・欠席は認めない。

基礎教育演習 (2)　　助教授 大森達也

演習というのは最も大学らしい勉学の場です。少ない人数で討論を交えながら学習を進める演習は、学生諸君の参加意欲無くしては成り立たないものです。いくつかある演習の中でも、一年次に配置された本演習は、大学での勉学に必要とされる基礎知識を身につける場として、非常に重要視されていることを理解しておいてください。とりあえず、本演習では大学レベルの学習に必要な本の読み方、文章の書き方を訓練することから始めます。課題図書については、授業開始後指示することとします。

聖学院大学での4年間にわたる勉学を実り多きものとしていく第一歩は、本演習にあるといっても過言ではないでしょう。学生諸君の積極的な参加を期待しています。

基礎教育演習 (2)　　専任講師 柴田武男

本演習の目的は、自立した学習態度の養成にある。与えられた課題を待ち望んで、その範囲だけを学習するという態度では、大学教育とはいえない。本演習では、こうした学習態度を払拭する目的で以下の二点を心掛ける。一つは、演習の内容については学生とともに協議して決定すること、もう一つは、ディスカッションの時間を設けるということである。いま述べたように、本演習の内容は受講生の意見を大幅に取り入れて決定されるので、今年度の演習内容は具体的にここでは述べられないが、参考までに前年度の演習内容を記しておく。

前年度のテーマは、一本でも多くビデオ鑑賞するということであった。映画鑑賞は大事な教養の一部分であり、より大切なことは多数の友人諸君と共通の感動体験をするということにある。作中の登場人物の生き方に多くの諸君は共鳴するであろうし、互いの感想のなかに全く異なった人生観があることに気がつくこともあるだろう。また、多くの映画を鑑賞することで、全く違った映画が同じテーマで作られていることにも気がつくであろう。たとえば、「いまを生きる」と「ファミリー・ビジネス」という全く異なった映画が、同じテーマであることに気がついただろうか。

ちなみに、昨年度鑑賞した映画ビデオは、「マイ・フェア・レディ」・「わんわん物語」・「ファミリー・ビジネス」・「夜と霧」・「レナードの朝」・「いまを生きる」等であり、その他にはテレビで放映された

ドキュメンタリー番組から「47年目の夏」・「サラワクの熱帯雨林伐採」等を鑑賞した。本演習の受講生に強く要望しておきたいのは、受け身の学習態度ではなく、自分自身で学んでいく意欲をもって教室に来て欲しいということである。受講生諸君の自立した学習態度の養成が、本演習の目的であることを再度繰り返しておく。

基礎教育演習 (2)　　専任講師　鐸木昌之

各自が「政治家の伝記」を最終講義までに完成し、提出する。そのために前期は、ワープロの使い方、政治学の素養等、基本的なことを中心にゼミを行なう。夏休みあけまでに各自がとりくむ「政治家」を決定し、後期は一人ずつその「政治家」について報告していく。レジュメの書き方、報告、参考文献、そして調査方法等が身につくことをめざす。最終的に400字詰原稿用紙20枚以上の提出が求められる。

聖書概論（政治経済学科） (4)　　講師　阿部洋治

聖書は、人類の歴史－しかも、それは、ユダヤ民族という限られた民族においてではあるが－において、かつて起こった出来事を伝える書である。その出来事とは何であったか、その出来事を伝えようとする聖書の意図は何か、またそれが現代の我々に何を語りかけているか。これが、聖書概論における基本的な問いである。この問いをもって、特に、この授業においては、ナザレ人イエスの働きと教えに注目したい。

イエスは、ナザレという村の大工の子であった。30才頃、辺境の地ガリラヤのカペナウムを拠点として、神の国について宣教し、神の国のために活動をし始める。しかし、わずか１～２年にして、ユダヤ教の指導者たちの反発と妬みをかい、十字架で処刑される。しかし、その後、弟子たちが、復活のイエスに出会って、このイエスこそ聖書に約束されていたキリストである宣べ伝え、これによって教会が生み出された。このように、キリストと宣べ伝えられるに到ったイエスとは誰なのか。これが、この聖書概論のテーマである。

主な内容は次のとおり。

1）福音書の性格をめぐって－イエス・キリストを知るための唯一の資料としての福音書とはどのような書物であるか。またどのように読むべきであるかについて。

2）イエスの時代とその問題－ローマ帝国の植民地としての悲劇とユダヤたちの取り組みとそこにおける解決されない課題について。

3）イエスの権威ある教え－特に、譬え話や山上の説教の研究

4）イエスの権威ある働き－特に、イエスの奇跡について

5）イエスの十字架の死をめぐって－イエスを死へ追いやった人間の問題。

6）イエスの復活について－復活を信ずるとはどういうことか。

受講生たちが、代々の教会によってキリストと宣べ伝えて来たナザレ人イエスに目が開かれ、この

イエスとの出会いにおいて、失っていた自己を回復する講義となることを目指したい。

教科書　『歴史の中のイエス像』松永希久夫（日本放送出版協会）

聖書概論（欧米文化・児童学科） (4)　　講　師　朴　憲郁

キリスト教信仰と教理の唯一のよりどころとなっている『聖書』（旧約及び新約）そのものを概説するにあたって、一方ではパレスティナ地域の歴史的所産たる古典文学としての特質を、しかし他方では歴史的現実の中に生きて働く神の救済啓示を証しする書物としての神的性質を明らかにする。前期は旧約聖書を、後期は新約聖書を内容区分に従って学ぶのであるが、今日的課題や問題を視野におさめながら、聖書テキスト自体に親しくふれ、今日の私たちに向けて語りかけられたその深い意味を読み取ることに努めたい。そのつど設定されるテーマとしては、創と歴史、宗教と政治、人間の尊厳と罪、絶望と希望、正義と平和、人権と愛、信仰と救い等が挙げられる。

受講生には毎回、教科書として用いる聖書を持参することを求める。

教科書　『聖書（旧、新約）』日本聖書教会・語訳

『聖書入門』小塩力（岩波新書226）

参考書　（授業時に、随時示すことにします）

日本プロテスタント史 (4)　　教　授　鵜沼裕子

プロテスタント・キリスト教の宣教師が初めて来日したのは幕末動乱期のことである。本授業では宣教の開始以来現代にいたるまでのプロテスタント・キリスト教の歩みを歴史的にあとづけるとともに、異文化を媒介として移入されたキリスト教信仰が日本人によっていかに主体化されたか、またその精神生活にとってどのような意味を持ち、社会生活にどのような影響を与えたか等について共に考えていきたい。

下記の教科書は、前半部分では日本におけるキリスト教の歩みについて、キリスト教主義学校に学ぶ学生として身につけてほしい基礎知識を中心に素描し、後半には関連史料を収録してある。学生には講義とあわせて史料に触れてもらい、自ら理解し解釈する力を養うとともに、歴史的出来事の発する〝声〟にじかに聞くことをとおして、過去の日本のキリスト教徒たちの信仰と生活とを追体験してほしいと願っている。

教科書　『史料による日本キリスト教史』鵜沼裕子（聖学院大学出版会）

参考書　「日本プロテスタント・キリスト教史」土肥昭夫（新教出版社）

日本社会とキリスト教 (4)　　講　師　隅谷三喜男

学問の世界でキリスト教を考える場合には、それは一つの文化現象として捉えられます。<キリスト教>と呼んで諸宗教の一つと見る時、すでに一つの文化現象とみられていると言ってよいでしょう。<日本社会とキリスト教>という講義の名称がすでにキリスト教を社会現象と考えている、と言ってよ

いでしょう。

この講義では二つの側面からこの問題に取りくんでみたいと思います。一つは西欧文化を作り出しその中で成長したキリスト教が、異文化をもった日本に入って来た時、日本社会にどのような影響を与えたかということです。この点については、①女性観・家族観の変革、②女子教育の展開、③隣人愛—実践—孤児院等、④幼児教育への開眼、⑤社会運動の展開、等について考えてみたいと思っています。

もう一つは逆に日本に定着し、そこで発展しようとしたキリスト教が、日本の伝統的な思想や社会の風習と衝突して挫折したり、それと妥協したりして、知らず知らずのうちに日本的なキリスト教になっている点を考えてみたいと思います。この点では、①日本の教会はなぜ都市中心の社会なのか、②なぜ中産的な知識層を基盤としているのか、③なぜ日本ではキリスト教徒は人口の１％を越せないのか、何が障害か、というような問題を考えてみます。

講義の前半は第一の問題、後半は第二の論点を取りあげます。

参考書　「近代日本の形成とキリスト教」隅谷三喜男（新教出版社）

「日本社会とキリスト教」「日本資本主義とキリスト教」「現代日本とキリスト教」

隅谷三喜男

キリスト教と文学　(4)　　教　授　黒木　章

本年度は通年で木下尚江を扱う。

キリスト教的社会運動家、小説家として近代日本の諸矛盾に取り組んだ尚江について知る人は少ない。最近『木下尚江全集』が刊行されているが、尚江の生涯と活動の意味について考える絶好のチャンスと考えるので、本学学生の積極的参加を特に期待する。

『懺悔」(明39) を丁寧に読みながら尚江の小説『火の柱』(明37)、『良人の自白』(明37) などを楽しみ、また特に足尾鉱毒問題における田中正造との関わりについて細かに考えてみる。勿論新聞記者、弁護士としての活動も評論文や書簡文を手掛りに解明したい。

テスキトは殆んどコピーを利用しなければならないが、担当者は学生と共に読み且つ討議することで一緒に勉強したいと望んでいる。その意味で演習的な方法にならざるをえないであろう。

夏休暇を利用して『木下尚江記念館』を訪ねることができれば一層楽しいと思われる。聖学院の身近かな先人にこれほど優れた人物がいたのかと驚くであろう。

キリスト教と芸術　(4)　　講　師　田中文雄

この科目においては、美術を通して示され伝えられたキリスト教信仰、キリスト教を通して展開された美術を学ぶ。

旧約聖書においては古代ユダヤ民族に対して啓示された神は唯一神であり、かつ偶像礼拝を厳しく禁じる神であった。神の戒めを順守した古代ユダヤ民族は、偶像崇拝への道を恐れるあまり、一切の

美術に対して否定的態度を保持した。キリスト教は古代ユダヤ教を母胎として成立し、その教義においては偶像崇拝の否定を継承した。だが、キリスト教二千年の歴史をたどるとき、そこにはキリスト教独自の美術の成立と展開があり、その結果は、他の主要な宗教の美術に比肩し得る高度なものに達した。キリスト教が土着化し、その展開の土壌を提供した東西ヨーロッパにおいては、中世から近世の初頭に至る一千年余りの期間、美術即ちキリスト教美術と言えるほどの優勢な状態に至った。その豊かな遺産は今日まで伝えられてきており、元来の場所に保存され、あるいは世界中の美術館・博物館を満たしている。近世中期以降、その地位は除々に世俗美術（非宗教美術）にとって代わられた。宗教改革以降プロテスタント諸教会では、それ以前のキリスト教美術の盛行を過度な逸脱と見なし、キリスト教美術の排除に努めた。しかし、キリスト教美術は今なお少数ながら存在し続けている。

この授業では、上述のような歴史的現実の中で展開したキリスト教美術を学び、そこで得た知識を元にして、宗教に根差した文化現象の意義と役割を検討したい。受講する学生諸君の、西洋史一般について、美術一般について、ヨーロッパの美術についての予備知識が十分でないことを予想し、その事情を考慮して、美術作品一般に対する基本的な対応の仕方（理解、分析、評価）や、西洋美術の歴史的展開の跡付け等も学習出来るように計画している。授業では、美術作品に親しめるように毎回作品のスライドを用いて講義を行なう。西洋美術史一般については参考図書を指定するが、キリスト教美術については、当方で用意する教材を用いる。なお成績評価は、毎時間毎の小テストの成績および、前後期期末テストで決める。

参考書　「ケンブリッジ・西洋美術の流れ　2　中世の美術」
アニー・シェイヴァー＝クランデル（岩波書店）
「ケンブリッジ・西洋美術の流れ　3　ルネッサンスの美術」
ローザ・マリア・レッツ（岩波書店）

5．政治経済学部　政治経済学科　専門科目

現代における文明の諸問題(4)

教　　授　金　井　信一郎
特任教授　近　藤　勝　彦
教　　授　西　谷　幸　介
教　　授　平　　良
教　　授　霜　田　美樹雄
教　　授　磯　部　浩　一
教　　授　北　山　直　樹
教　　授　保　谷　六　郎
教　　授　堀　家　文吉郎

総　論

本総合講座の主目標は、現代を如何に生きるか、を理解するにある。激動する世界の諸情勢、それと否応なく連動する国内情勢の転回の中で、自己のおかれた世界史的座標軸を見い出すため、８人による多角的な視野と方途でアプローチする。

キリスト教と社会政策　　教　　授　金　井　信一郎

近代社会の社会的・経済的・思想的指標を検討し、民主主義社会の要件を定式化してみたい。その際プロテスタント・キリスト教との関連に重点をおいて考え、なお、現代社会におけるキリスト教と社会政策（公共政策）との関連を考察する。(主として、R．ニーバークの moral Man and Immoral society および John Bennett の Christianity and Soual Policy に依拠する)

文明と宗教　　特任教授　近　藤　勝　彦

今日、文明の「基盤喪失」の危機が指摘されている。文明の基盤とはなにか。「文明の意味」や「文化価値の普遍性」をめぐって、「技術社会」における宗教と文明の関わり、文化圏のアイデンティティと文明のグローバリゼーションの問題、地球文明の精神的基盤の問題など、今日の文明の根本問題を考えてみたい。

デモクラシーのキリスト教的根幹　　教　　授　西　谷　幸　介

今世紀アメリカ最大のキリスト教神学者ラインホールド・ニーバーは、政治学者H．モーゲンソーからアメリカの「最大の政治哲学者」と称され、J．カーター元大統領等にも多大の影響を与えてきました。そのニーバーの「自由民主主義」に関する思想の紹介と解説の講義といたします。日本人が一国民としていまだにマスターしえていないのが「民主主義」でありますが、とりわけそれへのアンテナを欠いているもの、すなわち民主主義の「キリスト教的根幹」を共に学びましょう。

参考書　「光の子と闇の子－デモクラシーの批判と擁護」

R. ニーバー（武田清子訳）（聖学院大学出版会）

世界の人口問題　　教　　授　北　山　直　樹

現代の社会における重要な問題のひとつである人口の問題を中心に、３回にわたって講義する予定である。

現代の経済と社会　　教　　授　保　谷　六　郎

現代文明の一つの特色である経済と社会の問題をとらえる。このため、現代の「福祉の理念とその変貌」という観点に立って、「経済構造の変動と社会」の問題について、福祉、労働その他の社会問題と関連させながら考えてみる。また、現代社会の一つの特徴である「景気変動と社会」の問題を考察し、あわせて「バブル景気の教訓」にも言及し、わが国が当面する現代文明の経済的社会的な側面について論ずることとする。

比較政治研究の基礎的考察　　教　　授　霜　田　美樹雄

国際的つながりが公私にわたり深まりつつある現代社会において、他国の人々のそれぞれ独自な考え方、行動様式、価値観の相違が何に基因するかを考え、うまく対処することが、相互のトラブルを回避し、平和で明るい社会を構築するに役立つであろう。

一、諸異質文化の存在

　１．文化における風土の問題

　２．気候と風土

二、文化の形成

　１．集団生活の位階制

　２．人間（温血集団動物）の社会

三、文化の移入と変容

　１．教育と文化

　２．政治と文化

連邦国家と国家連合　　教　　授　平　　良

日本は比較的単一民族・文化・言語の国であり、制度的にも中央集権が著るしい。従って国家というものは自ら意思を設定する主権を持った絶対的なものと考えてしまう。しかしながら、世界においては日本と違った国家型態をとっているものも少くなく、連邦の形をとるものもある。一方国際社会においてはECのような国家連合が登場している。この場合に、今まで絶対的と考えられた主権の制限や、主権上の権利の譲渡を伴うものである。これからの国際社会を考えて行くために、国家主権の意

味を考えなおしてみたい。

教科書　『ヨーロッパ総合』鴨武彦（NHKブックス）

参考書　「新アメリカ史」中屋健一（三省堂）

「概説オーストラリア史」関根政美他（有斐閣）

「カネの役割と値打ち」　　教　　授　堀　家　文吉郎

『現代における文明の諸問題』の内

○「貨幣はなにゆえに貨幣たりうるかという問題」、すなわち貨幣本質論は、人間にとっては永久に不可解の主題であるに相違ない。この問題を読み切り連続の形で三回程講義したい。結論を示したり、押し付けるのが目的ではなく、謎を謎のまま、なぜ、どの様に謎なのかを伝えることが目的である。私が成功すれば、諸君は、以後ずっとこの問題をアタマの中で転がし続けることになるだろう。

○話題の展開に就いてはまだ成案を得ていない。

パラダイムの転換　　教　　授　磯　部　浩　一

はじめに

「現代文明における諸問題」という課題に答える準備作業として、現在進展しつつある諸変化を、自らの専門分野の領域において考察することにしたい。これは現代を諸変動の時代であると前提することである。

＜諸変化のフレーム＞

現代の諸変動を把握するフレームとして、ドイツ流の成層論的フレームが便利である。たとえば、経済現象は第１に表層において、生産、消費、輸出入など日常的、短期的な現象として繰返されている。第２に、中層においては、産業構造や、経済構造、経済の諸制度、経済体制などが形成され、維持されており、その変化は15～30年位の中期的なものである。第３の基層は自然的・文化的基盤であり、資源、環境、人口、価値観、技術などがその内容であり、変化は眼に見えにくく、長期間維持する。現代は、表層、中層、基層において変化が流動的に生じているのではないか。この点を、自らの専門領域で考慮することが必要と考えられる。

＜産業経済学の対象領域における変化＞

経済の成熟化にともなって、サービス経済化、情報化、ネットワーク化などの基本的な変化の動向の進展は、産業経済の領域、産業組織、産業構造の変化をひきおこしている。産業、企業の垣根は低くなり、新しい競争関係が生まれている。従来の市場、競争、産業の概念ではとらえられない変化が生じている。このような専門領域における変化を追求することによって、表層のみでなく、中層、基層の変化の実態に迫ることとなり、「現代における文明の諸問題」へアプローチする一つの試みとなることを期待したい。

＜講義の進め方＞

担当する講義の回数は多くない上に、大教室であるので、図表などの資料をプリントとして配布したり、ビデオを利用することなどを工夫するつもりである。

キリスト教社会倫理 (4)　　教　授　西　谷　幸　介

「キリスト教社会倫理」はキリスト教という宗教が人類世界に与えた倫理的影響の諸事実を確認し、その諸帰結を批判的に評価することを主眼とする。また、キリスト教の立場から現代世界が抱える諸問題を分析し、それらに対する有効な指針を提示しようとする。それゆえ、「キリスト教社会倫理」は本来、全体包括的な、壮大なスケールの学問であるが、本講義では原理的・方法論的な問題と、とくに政治経済学に関わるいくつかの主要テーマを取り扱う。

今年度の講義概要は以下のごとくである。前期：倫理、社会倫理、宗教と社会、宗教的言語、ヴェーバーの近代史観、マルクスの近代史観、トレルチの近代史観、トレルチの方法論。後期：人権思想（法の倫理性、自然法、人権宣言史、イェリネックのフランス人権宣言研究、ピューリタニズム)、政教分離思想（祭政一致、ビザンツ帝国神学、王権神授説、R・ウィリアムズ、O・クロムウェル、J・ミルトン、日本における問題)、民主主義原理（討論と寛容の精神、統一と秩序、自由と平等)。

教科書　『キリスト教社会倫理』W・パネンベルク（聖学院大学出版会、1992年)

参考書　1.「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」M・ヴェーバー（岩波書店、1988年)

2.「近代世界の成立に対するプロテスタンティズムの意義」
トレルチ著作集第8巻・トレルチ（ヨルダン社、1984年)

3.「人権宣言論争」G・イェリネック（みすず書房、1981年)

4.「ピューリタン」大木英夫（中央公論社、1968年)

5.「民主主義の本質」A・リンゼイ（未来社、1992年)

6.「現代キリスト教の霊性」W・パネンベルク（教文館、1987年）とくに第3章。

7.「トレルチとバルト」W・グロール（教文館、1991年）とくに124～126，131～159頁。

キリスト教社会倫理 (4)　　特任教授　近　藤　勝　彦

〔講義のねらい〕

「キリスト教社会倫理」的に考えていくということは、どのように考えるのかを理解してもらうこと。キリスト教的に考えることと、社会倫理的に考えること、この両者の結びつきが、現代の社会の中で貴重な意味を持っていることを理解してもらいたい。〔講義の内容〕－上記のことを具体的に、デモクラシー、人権の問題などを主に展開していく。その他、技術社会におとるエコエティカ－生態系を考える新しい倫理学－の問題、生命倫理、今日の問題としての結婚の倫理なども扱う。但し、前期は、原理的な諸問題「プロテスタント的文化価値の問題などが主になる。〔その他〕－講義なので出席し、ノートを取ることが重視される。参考文献などそのつどさらに指示する。キリスト教とは何かを

理解する必要があるので、その面での努力も期待する。

教科書　『キリスト教社会倫理』パネンベルク（聖学院大学出版会）

政治学原論 (4)　　教　　授　霜　田　美樹雄

講義の目標

政治に関する基本的知識の理解、整理から、自ら考え、政治に対する各自の立場を確立することを得させようとすることを目標とする。

講義の概要

政治の性格、その概念、政治権力、政治機構などを多角的視野から検討する。

講義の方法

黒板に板書しながら講義をする。

一、政治学序説
　1．政治現象
　2．研究上の制約性
二、現代政治学
　1．欧米政治学
　2．主要学説
三、政治権力
　1．支配の構造
　2．服従者層
四、政治支配
　1．支配用具
　2．権力の安定性
五、民主政機構
　1．基本性格
　2．メカニズム
六、ガバメント
　1．議会制度
　2．行政制度
　3．司法制度

講義の都度指示された参考書などは読むこと。

教科書　『政治分析』霜田美樹雄（成分堂）

参考書　その都度指示する。

憲　法 (4)　　教　　授　酒　井　文　夫

憲法学は、法律学全体のなかで、基礎的地位に在り、その要（かなめ）を成すものである。殊に最近は、統一ドイツの出現、東ヨーロッパおよび旧ソ連邦の激動時代を迎え、憲法に関する基本知識をもつことは、政治経済学部の学生にとって、極めて肝要であると考える。講義は次の順序によって進めるが、学生諸君の熱心な聴講と勉学を期待したい。

Ⅰ．明治維新の意義と特質

Ⅱ．明治憲法の制定過程

Ⅲ．明治憲法の基本原理と特質

Ⅳ．明治国家体制

Ⅴ. 天皇主権説と天皇機関説

Ⅵ. 敗戦と現行憲法の制定過程

Ⅶ. 現行憲法の基本原理

(1)象徴天皇制と国民主権

(2)永久平和の理念と課題

(3)「法の支配」の意義と重要性

(4)権力分立制の要点

(5)人権の思想と要点

Ⅷ. 近代憲法思想の流れと動向

Ⅸ. 日本憲法学の課題

講義を受けるときは、必ず『ポケット六法』を教室に持参して欲しい。六法全書を既に購入している人は、それで良い。

教科書　『ポケット六法（平成五年版）』星野英一・松尾浩也・塩野宏（有斐閣）

『テキスト・ブック憲法（第２版）』奥平康弘・川添利幸・丸山健（有斐閣）

政治思想　(4)　　教　　授　吉　田　博　司

前期は現代世界のイデオロギー的潮流の理解をテーマとする。東欧の激動に見る共産主義の破綻は民主主義思想の世界的再確認を意味する。民主主義的思惟の歴史的意味と価値とはなにかを我々は見直すべきなのである。そのために民主主義的思惟の歴史的、社会的な基盤及び条件を検討し（心理・歴史的分析）、それに対する全体主義的思惟（ファッシズム、コミュニズム）の挑戦の歴史をふりかえってみよう。いわゆる政治思想史とか政治理論史ではなく、政治思想を支える心的構造や歴史社会的条件を理解するのが本講のねらいである。このことは後期の日本の近代政治思想の検討にもいえる。後期は近代日本における民主主義思想、社会主義思想、反民主主義思想を代表的な思想家・思想団体を紹介しながら考察してみたい。福沢諭吉、山路愛山、上杉慎吉、吉野作造、「新人会」等がとりあげられよう。

※履修上の注意……毎回授業にノートのチェックをする。成績評価は試験のみによらず、ノートのチェックにもとづいた平常点を加味して行う。具体的方法については最初の授業に説明する。

教科書　『近代日本の政治精神』吉田博司（芦書房）

社会心理学　(4)　　教　　授　安　倍　北　夫

ハイテク、ハイコミそしてハイオーガニゼーションを近代社会を支える三本柱とすれば、それ故の近代日本の繁栄は、同時にその陰の部分として種々な歪みを生み出している。

大気汚染や水の汚染からはじまって、もろもろの都市公害がそれであり、又都会への人口集中と過疎の問題、原子炉発電所や航空機事故の問題も、その底流には「人間不在」が問われてきている。

この講義では社会と人間のかかわり、人間と人間のかかわりの力学を心理学の方法論によって解明しようとする試み、又それによって現在何がわかってきているのかを学ぼうとする。

主題として「態度とその変容」「説得とコミュニケーション」「組織とリーダーシップ」「コミュニケーション、システム」「社会的勢力」「脱個性化」「同調行動」「権威への服従」「広告や宣伝」「情報の伝達」「集合行動と群集」「流行」などをとりあげる。

テキストは特に定めない。

参考文献については主題ごとにその都度示すこととする。

経済原論 (4)　　教　授　石　部　公　男

経済学のうち理論に関する部分を主に取り扱う。経済理論は現在、ミクロ分析とマクロ分析の立場の2つに大きく別けられるが、その両者をともに扱ってゆく。

前期については経済学を履修しなかった学生の事も考慮し、経済学の由来など経済学全般の事についても多少触れるが、主としてミクロ理論を取り扱う。後期は主としてマクロ理論を取り扱うが、主要な経済学者の理論について歴史を踏えて、同時に取り扱う予定である。ヴィクセル、ケインズ、マーシャルといった経済学者の考え方など、具体的な人物名が授業中に挙がった場合は、同時に代表的著作物等についても触れるので、学生諸君は図書館等を利用し、積極的にそれらの本を読破してゆく事を期待する。

参考書は下記の書籍とする。

①「マクロ経済学」長谷田彰彦（富士書房）

②「ケインズ財政の破綻」J. M.　ブキャナン他著　水野、亀井訳（日本経済新聞社）

③「ケインズ一般理論入門」浅野栄一（有斐閣新書D－550）

④「ミクロ経済学」武隈慎一（新世社）

⑤「サミュエルソン経済学　上・下」都留重人訳（岩波書店）

経済原論 (4)　　講　師　冨　田　重　夫

いわゆるミクロ分析とマクロ分析の両分野にわたって、その基礎的な入門講義を行う。ただその講述の仕方として、過去200年を越える経済学の歴史の中で、いつ、そしてどんな経済学者たちによって、どんな経済問題が取り挙げられ、それらがいかに分析されたかを明らかにする。講義は下記の「要覧」をテキストとして行う。

本来経済原論は経済学の研究において最も基本的な原理を明らかにするものであり、これらの原理を理解した上で、さらに立ち入った個別の経済分析をなすことができるのである。その意味で十分な勉学の努力を期待する。

教科書　『経済原論要覧』冨田重夫（慶応通信）

参考書　「経済原論」千種義人他著（世界書院）

「経済学」上・下　P.A. サミュエルソン、邦訳（岩波書店）

経済史　(4)　　教　　授　金　丸　平　八

私の授業の目的は、貴方達に、経済史に関する基礎的事項を一つでも多く、正確に理解して頂くことです。従って、授業に際しては、出来るだけ解り易く説明するよう心懸けますが、貴方達も、一生懸命勉強して下さい。特に、書物－種類は問いません－に親しむよう努力して下さい。尚、教科書は指定しませんが参考書は、授業中に指示します。

参考書　開講時に指示

経済政策　(4)　　教　　授　磯　部　浩　一

1．ねらい

この科目では、経済政策は経済分析の出発点であり、経済政策論は経済理論、経済史を総合する経済学の集大成である、という立場をとりたい。

現実の経済問題に対応するために経済学が誕生したが、やがて政治経済学として発展し、さらに経済理論、経済史学、経済政策論へ分化した。現実の経済政策の批判的な検討をするためには、経済政策の分野だけでなく、経済理論、経済学史、経済史の分野の研究成果も必要である。この意味で経済政策論は経済学の集大成でなければならない。

現実の経済政策は経済現象だけでなく、政治現象、社会現象と密接に関連することが多くある。経済学だけでなく、政治学、社会学等の協力も必要である。

しかし、われわれは経済政策論を経済政策の形成過程に関わる経済理論であることに焦点をしぼって考えることにする。

2．講義のスケジュール

I　経済政策の目的と課題

II　経済政策の主体とその決定過程

III　経済成長と安定化政策

IV　市場の失敗と社会選択

V　現代の経済政策－その思想と系譜

VI　現代の経済政策課題

教科書　『基本経済政策』伊東正則・山崎良也編（有斐閣ブックス）

参考書　「経済政策論」尾上・新野編（有斐閣）

「競争と協力」藤井隆（同文館）、1985

社会政策　(4)　　教　　授　金　井　信一郎

社会政策の概念ないし思想は、19世紀の70年代、ドイツに起り、同世紀の80年代には早くも日本に

移入され、社会科学としての政策学の重要な一分野として発展した。しかし、この学問が対象とする資本主義社会の社会＝労働問題対策、換言すれば国の労使関係介入策としての工場法（労働保護立法)、労働組合法、最低賃金制、雇用・失業対策（労働市場政策)、社会保険・社会保障制度等にみられる一連の諸制度の多くは、資本主義の先進国であるイギリスで先がけて発展したものの、ここにいう社会政策(Sozialpolitik)なる学問は行われず、第二次大戦後になり、イギリスやEC諸国で社会政策（Social Policy）なる学問が急速に発展してきたが、両者間には大きな相違がある。

出講者は、ドイツと日本の伝統的社会政策の概念をふまえ、発生史的に、社会政策の諸制度の分析、また相互関連を講述するが、社会政策の発展形態としての雇用・失業対策や社会保障制度が、その対象領域を拡大してきた史実に鑑み、社会政策の理論構想も、従来の労使関係介入策という狭い視野から脱して、広い公共政策論への展開を想定しつつ、個々の諸制度を分析する。

本講義の内容構成は以下の通りである。

1．社会政策の概念（思想）
2．社会政策の端初形態＝工場法（労働保護立法）の成立と発展（その効果と影響をふまえて）
3．労働組合をめぐる社会政策（労働組合法等）
4．賃金・所得政策
5．労働市場政策（失業・雇用対策）
6．社会保険と社会保障
7．国際社会政策（ILOの機能と政策を中心として）
8．社会政策の展望と社会政策概念の再構成

教科書（三訂）『社会政策講義』講義者分担執筆　平田冨田郎・佐口卓著（1993年3月青林書院刊）
参考書　必要に応じその都度紹介する。
学生諸君への要望：必修科目であり、かつ難解な内容になるので、出席を重視し、丹念にノートをとることを求めたい。

社会政策 (4)　　教　　授　保　谷　六　郎

社会政策に関する考え方や政策について労働問題を中心として現実の問題に即しながら体系的な学習を講義のねらいとしている。

本講義では、次の内容を取り上げる。

(1) 社会政策の用例や関連学問分野にもふれながら、社会政策の意義や社会政策等の推移について講義を行う。
(2) イギリス、ドイツ及び日本における社会政策が次第にその対象領域を拡大してきた推移についてその図の経済的社会的背景とも関連して講義を行う。
(3) 次の社会政策の分野に関してその機能と変遷等について講義を行う。
　労働保護政策…賃金政策、労働時間政策

雇用失業政策…労働市場政策、失業政策

労使関係政策…労使関係政策

(4) 国際的な労働問題の発生とその対応について講義を行う。

上記(1)、(2)は前期、(3)、(4)は後期で講義を行う予定である。

社会政策の体系的な理解も、現実の社会問題に関する興味や関心が基礎になければならない。その意味で、日頃から社会問題に関する記事・報道・自学自習に目くばり、気配りが必要なのはいうまでもない。

教科書　『三訂　社会政策講義』平田富太郎、佐口卓編（青森書院新書）

参考書　「入門労働経済論」保谷六郎（中央経済社）

労働経済論 (4)　　教　　授　保　谷　六　郎

労働経済論全般についての体系的な知識を身に付けることを目的とする。このため、労働経済論の各分野にわたる基礎的知識を現実に即しながら吸収できるようにしていく。

講義の項目は、(1)労働と労働経済の意義、(2)雇用論、(3)賃金論、(4)労働時間論及び余暇論、(5)労働安全衛生論、(6)労使関係論、を経済的な側面から取り上げる。この(1)では勤労観とその推移、各国の労働経済論の歴史についても講義し、(2)～(4)についてはそれぞれの項目の水準論、構造論、制度論等にふれ、(5)では安全衛生の水準論、労働災害の構造論、(6)では労働組合、団体交渉、労働争議・その調整等についてふれる。

前期では、(1)～(3)、後期では、(4)～(6)について講義を行う予定である。講義の項目が多いのでテキストにそって早いテンポで講義を進めていくことになる。また授業は、ディスカッション等をまじえて行うので、授業に「参加」する姿勢が必要である。

授業では、経済学の限界理論や無差別曲線の基礎知識（必要の都度説明はする）と授業で取り上げる労働問題や社会問題に関する予備知識をもっていることが、授業の理解を円滑にする上で望ましい。

教科書　『入門労働経済論』保谷六郎（中央経済社）

参考書　「労働経済学の基礎知識」田村剛

「労働経済論」隅谷三喜男

「労働経済学」島田晴雄

財政学 (4)　　講　　師　大　浦　一　郎

「財政学」は政府－国・地方公共団体－の経済活動を分析する。すなわち、政府の収入調達（課税・起債）や経費支出の内容および、それらの活動が経済社会に及ぼすミクロ的、マクロ的な効果が分析の対象となる。応用経済学の一分野として、経済学上の諸原理が主たる分析用具として用いられるが、同時に政治学とも深い関係をもっており、また法律学や会計学とも部分的に重なるところもあって、きわめて学際的な学問であるといえよう。

この講義では、わが国財政の制度や現実を参照しながら、財政学上の諸原理を説明するが、内容的には大学の「財政学」として標準的なものとなろう。受講生諸君が日本財政を考察する際に、正しく理解するための基礎的知識を与えることができれば幸いである。

なお、当然のことであるが、履修者はまじめに出席し、まじめに講義を聞くことが要求される。それができない者には単位の取得がむずかしいので、履修はご遠慮いただきたい。

Ⅰ．財政と財政学　Ⅱ．公共財　Ⅲ．予算制度　Ⅳ．政府の意思決定プロセス

Ⅴ．政府支出　Ⅵ．租税　Ⅶ．所得課税　Ⅷ．資産課税　Ⅸ．消費課税　Ⅹ．公債

Ⅺ．政府間財政関係　Ⅻ．財政政策

講義は下記のテキストに沿って行われるので、必携のこと

教科書　『財政学』大浦一郎ほか著（文眞同）

参考書　『統計からみる財政学』西村紀三郎編著（学文社）

統計学　(4)　　教　　授　北　山　直　樹

統計学を「統計データの科学」として把え、情報としての統計データの形や、統計データの表すものについての理解が進むことを目標とする。

講義は、テキストである「統計データの科学」に沿って行うが、本学の講義に合わない部分は、適当に省略し、また、必要な場合は、補足して説明することにより、分り易い講義を心掛けたい。

内容は、

個体についてのデータから統計データへ；統計データの表現；統計調査についての知識；統計データの加工；体系的統計データについて；統計データの正確性の検討；統計データについての諸基準；統計体系論から等々。

数学は、-度数分布、平均値、分散等が理解できる程度で充分である。

現在、統計データの利用は、各方面で、日に日に増加しており、統計データについての知識は、必要欠くべからざるものとなっている。受講生は、新聞紙上等に現れる、統計データの使い方や、その動きについて、できるだけ関心を持って頂きたい。

教科書　『統計データの科学』北山直樹（三協法規）

参考書　「日本の統計」総務庁統計局編（大蔵省印刷局発行）

金融論　(4)　　教　　授　堀　家　文吉郎

○この講義の目的は、受講者各人が自分で金融現象を観察し、新聞・雑誌等に載る折々の記事や論説を理解し、批判できるようにすることにある。大学の講義は、現象を遠回りして深く堀下げるのが特色で、それを怠ったのでは、フツウの「金融経済講演会」と同じ水準に止まってしまう。だから、一見迂遠に見える基礎的な理論・歴史・制度に関する事実を、むしろ積極的に講述することが必須である。私はこの講義で、この必要な常時忘れないつもりだ。だが、年間の授業回数が25回前後という制

約の中での仕事だからかなり忙しい。ついては、時間割りの都合や、卒業に必要な単位数を揃えるのを主な目的とし、常時の聴講を覚悟しない者の選択は切にお断りしたい。

○講述の順序（予定）は次のとおりである。

Ⅰ金融システム：資金→資金循環→金融制度→金融機関

Ⅱ金融行動：家計の行動→企業の行動→政府の行動→銀行の行動

Ⅲ金融市場：貨幣市場→資本市場→金利の決定→金利体系

Ⅳ金融政策：政策目標→効果波及経路→政策手段→政策効果

・特に教科書を指定しない。ただし、主要な参考書として常時参照さるべきは次の２冊で、これらは図書館の指定図書とし、諸君の閲覧に供することとしたい。いわば、準教科書である。その他はその都度教室で示す。

①浜田文雅・鴨池治編『金融論の基礎』、Ａ５判 290頁、（東京・有斐閣）1992年３月、価2,575円

②鈴木真実哉他著『金融入門』（昭和堂入門選書21）、Ａ５判 220頁、（京都・昭和堂）1992年10月、価2,500円

国際政治論 (4)　　教　授　松　井　弘　明

本年度は、東欧を中心としたヨーロッパの国際関係を主題とし、国際政治がどのような要因によって動いてゆくのかを考察する。時期は第一次世界大戦から現代までを扱う。東欧は中欧とも言われるように、ヨーロッパのまん中にあり、西欧的な要素とオリエンタルな要素を合わせもつ。その東欧は第一次、第二次世界大戦の発火点となり、戦後は冷戦の最前線となり、今また民主改革と民族紛争の一つの焦点となっている。列強の狭間（ハザマと読む）で生き延びる道を模索してきた東欧の国際関係は、国際政治を学ぶ恰好の材料となるであろう。

参考書　「ソ連の国防と東欧」松井弘明著（勁草書房）

国際政治史 (4)　　講　師　佐　伯　康　子

1990年から、国際情勢は激変したといっても言い過ぎではないだろう。第二次大戦以降、国際政治の特徴であった「米ソ両国の対立による冷戦体制」は、ソ連経済の行き詰まりから終焉を迎えた。ソ連のアメリカへの歩み寄りは、古くからみられる外交的特徴「膨張主義」からの脱皮であったのだろうか。否、そうではない。伝統的外交形態を離れなければらないほど、ソ連という国が疲弊してしまったからなのである。何故ソ連はそうなってしまったのだろうか。そしてソ連という国家が消滅してしまった今日、ロシア共和国は、リーダーシップをもつ国になれるだろうか。

アメリカは「冷戦」に勝ったと宣言した。アメリカという国が、国際政治の舞台に本格的に登場するようになったのは、第２次世界大戦以降の事である。我々はアメリカを初めから「大国」と見てい

る。ところがアメリカが、国際政治においてリーダーシップをもつようになったのは、わずか50年前でしかない。国際政治史の始まりを16世紀とみるのならば、アメリカがイニシアティブをもっているのは、ほんの少しの期間でしかない。

国際政治を考える時、今、現在の出来事に驚ろいているだけでは何にもならない。この授業では、国際政治を見る深い洞察力をつけることをねらいとしている。

詳しい事は、最初の授業で説明する。教科書は決めず、役に立つと思われる著書は、その都度紹介をしていく。

国政金融論 (4)　　講　師　岸　本　建　夫

会社の大小を問わず、国際経済、そしてその主要な要素である国際金融の流れの中に身を置かずに存在し、活動することは不可能である。個人や行政機関においても(たとえ地方行政であっても)、まったく同様である。

原材料、製品の輸出入や送金に伴うお金の流れ、日本円と外国貨幣との交換、内・外貨幣による海外との融資（ローン）取引、日本企業の海外での証券発行による賃金の取り入れ、また逆に外国政府や企業による日本での同様な行動、また最近ではお金の借手が相互に借入条件（貨幣の種類や金利）をスワップ（交換）するなどという現象もおきている。さらに、海外に工場や製品の販売拠点を作ろうとすれば、国際金融のほとんどすべてがかかわってくる。行政機関の場合であっても、自ら海外で債券を発行することもあるし、会社の国際的活動を支援したり、外国政府と交渉しようとすれば、国際金融の知識は不可欠である。

国際金融を理解するには、以上で述べた個別の業務にかかわる仕組を理解するほか、世界中のさまざまな経済主体がかかわるところから発生するさまざまな問題についても考察する必要がある。アメリカ、EC、産油国、旧社会主義圏などの経済の動きが国際金融に与えている影響とそれが必ずしも利害が一致しない各経済主体の間でどう処理・解決されようとしているのかということもみていきたい。

本講義では国際金融のさまざまな事象について、ミクロとマクロの双方から多面的にアプローチすることによって、学生諸君の本テーマ理解の一助としたい。

参考書　「図説国際金融」1992年版　大蔵省国際金融局（財経詳報社）

証券市場論 (4)　　専任講師　柴　田　武　男

「証券市場論」は、証券会社を中心とした様々な市場参加者から成立する証券市場の仕組みを明らかにするものである。

証券市場の構造を明らかにするには、歴史的変遷から説き起こしたり、制度的な説明に力を注いだりするが、本講義では現代の証券市場を対象にして、市場参加者を中心にした「証券市場論」を展開する。市場参加者といっても零細な個人投資家から生命保険会社等の機関投資家まで、投資金額からその動機まで多種多様である。これらの市場参加者を論じることは、すなわち現代証券市場論を論じ

ることである。

具体的な講義内容としては、講義が一方通行にならないよう毎週講義の前半で金融・証券面を中心として日経新聞の記事を受講生諸君とともに読む時間を設けるので、受講生は講義当日の日経新聞朝刊を必ず持参されたし。

また、映像時代にふさわしくビデオ教材を多用したい。参考までに講義で取り上げたビデオ教材として、NHK特集の「追求　企業社会」、「新・日本人の条件－彼女が会社を辞めた理由　知っていますか」があるが、諸君がこれから立ち向かう日本の企業社会の抱える問題についても言及していきたい。

教科書　『証券市場論入門』津村英文編（有斐閣）

参考書　「新版　現代証券事典」㈶日本証券経済研究所編（日本経済新聞社）

国際法　(4)　　講　師　栗林忠男

国際社会と法について一般的講義を行う。特に、現代国際法の当面する諸問題について考察を深めたい。受講者の数によっては、報告（発表）・討論の方式によって授業を進めて行くこともある。

教科書　『国際法－現代国際法を理解するために－』栗林忠男（放送大学教育振興会）

国際政治学　(4)　　教　授　吉川元忠

現在、経済の国際化はいよいよ進展し、それに伴う問題も複雑、多様化している。この講義ではそれらについて基本的枠組の理解を目指す。講義の内容は以下の通りである。

A．国際経済システムの形成　現在までの歴史的経緯を概観する。

　1．パクス・ブリタニカとそのシステム

　2．パクス・アメリカーナとそのシステム

B．国際経済学の理論

C．パクス・アメリカーナの再検討　以下の二つの面から検討する。

　1．産業競争力、貿易問題

　2．国際マネーフロー、ドル問題

D．国際経済システムと理論の展望

教科書　『アメリカの産業戦略』吉川元忠（東洋経済）

　　『国際経済学』ポイント経済学８（学文社）

参考書　「ゼミナール国際経済入門」伊藤元重（日経新聞社）

世界経済論　(4)　　教　授　吉川元忠

国際経済学では国際経済の基本的枠組の理解を目指し、また北（先進工業国）を中心としたのに対し、この講義では今後重要性を増す南（開発途上国）の問題を、主として扱う。両講義を合わせて受講することにより、国際経済の総合的把握に努めることが望ましい。講義内容は以下の通り。

A．南北問題　開発戦略論

B．アジア Nies 経済

C．資源・エネルギー事情

D．債務累積　援助問題

教科書　『世界経済読本』宮崎勇外（東洋経済）

参考書　「新秩序を求める世界」吉川元忠外（サイマル出版会）

経済開発論　(4)　　教　　授　山　本　鐐　造

社会主義国が崩壊しようと変質しようと、自由主義経済を保つ我々の住む資本主義国は経済発展を目指して常に開発投資を続けて行かなければならない。また同時に発展途上国にも援助を続けて、彼らの経済発展を促進し、世界の経済福祉と平和に貢献する義務を負っている。

本講では政治、経済、文化面が歴史的に複雑に混ざり合った現今の国際関係を、特に経済開発とその援助の面から光をあてて分析し、時事問題も取り上げながら、日本が将来の国際社会でどのような役割を荷なって行くべきかを追求して行きたい。そのため次のような順序で進めたい。

(1)英国の産業革命当時の経済開発から始めて、その後の各国の経済発展に関する分析と、学説の変遷を通覧する。

(2)厚生経済学理論上と、公共経済学上の開発投資の意義を検討し、

(3)諸分野の均衡を保ちながら飛躍的成長をもたらす条件を求め、

(4)実施のための投資計画や、政策の立案方法を考える。

(5)投資効率を最大限に発揮させるための企業化調査方法を研究する。

3年次に私のゼミを取る可能性のある諸君は、特に受講しておくことが望ましい。「世界の経済発展と国際関係」を知ろうと思う意欲のある諸君の受講を期待する。

教科書としては拙著『国際経済開発論』のなかから必要と思われる個所のプリントを支給するつもりであるが、何よりも講義に出席して、自分自身のノートを作ることが重要である。また成績のうち20％は出席点であるから、休まず聴講することを勧める。参考書についてはその都度指示する。

国際機構論　(4)　　講　　師　栗　林　忠　男

海・空・宇宙の利用から生ずるさまざまな法的問題を規制するための国際的制度について考察する。受講者による報告（発表）・討論の方式を一部とり入れることがある。

教科書　『国際法－現代国際法を理解するために－』栗林忠男（放送大学教育振興会）

比較政治論　(4)　　専任講師　鐸　木　昌　之

政治の本質は「力」にある。本年度は、「力」を支えるものとしての軍事力に関して、比較政治の観点から追求する。民主主義体制、あるいは権威主義体制下における政軍関係、第三世界諸国における

軍人の役割、軍事的思想等の特徴を講義する。

教科書　『国際政治と軍事力』西川吉光（北樹出版）

比較地域圏研究（アメリカ）　(4)　　教　　授　平　　良

政治経済は動いているので、必要に応じて話題を挿入することがあるが、概ね以下の計画による。

1．地理的特色　東部　南部　西部
2．植民地時代の残したもの
3．形成期、独立から南北戦争
4．成熟、南北戦争からニュー・ディール
5．発展　ニュー・ディールから現在
6．アメリカの民主主義・憲法の基本原理
7．選挙と政党
8．議会組織
9．立法権
10．大統領制度
11．大統領と行政権
12．裁判所制度
13．司法権
14．連邦と州・地方自治
15．自由・表現の自由
16．宗教
17．人権問題
18．教育と社会問題
19．経済の基礎
20．経済の発展
21．アメリカ経済の現実
22．対外関係の特色　孤立主義
23．パクス・アメリカーナ
24．日米関係
25．アメリカ文化と影響

以上

教科書　『アメリカ憲法入門』松井茂記（有斐閣）
　　『現代アメリカ経済』石崎昭彦他（東洋経済新報社）

参考書　「概説アメリカ史」有賀貞他（有斐閣）
　　「アメリカの政治」ポッター他（東京創元社）

比較地域圏研究（ヨーロッパ）　(4)　　教　　授　平　　良

政治・経済は変化するので、必要に応じて話題を挿入するが、概ね次の順序による。

1．ヨーロッパとは　地理的特色
2．ヨーロッパの形成
3．国民国家の出現と抗争
4．統合への動き　ECの形成
5．ECの発展
6．ECの組織　立法的機能　理事会
7．ECの組織　行政的機能　委員会
8．ECの組織　司法的機能　裁判所
9．ECの組織　補助機関　議会・評議会
14．ECの目的・物・人・サービス・資本の自由
15．ECの政策　農業
16．ECの政策　通商、運輸
17．ECの政策　社会政策・エネルギー政策他
18．ECの政策　経済政策・競争政策
19．ECの政策　通貨
20．ECの政策　税制
21．国家法の整合　統一法と判例法
22．共通法の形成

10. ECと加盟国
11. 対外関係
12. 欧州人権条約とその機関
13. 民主主義と基本的人権
23. 政治共同体、軍事共同体
24. ECと周辺諸国への拡大
25. 対日・対米関係

以上

教科書　『EC1992年ハンドブック』岸上慎太郎他（JAPAN TIMES）
『EC経済をみる眼』内田勝敏他（有斐閣）

参考書　「ヨーロッパとは何か」増田四郎（岩波新書）
「EC統合、欧州連合入門」藤原豊千他（東洋経済新報社）

比較地域圏研究（ソ連・東欧）　(4)　　教　授　松井弘明

ソ連の崩壊は、行きつくところまで行った。まだ一部の共和国では不安定な状況が続いているが、破壊の時代はほぼ終り、より困難な建設の時代に入ったと言ってよいであろう。ソ連が70年の歴史を閉じた今、われわれは、人類の歴史においてソビエトとは何であったのかを問われている。授業ではロシア革命からソ連の崩壊までを分析しつつ、その問に対する答を模索してゆきたい。学生諸君には、講義を受動的に聞くだけでなく主体的に考えることを要求する。教科書は使わず、その都度参考書を紹介する。

比較地域圏研究（東アジア）　(4)　　専任講師　鐸木昌之

東アジア（中国、朝鮮半島、台湾、ベトナムそして日本）の各国政治を概観しつつ、東アジア各国の政治体制の特徴を考えていく。また、東アジアにおける国際政治の歴史を解説し、NIESといわれる諸国の発展の条件と今後に関して展望する。受講者は新聞の国際面に目を通すこと。

参考書　「東アジアの国家と社会」全六巻猪口孝編（東大出版会）

比較地域圏研究（中国）　(4)　　教　授　秋吉祐子

「比較地域研究・中国」の授業は現代中国の政治・経済・社会情勢についての基本的実態を把握することを目的とする。

前期は主に1949年（10月）の中国共産党政権成立から現在までの歴史的展開をみることとする。後期は主に、テーマ別の内容とする。(例えば、「人口問題」「国際環境の中の中国」といったように)

授業内容の理解を深めるためのビデオ観賞、クラス討論、レポート作成（テーマは各授業終了後に提示）を行なう。

具体的な授業スケジュール（シラバス）は最初の授業時に配る。

備　考：1992年度の経験によると授業内容の転回が早いので、欠席をするときちんと自習をしない限り後の授業についていくことが困難となる。

教科書　『模索する中国』小島朋之

『中国情報ハンドブック1992年版』三菱総合研究所（蒼蒼社）

日本政治論 (4)　　教　　授　霜　田　美樹雄

講義の目標

主として明治期以降における日本人の外来文化、とくにキリスト教の受容定着の問題について考察することを最終目標とし、まず、外来文化とくに西ヨーロッパ文化の歴史的形成とその影響について考える。

講義の概要

文化－宗教－と政治権力の問題、自国文化と外来文化、政府の宗教政策とくに明治政府の国家神道政策、戦後民主主義の形成と課題

講義の方法

黒板に板書しながら講義する。

教科書　『キリスト教は如何にして現代に生きるか』霜田美樹雄（早大出版部）

参考書　その都度指示する

日本政治史 (4)　　教　　授　吉　田　博　司

近代日本政治史（明治～昭和）を政党政治（議会政治）発展に視点を据えてふりかえる。講義の予定内容は以下の順である。(1)明治憲法（大日本帝国憲法）の制定とその特徴。(2)初期議会と日清戦争。(3)明治末期にいたるまでの政党勢力の発展（政友会結成と桂園時代）。(4)第一次護憲運動（大正政変）から原政友会内閣まで。(5)原後と第二次護憲運動。(6)憲政常道時代。(7)軍部の怡頭と政党政治の凋落。(8)挙国一致内閣の時代（戦時下）。(9)敗戦・占領と吉田政治。(10)吉田後の政治（鳩山から岸、池田まで）。

政党史、内閣史に視点を据えるといっても、それをとりまく社会運動、思想状況といった歴史社会的背景を無視するわけではない。人物論も出来るだけ織り込み、生きた政治史理解を目指したい。

※履修上の注意…必要に応じて参考文献を紹介する毎回授業後にノートのチェックをする。成績評価は試験のみによらず、ノートのチェックにもとづいた平常点を加味して行う。具体的方法については最初の授業時に説明する。

教科書　『近代日本の政治精神』吉田博司（芦書房）

行政学 (4)　　教　　授　佐々木　信　夫

行政学は、ここ１世紀の間に政治学から分かれて成長してきた新しい学問です。かつてアダム・スミスが活躍した時代は夜警国家と言われ、政府は国防、治安、司法のみを行う小さな政府であることが理想とされました。しかし現代は人々の揺籠から墓場までを保障し、経済活動にも積極的な介入が期待される時代です。このような国家を職能国家、行政国家、あるいは積極国家と言います。

こうした飛躍的に重要さを増してきた政府の活動について、政治学の観点から研究をすすめるのが行政学です。その主な柱は、行政学の歴史、行政活動の類型、官僚制度、公務員制度、中央地方関係、地方自治、政策形成、行政統制、行政責任、各国行政事情、さらに大都市制度、広域行政、情報政策、国際政策、高齢政策、文化政策などです。本講義ではこれらについて講述する予定です。

教科書　『行政学への発想』佐々木信夫（ぎょうせい）

参考書　「行政学」西尾勝（日本放送出版協会）

「行政の活動」西尾勝（日本放送出版協会）

地方自治論　(4)　　教　　授　佐々木　信　夫

皆さんは市役所とか県庁というと何を頭に浮かべますか。たくさんの職員がいて道路や橋をつくるところ、福祉や社会教育をするところ、あるいは公務員が威張っているところ等々、人によってそのイメージするところは様々でしょう。それはともかく、市役所とは本来「市民の役に立つ所」という意味なのですから、少なくとも私達の税金が有効になるような仕事が行われていなければなりません。実際はどうか、これを制度や政策を通して皆で考えてみよう、というのが地方自治論という科目です。

この講義では、地方自治の歴史、自治体の仕組み、府県と市町村、特別区、首長、地方議会、地方税財政、政治、市民の権利、あるいは政策形成、情報公開、オンブズマン、都市問題、地域づくり、海外自治事情などが柱となります。

トクビル（A.Tocqueville）のいう「地方自治が民主主義の学校」となるよう、各地の豊富な実例を示しながら考察をしてみたいと思います。

教科書　『都庁－もうひとつの政府』佐々木信夫（岩波新書）

『現代地方自治の座標』佐々木信夫（勁草書房）

参考書　「地方自治」村松岐夫（東大出版会）

地方財政論　(4)　　講　　師　大　浦　一　郎

一般に、現代国家の公共部門は複数レベルの政府から成っている。わが国においても、しばしば国と呼ばれる中央政府のほかに、地方公共団体と総称される都道府県や市町村という地方政府があり、経済活動を行なっている。人々は日本国民であると同時に都道府県民、市町村民であり、それぞれが属する地方政府の行財政と密接な関係をもちながら日常生活を営んでいる。これらの地方公共団体が行なう経済活動が本講義の対象である地方財政である。

第２次大戦後のわが国の政府部門の支出をみると、地方政府部門の成長が中央政府のそれを大きく上回っていることが分かる。人口や産業の都市への集中・集積が地方政府部門の担当する行政に対する需要の増大をもたらし、量的・質的両面において地方財政を飛躍的に拡大させたのである。今日では、地方財政を無視してわが国の財政を語ることはできない。

本講義は、わが国の地方公共団体が行なう経済活動を中心にして、地方財政の役割、機能、収入面

支出面の問題点などを明らかにすることを目的とする。学生諸君の理解を容易にすべく、講義はできるだけ平易にすすめる予定であるが、受講生は最低限の経済学・財政学上の基礎的知識をもってることが必要である。したがって、履修希望者は共通基本科目である「財政学」の単位を取得していることが望ましい。講義の内容は以下のとおりである。

Ⅰ．地方財政の役割　Ⅱ．中央と地方の財政関係　Ⅲ．地方の予算と意思決定

Ⅳ．地方支出の構造　Ⅴ．一般行政支出　Ⅵ．教育・福祉支出　Ⅶ．産業経済支出

Ⅷ．地方収入の構造　Ⅸ．地方税　Ⅹ．地方交付税　Ⅺ．国庫支出金　Ⅻ．地方債

ⅩⅢ．地方財政政策

教科書　『現代地方財政学』能勢哲也・丸山高満編（有斐閣）

参考書　「図説　日本の財政」平成５年度版（５月頃発売）

もしくは平成４年度版（東洋経済新報社）

日本経済論　(4)　　助教授　大森達也

1990年代に入り、世界経済における日本の役割は大きく、その重要性はますます高まってきています。こうした日本経済に対する的確な現状認識と将来的な展望を持つことは、非常に重要なことと言えましょう。

1980年代は、世界の政治経済の急激な変動によって特徴付けられます。戦後、圧倒的な経済力を誇ってきたアメリカの相対的な比重の低下から、東欧における社会主義体制の崩壊まで、第２次世界大戦後の世界の政治経済の基礎をなしてきた体制が崩れさった時期と言えましょう。こうした世界の動きの中で、経済発展を続ける日本は、その経済力に見合った責任を果たすよう国際社会より期待されてきました。さらに、1990年代の日本は、世界経済全般の健全な発展のために、リーダーシップを担うことが望まれているのです。

本講義では、日本経済が直面している世界的な状況を踏まえ、戦後日本経済の成立、その発展の軌跡、経済政策あるいは体制上の特徴等についての議論を通じ、日本経済の現状と将来的な展望を得ることを目的とします。一年間、こうした目的を持って日本経済全般にわたり学習することになるわけで、非常に講義のスピードは早くならざるを得ません。したがって、受講希望の学生は、しっかりとした目的意識を持って本講義に望むことを期待します。

なお、本講義では、新聞などの記事をもとにした小テストを毎週行うほか、前期および後期の筆記試験、レポートの提出などを必須とします。

教科書　『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞社編（日本経済新聞社）

日本経済史　(4)　　教授　金丸平八

一般に、日本に於ける資本主義の発展は、明治維新以降のこととされている。そこで、本講においては、明治期の歴史的意義を説明し、続いて、日本の軽工業・重工業等々の発展過程について説明す

る。

教科書　開講時に指示

人口論 (4)　　講　　師 石　　南 國

1．講義のねらい・内容・方法

人口要因にからむ現実問題（貧困問題・都市集中問題・公害問題その他の社会病理現象の問題など）を念頭におき、≪経済人口学≫あるいは≪人口経済学≫を主題として人口と経済との相互関連をめぐる理論を究明し、その実態分析の方法について講じてゆきたい。

2．講義の年間スケジュール

1）人口問題の歴史性：人口問題の発現形態と歴史性、人口の波と人口問題、人口転換以前の人口問題、人口転換過程と人口問題

2）人口学における歴史・理論・政策：人口の歴史、理論および政策、人口学における理論と政策、人口学における政策と人口過程

3）近代経済学とマルサス：マルサスの人口原理と有効需要原理、長期停滞理論とマルサス、経済成長とマルサス

4）人口統計の方法：人口増加、人口動態、人口構造、人口分布と移動

5）日本の人口・世帯数の増加と住宅建設循環：人口増加と世帯数の増加、婚姻数と世帯数の増加、世帯数の増加と核家族化、世帯数の増加と住宅建設、住宅建設と景気循環

6）日本の人口高齢化と生活構造：人口高齢化と世帯構造の変化、人口高齢化と家族構造の変化、人口高齢化とライフ・サイクル、人口高齢化と消費構造の変化

7）アジア NIES の経済発展と人口要因：産業的世界普及とアジア NIES の経済発展、アジア NIES の工業化とそのパターン、アジア NIES の高度経済成長と人口要因、アジア NIES の経済成長と儒教秩序

8）中国人口の分析と将来推計：中国の人口増加と動態動向、中国人口の構造変動、中国人口の経済構造の変動、中国人口の都市化と移動、中国人口の将来推計

9）世界人口の前途と永久平和：世界人口と人口波動、人口効果と将来、人口政策の有効性、人口政策と国際協力、世界の永久平和をめざして。

教科書　『人口論』石南國（創成社）

『世界平和と人口政策』南亮三郎・石南國（千倉書房）

参考書　「現代の人口問題」黒田俊夫・大渕寛編（大明堂）

社会保障論 (4)　　教　　授 城 戸 喜 子

社会保障とは自立と自助を基盤に、親族・近隣間にある相互援助の関係を拡大し、法定化した社会制度であり、経済的側面、健康の側面、および心身並びに社会的ハンディキャップ克服の側面にわた

る。しかしどの側面に関する制度も、その国あるいは社会における歴史や、経済力や精神的風土から影響を受け、様々な形を取っている。

この講義では、現代日本における社会保障制度の概要を紹介し、その意義を考える。

年度の前半は、1）社会保障の目的と機能、2）日本の制度の社会的背景（人口、世帯，家族、扶養意識等)、3）労働力と就業状況

年度の後半は、4）経済水準と財政基盤、5）社会保障の財政構造、6）所得保障制度（年金と生活保護)

を取り上げる。教科書は定めず、講義全般にわたる参考書と、テーマによっては特定の参考文献を指定し、学期毎に最終試験を行う。

学生は自分自身と、家族・友人に関わる問題として講義を聞き、新聞やテレヴィによる報道に注意を払って貰いたい。

参考書　「国民生活白書」(経済企画庁国民生活局)

「労働白書」(労働省大臣官房政策調査部)

「社会保障入門」厚生省大臣官房政策課（中央法規出版)

福祉行政論　(4)　　教　授　城　戸　喜　子

社会保障論が日本の経済保障制度（年金と生活保護）を扱うのに対し、この講義では日本健康面の保障（保健医療保障制度）と、心身並びに社会的ハンディキャップ克服の側面（社会サービス保障）を中心に、紹介と解説を行う。

前期は、保健医療保障制度に関して、1）保健医療の供給組織（保健医療制度）と、2）保健医療費

後期は、3）保健医療費の保障制度（健康保険制度）と、4）社会サービス（老人福祉、障害者福祉、児童福祉、家族政策）保障制度

について概要を述べ、今後の検討課題について考える。教科書は定めず、講義全般にわたる参考書と、テーマに応じて特定の参考文献を指定する。なお学期毎に最終試験を行い、レポートの提出を求める。

学生には、自分と家族の健康、人々の助け合い精神を基礎にした仕組みについて、考えながら講義を聞いて貰いたい。

参考書　「社会保障入門」厚生省大臣官房政策課（中央法規出版)

「厚生白書」厚生省大臣官房政策課（大蔵省印刷局)

環境計画論　(4)　　専任講師　村　上　公　久

キーワード：STEWARDSHIP（環境管理の責任)、‘人間－環境’系、環境保全、土地利用、再生産可能な資源

1.「3つの文化型」　人間と自然との関わり

2.‘人間－環境’系　への統治管理責任

3．環境問題の歴史

4．環境保護運動の歴史

5．無思慮な悲観論とセンチメンタリズムの危険

6．環境保護と環境保全

7．再生産可能な天然資源

8．保続的（持続的）生産を考える

9．21世紀の環境問題

10．環境難民の時代

11．新しい世界秩序

12．保続す'人間－環境'系をめざして

別途に開講されている一般教育科目「環境学」は、主として上記の各論を講義する際に必要な基本的な学びを扱い、本科目の基礎となる知識を提供する。

人間関係論 (4)　　教　授　安倍北夫

人間関係の基本の力学について学ぶ。

主題としては、「他者の認知」－表情によって相手の感情や意思ひいては人柄を判断する過程はどのように行なわれるか。主体の側の条件、たとえば偏見や先入念、あるいは文化的背景や文脈はどのように他者の認知を変えるか。いわゆる、「人をみる目」とは何か、さらに「共感性」の問題についても考えてみる。「魅力の構造」あるいは人間結合の力学、男女牽引の法則についても考察をすすめたい。

「行為交換」あるいは「社会交換」も、この講義のねらいの一つである。「目には目を、歯には歯を」というのは何をさすのか。又それを支配する条件は何なのか。

この他、「社会的比較過程」、「自我概念の成立」、「互恵の規準」や「とり引き行為」についても考察する。長期的展望と相互信頼関係の中でなら「協力」が期待出来るのに、何故、一般的人間関係の中で、みすみす「共倒れ」事態が現出してしまうのか。

これらの主題について、主としてこれまでなされてきた研究の成果を紹介することを通じて考えていくこととする。

テキストは特に定めない。

主題ごとの参考文献についてはその都度指示する。

理論社会学 (4)　　助教授　土方　透

「高度情報化社会」が叫ばれて久しい。最近の技術革新がもたらした通信手段・コミュニケーション手段の発達は、世界中の出来事を瞬時に把握可能とした。世界は狭くなったのである。このことは、同時に社会の拡大を意味する。つまり、いまや「世界」そのものを社会、すなわち「世界社会」と呼びうるほど、「社会」の規模が拡大したといえる。我々は、ベルリンの壁が打ち壊されるその瞬間をベ

ルリン市民と同時に見ることができ、また、かつて祖先が村全体で飢饉や冷害について対策を講じあったように、オゾン層破壊による地球温暖化といった地球規模の問題を、世界全体で話し合っているのである。

このような状況にあって、多くの社会科学がそうであるように、社会学もまた、多様化した価値と、氾濫する情報に直面し、多極化、分散化を繰り返している。もはや統一的な意味のもとに世界(社会)を語ることをせず、また全体として世界（社会）を理解することを放棄しているかのようである。

本講義では、まで、このような理論的様相を念頭に置きつつ、従来の社会学理論を再検討する。その過程で、我々はどの社会学理論の構築に際しても、社会現象を包括的に把握しようという意図があったことを理解するであろう。そこで、さらに理論のそうした意図を構成する背景にまで言及することを通じ、その限界と隘路を探り、社会を包括的に把握する新たな理論構築の可能性を模索したい。すなわち、この社会にあって、我々の依拠する構造、価値およびそれを実現する規範が如何にして可能か。したがって、社会の普遍理論は可能かということが全体を貫くテーマとなる。

講義には、それ相応の抽象的思考と洞察力が要求される。意欲ある受講者を希望する。

教科書　教室で指示する。

法思想史　(4)　　専任講師　加藤恵司

法思想史という学問は、これまで法哲学の学説を年代順に並べる法哲学史ないし法学説史が主流であったが、その方法論をめぐってさまざまな議論がなされ、まだ定説をみない比較的新しい学問である。法思想は、法とは何か、法の拘束力は必要なのか、正義とは、人権とは、という法理論を内包しながら、政治、経済、社会などを含めた膨大な知識があってはじめて理解できるものである。

わが国の近代化は、西欧の影響を決定的に受けており、法制度についても同様である。にもかかわらず、西欧の精神的所産に十分な理解をしているとは言いがたい。それゆえ、西欧の法思想に限定して講義する。現代の法思想の原理的なルーツを探究しながら、将来にどのような法が生み出される可能性があるかを考えてほしい。

前期は、法神授の法思想、古代ギリシャ・ローマの法思想（ソフィスト、ソクラテス、プラトン、アリストテレス等)、中世ヨーロッパ法思想（アウグスティヌス、トマス・アクィナス、スコラの法思想等）を中心に論じる。

後期は、近世の自然法思想、ドイツ観念論思想を把握し、続いて法実証主義の法思想を紹介する。

尚、受講者は法学の授業を受けた者、あるいは法学の基礎知識を得ていることが望ましい。参考書などは開講時に指示する。

教科書　『法の理念と法律の理想』津田市正（津田学院）

比較憲法　(4)　　教　　授　酒井文夫

日本の明治憲法と現行憲法は、欧米各国の強い影響を受けて制定されたものである。従って、日本

の憲法について理解を深めるためには、欧米各国の憲法思想・制度などについて、勉強することが肝要である。また、激動する世界情勢を理解するためにも、比較憲法に関する知識をもつことは、極めて必要である。このことを念頭に置いて、下記の順序に従い、講義を進めたい。

Ⅰ．ローマ法とゲルマン法

Ⅱ．イギリス

(1)イギリス中世史

(2)法の支配

(3)人権の発達

(4)イギリス宗教改革・二度の革命

(5)議会制度の歩み

Ⅲ．アメリカ

(1)建国の事情

(2)独立宣言

(3)連邦憲法の基本原理

(4)連邦憲法の特質と歩み

Ⅳ．フランス

(1)フランス中世史

(2)アンシャン・レジームと絶対王制

(3)フランス啓蒙思潮

(4)フランス革命の意義と特質

(5)フランス人権宣言

(6)革命後の動向と第五共和制

Ⅴ．ドイツ

(1)領邦国家の伝統

(2)ドイツ憲法の歩み

(3)旧西ドイツ憲法の特色

(4)ドイツ宗教改革と、その影響

教科書　『人権宣言集』高木八尺・未延之次・宮沢俊義（岩波書店）

『解説　世界憲法集（改訂版）』樋口陽一・吉田善明（三省堂）

行政法　(4)　　教　　授　佐々木　信　夫

行政法ってどんな法律だろう、第１条は何が書いてあるんだろう？こんな期待をもつ諸君も多かろうが、残念ながら行政法は民法や憲法のような形では六法全書にありません。内閣法、国家公務員法、国家行政組織法、地方自治法、地方公務員法、あるいは財政法、税法、国家賠償法、行政事件訴訟法、環境法、国土法など、政府活動にかかわる法律を総称して行政法と呼んでいるのです。

もっとも、学問としての行政法はこうした法律を一つひとつ解釈するという勉強ではありません。国民と行政の法関係、行政のしくみ、法治行政原理、行政の行為形式、行政上の利害調整、損害賠償制度、行政争訟などを柱に、その基本的な考え方や制度的に保障されている内容について学ぼうというものです。

本講義では、公務員試験など各種資格試験にも役立つよう、なるべく通説にそって、かつ事例を示しながら分かり易すい行政法をめざす予定です。

教科書　『行政法要論（全訂第２版）』原田尚彦（学陽書房）

六法全書『ポケット小六法』（平成５年版）（有斐閣）

民　法Ⅰ　(4)　　講　　師　甲　斐　義　弘

近代市民社会は、独立・平等・自由な法的資格を有する市民によって構成された社会です。この社

会に生きる市民間の社会生活関係を規律する法が私法であり、商法も私法ですが、民法はその基礎法ということになります。この市民社会における市民間の生活関係は、財産関係と家族関係との二つの面をもっており、私達の日常生活と直接関係のふかい法律が民法なのです。

この民法の仕組は、民法典に五編に分けて構成されており、第一編総則・第二編物権（物権法と担保物件法にわかれています）第三編債権（債権総論と債権法各論にわかれています）・第四編親族・第五編相続にわけて構成されています。この民法典の仕組のうち、第一編総則・第二編物件の部分か民法Ｉの講義にあてられています。

講義時間がごくかぎられているため、その詳細な解説は困難であるが、これらの部分の基礎的な理論を理解できるように、具体的な事例をあげながら講義をすすめていきたい。

教科書　『民法の解釈と判例〔Ｉ〕』甲斐義弘（大成出版社）

参考書　講義の折に指示します。

民　法II　(4)　　専任講師　加　藤　恵　司

本講義は、民法の債権法と家族法の領域が対象である。

債権法は大きく総則と債権に分けられる。総則では、債権そのものの内容や効力について学び、それから、ひとつの債権が遭遇するさまざまな局面、すなわち、債権が不履行になった場合、一つの債権に当事者が複数に存在するときの相互間の関係、債権が他人に譲渡された時の取り扱い、債権が消滅する場合について論ずる。

債権各論では、売買、消費貸借、賃貸借などわれわれの日常生活に密着した契約について学び、更に、契約によることなしに債権・債務が発生する事務管理、不当利得、不法行為に当事者が債権債務を取得してどこまで保護されるべきかを考究する。

家族法においては、夫婦関係、親子関係、相続、遺言などを具体的な事例を扱いながら基本的な事柄を講義する。

授業には必ず六法全書を必携のこと。

教科書　『民法の解釈と判例〔Ｉ〕』甲斐義弘（大成出版社）

『六法』（コンパクト、ポケット、デイリーどれでもよい）

商　法Ｉ　(4)　　講　　師　河　原　文　敬

商法総則、商行為の授業を前期に、後期は手形法、小切手法の説明を行う予定です。商法の諸制度は、商法に特有なものもありますが、民法の制度を基礎としてその特則として位置づけられるものも少なくありません。商法Ｉの受講者は、民法の授業を受けるように（すでに受講した学生を）望みます。授業の進め方の具体的事項は開講時に説明しますが、六法（「コンパクト六法」のような小六法でよい）を必ず授業の際に持参して下さい。

教科書　『概説　商法Ｉ（改訂版）』戸田修三（南雲堂深山社）

商　法II　(4)　　講　　師　河　原　文　敬

商法典第二編の「会社」と有限会社について説明します。会社の発生についての沿革、経済的な機能についても、私の力の及ぶ範囲で言及したいと考えています。しかし、法的制度が授業の中心になりますので、六法は必ず持参して下さい。

下記の教科書以外の参考文献は適時、指示しますので多読を薦めます。

教科書　『新訂　会社法〔第三版〕』加美和照（勁草書房）

会計学　(4)　　講　　師　萩　野　雅　司

会計学は、簿記の技術をマスターした者が学ぶ科目である。簿記が技術の科目であるとすると、会計学は理論の科目である。本年の会計学は、財務諸表の理解を中心に進めるが、次のような会計学の応用および政策的な側面も講義する。(1)会社をどのような方向へもっていったらよいか、というような会計政策。(2)財務諸表を分析し、その企業の改善すべき点をみつけ出す訓練。(3)優良な会社と倒産しそうな会社の見分け方等々。なお、会計学を希望する学生は、すでに簿記を学んだことのある学生か、又は当大学で簿記の授業を修了した者が望ましい。簿記を学んだことのない学生及び簿記を同時履修している学生は、殆どついていけない。教科書は、授業開始後に指示する。

簿　記　(4)　　講　　師　萩　野　雅　司

会社・役所・学校あるいは病院等、各種の組織の中で人が活動するところでは、必ずお金が必要になるし、場合によっては多額の財産管理も必要になる。このお金の動きや財産の管理は、一定のルールに従って公正に処理しなければならない。この一定のルールに従った公正な処理の方法が、簿記である。したがって、簿記は「処理の方法」であるから、「理論の学問」というより「技術」である。技術は毎日訓練しないと腕が鈍る。簿記も技術であるから、毎日練習しないと忘れてしまう。簿記の授業に落伍しないためには、家庭で十分に復習することが必要である。安易な気持ちで履修する学生がいるが、本年度から一層厳しくする。自宅で毎日練習できない学生は履修しないでほしい。履修する学生は、相当な覚悟が必要である。教科書は、授業開始後に指示する。

経営管理　(4)　　助　教　授　後　藤　兼　一

1．講義のねらい…コンピュータのソフトウエアを開発し保守を行う会社にソフトウエアハウスというのがある。本講では、ソフトウエアハウスをモデルに経営と管理の方法を実学的に学ぶ。将来、経営とか管理をまかされたとき、役立つ基本的な事柄を講義するつもりである。したがって、みんなにわかりやすい食堂の経営と管理の話をすることもある。

2．講義の内容および方法…本講では、経営管理とは何なのか、から始まり、ソフトウエアハウスとは何なのか、経営するとはどういう事なのか、管理するとはどういう事なのかを学ぶ。さらに、より良い経営、より良い管理を行うために改革と改善をどのようにすすめればよいか、その方法

を学ぶ。

3．講義の年間スケジュール…各区切りごとにレポートの提出を求める予定である。

4．受講生への要望等…出席を重視し、各区切りごとに行うレポート提出とテストによって評価する。経営管理演習Ｉを選択する者は本講を必ず受講すること。

商学総論 (4)　　講　師　上　原　征　彦

ここでは商業を流通と捉え、流通論の基礎理論と政策論を講義する。前期では、商品が生産者から消費者へ移転するプロセスを解明する。後期では、企業が商品を消費者に到達させる行為－マーケティング－についての研究を行なう。最後に、政府の流通政策にも言及したい。

1．商業と流通

2．流通の機能

3．流通を説明する理論

4．マーケティングの基礎概念

5．マーケティング戦略についての新しい理論

6．日本の流通機構と政府の流通政策

流通とかマーケティングは、今、社会科学の中でも最もホットなテーマを扱う学問の１つである。熱意とセンスのある学生の受講を望む。

教科書　『経営戦略とマーケティングの新展開』上原征彦（誠文堂新光社）

中小企業論 (4)　　教　授　磯　部　浩　一

日本の全企業の中で中小の事業所数は99.2％（89年現在）を占めており、中小事業所で働いている従業者数は80.6％（86年現在）である。このように中小企業は日本の産業の中で大きい比重をもって存在している。この中小企業は日本経済の中でどのような役割をもっているのか。日本産業の国際競争力の強さは、中小企業にとってどのような関係にあるのか。日本経済および日本産業が、世界経済の中で大きな役割をもっているが、中小企業の役割は、何であり、どのように変化していくのか。これらの疑問に答えることが、中小企業研究の課題である。関心をもって自ら勉強していく学生諸君の履修を希望する。

本年度は教科書を使用して、出来る限り、わかりやすく講義をする予定である。

教科書　『現代中小企業論』瀧澤菊太郎（放送大学教育振興会）（日本放送出版協会）

コンピューター概論 (4)　　助　教　授　後　藤　兼　一

1．講義のねらい…コンピュータはソフトウエアがないと、その機能を発揮することができない。ソフトウエアは一般にコンピュータがわかる言語で記述されている。本講では、パーソナルコンピュータの基本的言語であるMS－DOS（米国マイクロソフト社）とBASICについて学ぶ。将来、

ソフトウエアを自分を作らなければならなくなったとき、又、コンピュータを本格的に使わなければならなくなったとき、役立つ基本的な事柄を講義し実習を行う。

2．講義の内容および方法…本講ではOS（オペレーティングシステム）とは何なのか、何ができるのか、BASICとは何なのか、何ができるのかを学ぶ。コンピュータの中での情報はファイルという形式でいろいろな処理が行われる。ファイルはインストラクション（命令）またはプログラムによって処理される。これらを座学と実習で行なう。実習は受講生の進度に合わせて行なう。

3．講義の年間スケジュール…前期は一太郎、LOTUS 1-2-3などアプリケーションについて簡単な復習をまず行ない、次にMS－DOSの講義と実習を行なう。
後期はBASICの講義と実習を行なう予定である。

4．受講生への要望等…出席を重視し、講義分についてはテストを行ない、実習分についてはレポートによって評価をする。本講を受講するものは情報処理論において、評価がA又はBで合格しているか、あるいは一太郎とLOTUS 1-2-3について受講生と同等以上の実力があることを条件とする。

教科書　『情報処理システム入門』浦昭二、市川照久（サイエンス社）
『MS－DOS』河西朝雄（ナツメ社）
『BACIS』河西朝雄(ナツメ社)

参考書 必要に応じてプリントを配る。

情報処理論 (4)　　助教授 後藤兼一

1．講義のねらい…ワープロ用ソフトウエアなどコンピュータのパッケージソフトウエアが町にあふれている。本講では、代表的なパッケージソフトウエアの利用と活用の方法を実習する。将来、パッケージソフトウエアを使わなければならなくなったとき、役立つ基本的な事柄を講義(教室)し実習（コンピュータ室）を行う。みんなにわかりやすい題材をもとに実習を行なう。

2．講義の内容および方法…本講では、情報処理とは何なのか、から始まり、パッケージソフトウエアとは何なのか、文字情報、数値情報、画像情報、ファイル情報などの情報はどのように加工すればよいのか、その方法を学ぶ。現在市販されているパッケージソフトウエアにはどんなものがあるのか、そしてどんな特徴があるのか学ぶ。

3．講義の年間スケジュール…代表的なパッケージソフトウエア（一太郎、LOTUS 1-2-3）について、講義（半分）と実習（半分）を組み合わせて行う。

4．受講生への要望等…出席を重視し、講義分についてはテストを行い、実習分については各パッケージソフトウエアごとに出してもらうレポートとによって評価をする。経営管理演習Ⅰを選択する者は本講を必ず受講すること。
次年度にコンピュータ概論を受講する者は、本講評価A又はBで合格している、あるいは一太郎とLOTUS 1-2-3について受講生と同等以上の実力があることを条件とする。

教科書　『初めての人によくわかるコンピュータ』小川真一（西東社）

『一太郎 Ver. 4 入門』一文字真（アスキー出版局）

『Lotus 1-2-3入門』坪井達夫（アスキー出版局）

必要に応じてプリントを配る。

マスコミュニケーション論 (4)　　講　師　岩　渕　美　克

1．講義のねらい

本講義では、現代社会の中核をなすとまで言われているマス・メディアをとりあげ、それらを媒介にして社会の問題点、現代社会そのものに関する理解を深めていきたい。

2．講義の内容・年間スケジュール

A）現代社会の情報；現代社会に於いて情報の持つ意味、役割、機能について解説する。そして、その中でのマス・メディアの存在について概観する（2回）。

B）現代のマス・メディア；現代社会に於けるマス・メディアの実態を明らかにする。具体的には、新聞、雑誌、ラジオ、テレビ等を取り上げて現状の分析を行っていきたい（5～6回）。

C）マス・メディアの歴史；前述4つのメディアに付いての簡単な歴史を概観する（3回）。

D）マス・メディアの機能；現代社会に於けるマス・メディアの機能、役割について概観し、今後の予想され得る機能、変化について解説する（2回）。

E）内容分析の方法；マス・メディアのメッセージ分析の分析手法としての内容分析を説明し、実際の分析を行う（1回）。

F）効果研究の系譜；マス・メディアがもつ社会への影響をみていくために、効果研究の系譜を概観する。具体的にはコミュニケーションの流れ研究、利用と満足の研究、説得的コミュニケーション研究、効果の一般化、議題設定機能仮説、沈黙の螺旋理論仮説、スキーマ理論、培養分析等を取り上げて解説する（8～10回）。

3．受講生への希望　特に無い。

4．テキスト　特に指定しない。

専門英語 (4)　　教　授　杉　本　栄　司

このクラスでは、諸君の英語力と英語への関心を、諸君の専門領域へひろげ、諸君の眼を政治・経済・社会の諸問題に向け、社会に出て直接役立つ英語力を養うとともに、将来専門書読解の助けとなる語彙力の強化を計っていきたい。このクラスを通して自力で英語を学びとる向上心を培ってもらいたい。教えてもらって憶えているだけでは活力に満ちた英語は生まれない。

一回の授業を前半・後半に分け、前半では政治・経済・社会の諸問題に焦点を当てた時事トピックスを中心に考えつつ、そこに現われる〝up to date〟な英語や、役に立つ英語表現を学びとっていく。

後半は日米の文化問題を扱ったテープ教材を聞き、耳から理解する訓練を積む。テープ教材から話

題を引き出し、しかしながら教材に束縛されることなく、自由に、諸君の英語力に応じて易しい対話をして、各自に有益な言語体験をしてもらう。これを行なうには受講生の人数も関係するのでクラスが始まってからどのように行うか指示する。

教科書　『*English Through Mass Media* (II)』長谷川他編（成美堂）

専門英語　(4)　　教　　授　寺　田　正　義

今年度は時事英語における表現力の養成に力点を置きます。時事英語に慣れるためには、単に英文を読むだけではなく、実際に書いてみることが大切です。書く作業を通じて、時事英語特有の語彙、語法、文体が体得できるわけです。この授業では広く世界の時事問題に目を開いてもらうために、毎回、最新のCBSやCNNのニュースをビデオで見ることも予定しています。

教科書　『*Current English Writing*』横尾和歌子（弓書房）

キリスト教社会倫理演習Ⅰ　(2)　　教　　授　西　谷　幸　介

前期はイギリス・ピューリタニズムの代表的思想家ジョン・ミルトンを、とくに「寛容」思想を中心に学ぶ。後期はアメリカ・コングリゲーショナリズムの父ロジャー・ウィリアムズを、とくに「政教分離」思想を中心に学ぶ。両者に関して邦語による適当な研究書は見当たらない。参考書・論文はその都度指示する。ミルトン『アレオパジティカ』（岩波文庫）は各自用意しておくこと。

政治学原論演習Ⅰ　(2)　　教　　授　霜　田　美樹雄

テーマ　政治と宗教

内容と形式

目標

われわれ日本人は多重信仰を持つといわれている。これが何故かを社会的政治的視角から検討し、信教の自由のあるべき姿を見出さんとする。

教科書　『キリスト教は如何にして現代に生きるか』霜田美樹雄（早大出版部）

参考書　その都度指示する。

年間スケジュール

前期は共同研究・共同討議・後期は各自の研究報告を中心とする。

履修の条件

何もない。積極的自主研究の努力を期待する。

憲法演習Ⅰ　(2)　　教　　授　酒　井　文　夫

この演習の参加者は、なるべく全員が、私の比較憲法講義に出席してくれることを期待したい。

さて、この演習においては、明治憲法と現行憲法の相違点を明確にし、現行憲法に対する理解を深

めることを主眼としたい。しかし、欧米各国憲法の思想や制度について理解を深めることも大切であるので、この点への配慮も常に行いたい。

授業の進め方としては、私が毎回、事前に学生諸君にテーマを割り当てるので、それについて報告してもらう。それに対し、私が論評すると共に、懇切な講義を行う。

また、夏休みには、四百字詰原稿用紙で、30～40枚の論文を書いてもらうので、早目に準備に取りかかって欲しいと思う。

学生諸君が本学を卒業した後も、思い出に残るように、私はこの演習授業に全力を傾ける所存である。学生諸君と共に学び、共に歩み、充実した一年間を過ごしたいものと念願している。

社会心理学演習Ⅰ (2)　　教　授　安倍北夫

現代社会を人々は国際社会、情報社会、技術社会、さらに管理社会とか組織社会とよぶ。あるいは世代が高年齢に傾斜していくことをもって高年齢社会とよぶ人もある。

そのいずれもわれわれの生活する世界をより効率的にかつ、より良くすることをめざしてのものに他ならないし、又その結果として生じたものでもある。また、このことは急速に発展をしてきた我が国に典型的にみられる状況でもある。そしてそのこと故の様々な「きしみ」や「歪」も、我が国に典型的に出現してきているといって良いのではなかろうか。

この演習では、社会とわれわれ自身が当面しているこうした「歪」をとり出して、そのよって来る理由や条件、さらにその解決の方向をさぐっていくことを狙いとする。

すでに「人間関係論」あるいは並行して行われる「社会心理学」であつかわれているトピックス－「世界の中における日本人とそのパーソナリティ」「対人認知」「コミュニケーションや説得」「態度の変容」「群集やパニック」あるいは「家族関係」「高年齢社会」「犯罪・非行・自殺」「迷信」「ターミナル・ケア」「異文化交流」などのトピックスについて、より深い考察を行うこととする。

グループ又は個人での自発的研究を予定している。テキストはグループごとにその都度示すこととする。

他の講義としては「人間関係論」「社会心理学」のいずれかを履修していることが望ましい。

〔選抜〕15名定員を越えた場合は成績、出席状況、指導必修状況、論文などによって、選抜を行う。

経済原論演習Ⅰ (2)　　教　授　石部公男

原則として一般教養の経済学の単位を取得したもの、及び経済原論を履修し単位を取得したもの。但し、教養の経済学を履修していなくても同等程度の知識があれば可。

共通のテキストを使用し、各箇所ごとに発表者を定め、その内容に適合した参考文献等を調べ各自発表をしてゆく。前期はミクロ理論を中心とし、後期はマクロ理論を主な内容とする。発表者は、前もって発表内容についてのサマリー及び必要な資料をプリントし、ゼミ生全員に配布するものとする。それにより、全員がその内容について学習をし、発表時に、そのテーマについての討論も行うように

する。

毎回のゼミ運営はゼミ長及び幹事により行うので、最初の授業時にそれら役員を決定する。又、年に１～２回程度はゼミ合宿も行う予定であるが、合宿等については、ゼミ生の意見により決定する。

主な参考文献、資料等は下記のものを共通のものとするが、これら以外にも適宜授業中に指示をする場合がある。

参考書①「経済学―理論と思想―」(学文社)

②「ケインズ一般理論入門」(有斐閣新書)

③「現代経済学入門」(有斐閣双書)(増訂版)

④「経済原論」(世界書院)

⑤「経済学辞典」(富士書房)

⑥「経済原論」(新世社)(新経済学ライブラリー・２)

経済史演習Ⅰ (2)　　教　授　金　丸　平　八

経済史研究のための、基本的手順・資料の利用方法等所謂基礎的知識を養うことを目的とする。参考書としては外国語（英語）を含めて現在検討中。尚、必ず出席することが、第一の、そして不可欠の条件である。

経済政策演習Ⅰ (2)　　教　授　磯　部　浩　一

経済政策論、中小企業論の領域の諸問題を研究テーマとする。

目標：自分に関心があり興味のある問題を発見すること、つぎに、その問題意識を高めること、問題の実態を知るための方法を自ら探す努力をすること、自分で観察し、自分で考えること、報告書や学説を暗記するのではなくて、自ら確かめてみること－要するに積極的に、自主的に批判的に学ぶ姿勢と態度を身につけることを目標とする。

ゼミの運営も自主的に行うことを期待する。ゼミ長、幹事、その他の役割を分担する組織づくりを希望する。

まず、分かり易い調査報告書、たとえば「サービス産業の構造と中小企業」などを論読したい。次に、経済政策論と中小企業論の２グループに分けて、それぞれに主要な文献を論読、報告してもらう。２グループの報告の交互に行ない、全員が参加する。質問者をあらかじめ決めておくことにするが、全員が質問、意見、感想などの報告メモを提出する。全員が積極的に自由に討論することが目標であり、それが出来るように、メモを出してもうらこととする。

演習Ⅱをとらない者にも、卒業論文の計画づくりと論文作製を具体的に進めるように工夫し努力してもらいたいと考えている。

文献、資料、参考書等はその都度指示する。

労働経済論演習Ⅰ (2)　　教　　授　保　谷　六　郎

テーマ　経済変動と労働経済

目　標

テーマについての文献を読み、次に資料を収集・分析し、理論的な検討を行って結論を導く。実社会においても役つ立つこのような実証分析の手法を身につけながら、労働経済論の理解を深める。

内　容

経済知識と労働経済知識を同時に身につけるため、次の内容を取り上げる。

・人口変動と労働経済

・経済変動と生産性

・経済変動と雇用

・経済変動と賃金

・経済変動と労働時間

・経済計画と労働計画

その他の労働問題（とくに学生が興味をもつ問題）

方　法：全員が、このテーマについてテキストを読み、次に上記の内容を分担して資料の収集・分析を行い、結論に導いていく。

教科書、資料：その都度指示する。

年間スケジュール：前期は全員協同によるテキストの学習、問題別の資料収集、後期はグループ別研究報告、ディスカッションを主体とする。

履修の条件：とくにない。ただし、経済問題、労働問題に興味をもつことが必要である。

教科書　『景気の読み方』守屋友一、妹尾芳彦（日本経済新聞社）

統計学演習Ⅰ (2)　　教　　授　北　山　直　樹

統計データのうち、国民経済計算、社会生活指標等の、いわゆる、体系的統計データに焦点を当てて、勉強する。

テキストは別に指定せず、体系的統計データについての理解が深まるように、材料を揃え所在である。それらをゼミナール形式で、勉強して行くこととする。

なお、現在、国連のSNA（標準方式）の改訂も進行中であり、また、地球の有限性を表現するための勘定や、時間の勘定も考えられているので、余力があれば、それらにも触れて見たいと考えている。

受講生は、統計学の講義は、必ず聴いてもらいたい。

参考書　「統計データの科学」北山直樹（三協法規）

金融論演習 (2)　　教　　授　堀　家　文吉郎

○①女子の希望者が１名のみの場合は参加をお断りする。(経験上、ゼミナールの運営に支障があるか

ら)、また②病気その他やむをえない事情によるのであっても、事前に連絡なく欠席の者は名簿から外す（参加者の共同作業であり、仲間の迷惑となるから)、さらに③参加者は経済学〔主としてマクロ〕の骨格を十分に把握していること（そうでないと、お互いに困惑するだけだから)。

以上を承知の上で応募されたい。

○ゼミナールはテキスト〔英文、少し古いが下記〕を使っての論読が中心。ゼミぐらいは私の読みたい（読みたかった）本を読んでも良いだろう。１年で１冊を読み切る予定。

諸君の清新な反応を期待する。

○テキスト：－Colander . David C .(1991). Why Aren ' t Economists as Important as Garbagemen ? : Essays on the State of Economics . pp . x＋177. New York . M .E . Sharpe . ISBN 0-87332-777-2

国際政治論演習Ⅰ (2)　　教　授　松　井　弘　明

各自が選択したテーマに従って論文を作製する。年に２～３回の中間発表を行い、発表に対する批判・討論により論文を改善し、完成させてゆく。３年次の終わりまでに卒業論文の半分程度を完成させ演習Ⅱへ進む。期末テストは行わず平常点により評価する。演習ではとくに各人の問題意識と真剣な努力が要求される。

教科書　『増補学術論文の技法』　斉藤孝（日本エディタースクール)

国際政治学演習Ⅰ (2)　　教　授　吉　川　元　忠

●政治的側面が強まる下での国際関係の現実について理解を深め、企業・ビジスネの国際化にも対応できる能力の養成を目指す。

●「国際経済学」講義では、現代の国際経済システムの形成を跡づけ、そこを流れる基本的原理の理解を図っている。さらにこの演習では国際関係に互国間の政治的関係が深く関わってきている現実を考慮し、各自でその理解を深めようとする。教材としてアメリカで定評あるテキスト『国際経済関係論』(第３版、邦訳）を使用する。

●①全体の約四分の一は導入ないし問題意識をすり合わせる期間とし、米国経済を中心とする概論的講義、討論を行う。

②その後教科書或いは各自が追加した文献に基づいて個別発表を行う。

③さらに演習Ⅱに進もうとする場合、各自その準備としての小論文を作成する（年末までに提出。但し、演習Ⅰの成績には無関係)。

④海外より専門研究者が来日した場合、招いて特別演習を行うこともあり得る。

●以上より、学則として「国際経済学」を既に履修していることが望ましい。但し未履修の場合でも、今後の履修を条件として受講を認めることがある。

国際経済開発論演習Ⅰ (2)　　教　　授　山　本　鐐　造

現今の世界各国の関係は、①旧植民地と宗主国、第2次大戦の先勝国と敗戦国との政治関係、②近隣同士で戦争と平和、合併と分裂を繰り返して来た軍事関係、③貿易・金融・投資などの経済関係、④宗教・言語・民族・社会等の文化関係、⑤新しく独立した途上国と援助国との関係など、歴史的な諸関係が連続して来た所産である。今は民族独立紛争やイラクの暴挙などもあるが、北米自由貿易協定など地域統合も誕生したし、強いECを作るのに欧州各国政府首脳も懸命である。一方多くの国際機関関係が多重に組み合わさっているから、一国だけが国際平和を乱したりは出来ない。従来以上に人類の平和と平等に力を合わせて貢献できる時代に入った。

その間に日本は援助額では世界一、GNPでは世界二位程度の経済力と強い技術力を持つ国と頼りにされるに至った。ところがその実感が我々に湧いてこないのはなぜか。なぜ日本は世界の外交で小さくなっていて主張が通らないのかなど、①日本と諸先進国の政治理念と政治家の比較、②日本経済の脆弱性・特殊性、円の力、③世界に通用しない言語と文化の原因、などを認識して置きたい。

当ゼミでは、3年次生は先ず上記の認識をする。次に国や地域、都市や地点、分野、業種、官公庁等の、経済予測方法から始めて、開発投資計画の立案、フィージビリティ・スタディが作成できるまで、援助が経済面に及ぼす便益の計量と、環境汚染や地域所得格差拡大などのマイナス効果の取り上げ方を、ケース・スタディを用いて研究する。同時に4年次生の卒論の書き方も聴講する。3年次生は夏期休暇中にワープロを習得し、卒論はワープロで完成する。4年次生になれば3年次生に混じって復習し、個別に卒論作成指導を行なう。

発展途上国は気候・風土が厳しく、風土病なども多いから、当ゼミで学んで将来開発関係を志す、質実剛健、心身共に健康な諸君を歓迎する。従って基礎体力テストと簡単な口頭試問をする。

書　名　拙著：『国際経済開発』　(学文社)

参考書　その都度指示する。

比較地域圏研究（欧米）演習Ⅰ (2)　　教　　授　平　　良

現在アメリカで起きている問題の追跡をする。

日本の新聞を読みアメリカに関係した記事をすべて整理する。

アメリカの雑誌、TIME , NEWS WEEKなどを読み、アメリカの問題を整理する。

この両者を併せて、日本とアメリカにおける扱いを比較する。

この他に、テレビのニュースに注意する。出来れば、衛星放送によるCNNなどのニュースを見ること。

夏に2～3日の合宿を行う。

前期末に合宿のレポート、後期末にレポートを提出すること。

出席を守ること。成績不良の者は演習IIの選択を認めない。

日本政治史演習Ⅰ (2)　　教　　授　吉　田　博　司

前期は日本近代史の基礎的事項を講義し、質問を受ける。後期は近代日本の代表的政治家についての研究発表を学生諸君にしていただく。それをもとに質疑応答をしつつ、卒論に向けての助言をする。

教科書　『近代日本の政治精神』　吉田博司（芦書房）

行政学演習Ⅰ (2)　　教　　授　佐々木　信　夫

「日本の政府活動」について、制度、政策の両面から研究をすすめるのがこの演習のねらいです。ゼミ生一人ひとりが１つの省庁を担当し、その省庁のしくみや政策課題を研究しながら、それを全体としてぶつけ合い、まとめようとするのがゼミのスタイルです。これを閣議ゼミと呼んでいます。

ゼミ生は、まず春にそれぞれ自分の志望する省庁を決め、大臣に就任します。そして前期には、それぞれの政府白書を教材にして各省の歴史や制度、現在の課題を学び、報告しあい、夏合宿でこれを仕上げます。後期には省庁の政策課題の中から自分の関心に沿ったテーマを見付け、それをより詳しく調べ、この分野では誰にも負けないというぐらいの勉強をします。

それをもとに、12月中旬には早稲田、慶応、明治、学習院など10大学との合同合宿「インターカレッジセミナー」に参加します。ここで、自分の力と聖学院大の力を大いにアピールし、コンパなどを通じ友達をたくさん見付けます。私はこれを「もうひとつの大学」と名づけ大事にしています。というのも、この大学間交流を通じて、ウチのゼミ生は大きく成長するからです。

そのほか、国会や都庁見学、ソフト大会、コンパ、ディベート、洋上セミナーなど多彩な活動があり、人間関係もしっかり築き上げます。

なおゼミ生は、併せて行政学や地方自治論の講義を受講することが望ましい。

社会保障論演習Ⅰ (2)　　教　　授　城　戸　喜　子

前期は、社会保障に関する基本的知識と理解を整理させるために、中級レベルのテキストを論読する。しかし後期には、各人の選んだテーマ毎に報告と討論を行う予定である。

輪読に際しては各人に１節を割り当て、毎回担当箇所の概略の報告、専門用語や背景の説明、重要なポイントの指摘、および問題提起をして貰い、その後全員で討議する形式を取る。また後期におけるテーマ毎の報告に関しては、報告者の他に必ず討論者を割り当て、その学生には事前に配布された報告内容についての討論を準備して貰う。

テスキト：地主重美編　『社会保障論読本』新版、（東洋経済新報社）　1991年。

履修に当たっては、社会保障論または福祉行政論のどちらか一方を既習か、あるいは演習との併行履修を要求する。なお、希望者にはその理由を400字程度書いて貰う。希望者が定員を越える場合には、それによって受入れの許可を決定する。

マスコミュニケーション論演習Ⅰ (2)　　講　師　岩　渕　美　克

1．講義のねらい　マス・コミュニケーションの学術的な研究部分を広く理解すると共に、現状のマス・メディアから問題意識をもち、また、それら問題意識を解明するための調査研究のための手法を身につけることにある。

2．講義内容

A）調査手法；マスコミュニケーションの調査手法としての社会調査、内容分析の理論と実際の分析テクニックを学ぶ（5～6回）。

B）研究事例；前述した調査手法を用いた研究論文を読み、具体的な使用例について学ぶ（2回）。

C）グループ研究壱；各グループにわかれて、それぞれの問題意識に従って研究を行う（3～4回）。

D）夏合宿；前述したグループ研究を発表し、互いに各グループの研究を批判し合うことによって、よりよい研究を目指す。

E）グループ研究弐：合宿での発表を修正して、学園祭において発表する（4～5回）。

F）研究報告・反省；研究発表の評価、反省をグループ内、グループ間で行い、その結果をレポートとして提出する（4～5回）。

3．受講生への希望　積極的な態度で臨んで欲しい。時間の無駄は教員にとっても、学生にとっても何の価値も持たない。

4．備考　演習はⅠ、Ⅱ合同とする。

経営管理演習Ⅰ (2)　　助　教　授　後　藤　兼　一

1．演習のねらい…将来親の会社を継ぐかも知れないと思っている人、経営管理にちょっと関心のある人はぜひ来てください。演習ではマネージメントとは何かとか効率化とは何かについてカレー屋さんやソフトハウスの経営管理を例に実務的に学びます。演習をとうして、経営管理の場を自分の目で見、自分の頭で考え、自分の体で行動する、という態度を大切にするという考え方、同時にそのためのスキルを身につけます。

2．演習の内容および方法…経営管理の現場をどのように分析・把握したらよいのか、経営管理の問題点・課題をどのように整理したらよいのか、そして経営管理の改革案・改善案をどのようにして立てればよいのか、さらにどのように実施していけばよいのかなどについて、実例をもとにわかりやすく勉強します。

3．演習の年間のスケジュール…前期は主として、いろいろな分析方法・整理方法・立案方法・実施方法等を具体的に勉強します。後期は、いくつかのグループに分かれ、演習の対象になりそうなケースを取り上げ、前期で勉強したことをいかして、ディスカッションを行いそれをレポートにまとめます。

4．受講生への要望等…本演習Ⅰを選択するものは3年次で経営工学・情報処理論を選択し最低B以

上の評価がとれるかあるいはそれ同等の実力があることが必要です。また本演習のＩを選択するものはIIを４年次で選択することを希望する。４年次で演習IIを選択するものは、４年次でコンピュータ概論をあわせて選択することを希望する。興味と意欲があればついてゆけると思います。ただし、欠席の多いもの、不勉強なものは単位等について責任はもてない。

理論社会学演習Ｉ　(2)　　助教授　土方　透

本ゼミナールは、社会現象および社会そのものの総体的把握をめざす、諸アプローチを多角的・多面的に研究する。

１．社会の解明に際して用いられる諸意味体系
　(主体、時間、宗教、世界、歴史等)
２．社会的コミュニケーションを可能とする諸メディア
　(正義、貨幣、愛、信仰、真理等)
３．思想ないし方法論そのものの検討
　(M．フーコー、P．ブルデュー、N．ルーマン、ポランニー、H.G．ガダマー、J．ハーバーマス、あるいはポスト構造主義、ポスト・モダンと呼ばれる思想家等)

上記三視点を念頭に、ゼミ員との討論のなかで、テーマを絞っていく。なお、本ゼミの意図は、以下の書物に目を通しておくことでより一層理解されることと思われる。

・フランクリン・L・バウマー『近現代ヨーロッパの思想』大修館書店
　(1600年～1650年までのヨーロッパ思想の簡便な概観)
・クエンティン・スキナー『グランド・セオリーの復権』産業図書
　(ここ20年間に展開された思想の概観)

「演習」という語は、ときとして exercise という語を想起させるが、本ゼミは、あくまでも seminar に徹し、学問的真理という媒体を通しての教員と学生との精神的交流の場であることを肝に命じて参加してほしい。ゆえに担当教員の学問的好奇心と知的探究心を刺激する能動的姿勢がゼミ参加の条件となる。原則として欠席を認めない。

キリスト教社会倫理演習II　(6)　　教授　西谷幸介

イェリネック『人権及び市民権の宣言』、リンゼイ『民主主義の本質』に学んだことに基づき，各自論文のテーマを選定し、夏季休暇中に初稿執筆が終了するように指導する。

政治学原論演習II　(6)　　教授　霜田　美樹雄

演習Ｉよりさらなる研鑽をかさね、論文完成を目指す。

憲法演習II (6)　　教　　授　酒　井　文　夫

憲法演習Ⅰに参加した学生の全員が、卒論を提出するよう念願し、また期待している。卒論の執筆については、そのテーマの選定、読書の指導、論文の書き方などについて、私が懇切丁寧に指導するので、余り心配する必要はあるまい。

下記のスケジュールに従って、卒論の指導を行う予定である。

4月～5月－各人の希望を聴き、適切なテーマの選定を行わせる。併せて参考書の推薦を行う。

6月～8月－論文の構想を練らせる。報告を聴取する。質疑応答を行う。

9月～10月－論文の初稿を執筆させる。

10月～12月－論文の執筆に専念させる。

1月～　　論文提出

上記の他、随時、適切な指導を行いたいので、分からないことがあれば、何時でも研究室に来て欲しい。

社会心理学演習II (6)　　教　　授　安　倍　北　夫

社会心理学の演習Ⅰであつかってきた諸問題について、よりしぼった形で問題を提起し、さらに深められた研究を行う。主題によっては調査や実験、あるいはアンケート分析などの手法をとることも考えられる。この他文献調査や資料分析による場合もある。

原則としては参加する個人でこの主題展開と問題解決が期待されるが、同一主題をテーマとしたものがグループとして研究にあたることもあり得る。ただ安易な気持ちで選択しないこと。途中で挫折すると単位を失うことになる。

経済原論演習II (6)　　教　　授　石　部　公　男

3年次の経済原論演習に引き続き、発表形式で行うが、主として、卒業論文作成者を対象とした指導となる。3年次の演習生とともに合同で行なう事も時々ある。具体的内容については既にゼミ生も選考されており、対象学生には話してあるので、それらを踏えて充分な準備を行なってもらいたい。卒論を作成しない学生であっても、作成する学生であっても、ゼミの進め方には特に異ならせる事はないと考えている。参考書等は従来通り、授業の時間内で指示をしてゆく。

経済原論演習II (6)　　講　　師　冨　田　重　夫

前年度に引継いで輪読（主に景気変動と経済成長）を行なうとともに、卒業論文の作成のための指導を行なう。

経済史演習II (6)　　教　　授　金　丸　平　八

卒論作成のための指導及び演習Ⅰに出席し、外書講読を行う。

経済政策演習II (6)　　教　　授　磯　部　浩　一

本演習の履修希望者は、履修登録の時点（4月）において、卒業研究の計画（案）を提出することが望ましい。3年次に履修した演習（I）の成果として、研究したいテーマも確定し、研究の方法や、参考文献のリストなども完成しつつあるものと期待している。したがって、3月の春休み中に、研究参考文献のリストなども完成しつつあるものと期待している。したがって、3月の春休み中に、研究計画を案を作り、4月に提出することを要求する。

研究計画案の内容は、まず何よりも、研究テーマを選択した動機、研究テーマに関する関心、問題意識、研究テーマを研究する意義等について、自ら考えてこれを文章に書いて、研究課題として、提示することである。また、このテーマについてこれまでに分った参考文献のリスト・アップが必要である。以上のことは演習（I）が終了した時点で、それぞれ各自の勉強にしたがって、計画案としてまとめることが可能なはずである。

研究計画案を検討してこれを推進可能な計画として確定して、勉強を進めてもらう。

勉強の成果はそのたびごとにリポートとして提出してもらい、眼に見える形でリポートを積みあげて論文作成を進める。

労働経済論演習II (6)　　教　　授　保　谷　六　郎

演習IIでは、演習Iの延長線上で、卒業論文を書くものとする。そのテーマは、自分の書きたいものを選ぶことができる。理論的なテーマでも、実証分析的なものでもよい。また、労働経済の全分野にわたる問題でも、特定の狭い分野にわたる問題でもよい。

演習IIのゼミ生は、卒業論文を書ける能力があることが必要で、そのために、演習Iの学生でその能力のあることを実績で示したものであることが望ましい。

統計学演習II (6)　　教　　授　北　山　直　樹

統計学についての卒論の指導をする。

卒論のテーマは別に問わないが、統計学の講義で、統計データの科学を講じているので、現在までのところ、統計データについての論文が多くなっている。

参考書　『統計データの科学』北山直樹（三協法規）

金融論演習II (6)　　教　　授　堀　家　文吉郎

○演習IIは、各自が自分で設定した主題に関する卒業論文の作成を、個別に指導するのが主たる目的である。論文の主題は、経済および経済学に関することなら何でも良いと言いたいが私の能力もあり、多分面接・相談の上で指導できるかどうかを決めることになるだろう。

○なお、途中で作成中の論文の概要を、私の演習Iを選択している後輩諸君に聞いて貰う機会を是非作りたい。このとき必要なのは討論で、存外とこれが傍目八目（おかめもく）で、論文の著者にとって項門の一針と

なることがあるからである。

○論文は、予定の長さの二倍程にいったん書き上げ、後に半分位に削ることとしたい。これで締まった論文になる。最終稿を纏める期日を十二月とすると、第一次原稿は遅くとも十月には完成していなければならないから、演習IIに参加を希望する者は、その時点で、すでに明確に主題を決めている必要がある。こんな訳で、演習IIを選択した者は、結局一学年の自主的勉学時間のほとんど全部を卒業論文の作成に振り向けることとなろう。単位は、論文を完成し、提出した者に限って与えられる。一年を棒に振ることもあり得るのである。

○選択希望者はこれらのことをあらかじめ承知し、参加する意思があることを自ら確認の後、面接に望むことを要求する。

国際政治論演習II (6)　　教　授　松井弘明

基本的には演習Iと同じ。論文の最終的完成に向って努力すること。4年次の終りまでに質量ともに一定水準以上の学術論文を提出したものに単位を与える。

国際経済学演習II (6)　　教　授　吉川元忠

国際経済学演習I履修者のうち卒業論文作成に進む者のためのものである。予め小論文を作成する必要があることについては演習Iの項参照。教科書、参考書等については必要に応じ個別に指示。

国際経済開発論演習II (6)　　教　授　山本鐐造

演習IIは、演習Iを履修し、かつ卒業論文を書くことを許可された学生にのみ、演習Iの許す範囲内のテーマで履修を許される科目である。国際的なもの、開発に関するものなど、当ゼミの包含するところは広範囲におよぶので、自由度が広い。3年次のゼミにも合流して復習しながら卒論を進めて行く。

テーマの設定は3年次の夏季休暇までに行ない、3年次の休暇中にその方向に添ったレポートを手書きで25枚仕上げる。春季休暇中に図や表などの基礎データを作成し、4月の新学期開始時には、それを文章で繋いで、ワープロで清書すれば終わる程度にまで仕上げておく方針である。

参考書　『国際経済開発』山本鐐造（学文社）

比較地域圏研究（欧米）演習II (6)　　教　授　平　良

卒業論文の作成・指導

下記日程を目やすにする。

4月　　問題の決定（自分で適当なものを選ぶ）

5月　　問題についての資料の一覧を作成

6月　　資料の集収（学外の図書館利用は欠かせない）

7～8月　集収した資料を読むこと。

9～11月　論文の構想を作成し、各章の進行を報告する。

10～11月　論文の中間報告会を行う。

12月　最終稿の作成

1月　清書して提出

前期中はクラスとしての演習は行わず、各人は進行に応じて個別に相談すること。この場合に毎月一回は適当な時間を見て報告すること。後期はクラスとして集まることになる。

合宿への参加は任意。

日本政治史演習II　(6)　　教　授　吉田博司

近代日本の政治家についての卒論作成を指導する。前期はテーマ確立、資料収集についての基本的助言が中心となる。後期はそれにもとづいた論文発表と修正の助言が主となろう。

行政学演習II　(6)　　教　授　佐々木信夫

国防、国際関係、財政、農政、教育、国土計画、都市政策、地方自治など、私たちが日ごろ考えなければならない公共政策について、自分の関心に沿った研究活動を行おうというのがこの演習のねらいです。

ゼミとしては、1人ひとりが年2～3回のゼミ報告を繰り返しながら、問題意識を深め、関連文献を読み、考え、自分の意見をまとめて卒業論文という形に仕上げるのが1年間の流れです。その間、必要に応じ関係省庁を訪ねてヒアリング調査をしたり、ケーススタディを扱う場合は実態調査もします。

夏と冬に合宿を行いますが、夏は演習I、IIの3・4年合同合宿、冬は早稲田、慶応、明治、学習院など10大学との合同合宿「インターカレッジセミナー」に参加し、学術的な議論や人格的なふれあいを通じて自己形成に努めます。

私はゼミ生をファミリーと捉え、就職活動や大学院進学など一人ひとりの希望をかなえるべく助言することとし、また卒業後も研究室や後輩とのつながりをもてるようOB会もつくってゼミ活動を活発にするよう努めております。

そのようなレベルの高いゼミ活動を希望する諸君の受講を希望します。

教科書　必要に応じ指示する。

社会保障論演習II　(6)　　教　授　城戸喜子

社会保障論で学んだことを基礎に、社会保障論演習Iで各自が模索したテーマを追求し、卒業論文に纏めるための指導を行う。

卒業論文の作成を認められた学生は、5月連休までに論文の計画書と基礎的文献リストを提出する

こと。演習の時間には、論文作成のための作業がどの様に進行しているか、各自が相互に報告しあい、質疑と討論を重ねる。

マスコミュニケーション論演習II (6)　　講　師　岩　渕　美　克

1．講義のねらい　演習及び大学生活の総決算としての、卒業論文の提出を目指す。

2．講義内容

A）研究テーマの設定

B）関連研究の照合

C）分析

D）論文作成のスケジュールで進む。ただし、研究の性格上、必ずしも週一回とは限らない。

3．受講生への希望　必ず論文を提出する事。

外書講読（経済政策） (2)　　教　授　磯　部　浩　一

経済政策に関連する英語の文献を一緒に読みます。

履修について特に条件はありませんが、勉強する意欲があり、出席して熱心に質問したり議論する人の参加を希望します。

目的は次のとおりです。第1に書いてある内容を把握すること、第2にその内容と関連して自由な討議（話し合い）をして理解を深めたいと思います。本の読み方、問題の本質のつかみ方、考え方などを体得してもらいたいと思います。

そのために、前もって個人個人の分担を決めておき、予習をしてきたものを発表してもらいます。

検討中のテキストは、C.E.Lindblom の次の3冊他から選びます。

1．The Policy－Making Process, 1968.

2．Politics and Market:The World's Poitical Economic Systems, 1978.

3．Inquiry And Change:The Troubled Attempt to Understand and Shape Society, 1990.

4．その他

1993年度は、はじめは以上の文献のうちからあらかじめ選んだプリントを使用し、履修者の希望を確認して、テキストを決めます（プリントを配布する）。

外書講読（労働経済論） (2)　　教　授　保　谷　六　郎

講読の内容

講読は、下記のテキストについて行う。テキスト1及び2は、日本の労働事情を外国人に説明する小冊子であり、テキスト3は、国際労働機関（ILO）の労働教育用のテキストである。

テキスト1及び2によって、英語の労働用語にふれ、日本の労働事情をどのように表現するかを学ぶ。また、テキスト3によって、労働経済の国際文書の一つの典型にふれるようにさせたい。

この講読によって、労働英語の学習だけでなく、労働問題の実態と欧米における労働問題のアプローチを理解するようにさせたい。

テキスト

1　Labour－Management Relations in Japan

2　Industrial Relations System in Japan

3　Wages

講読の形式

個人別に訳を割当て、訳の適否、内容の把握についてグループディスカッションをするのを原則としたい。

このため、発表の準備にあたっては、逐語訳だけでなく、関係のある労働問題の理解を深めておくことが必要である。

履修に当たっての条件

労働・社会問題にとくに興味と関心をもっていることが望ましい。

外書講読（社会保障論）　(2)　　教　　授　城　戸　喜　子

先進諸国における社会保障制度生成の歴史的背景、制度成立・促進に果たした国際労働機構の役割、制度の目的と仕組み、給付の種類と適用対象者、財源調達法と国民経済とのかかわり等、社会保障に関する基本的知識と理解を、ILO による標準的テキストを通して学ぶ。

授業の進め方は、各学生に担当箇所を前以って定め、毎回各人に担当箇所の正確な翻訳と内容の概略を報告して貰う。クラス全員はそれぞれの疑問・質問を提示し討論を行う。

履修に際しては、十分な下調べをして来る決意と、社会保障論の講義程度の理解を要求する。希望者が定員を越える場合には、社会保障に関する簡単な英語の試験を行う。

テキスト：ILO、Introduction to Social Security、1989

外書講読（金融論）　(2)　　教　　授　堀　家　文吉郎

○ The Economist〔週刊〕から、日本の金融に関連する記事を中心に随時・適宜抜き出しての輪読。記事の選択は私に委せてもらうこととし、テキストはコピーしてあらかじめ各人に配布する。『タイム』や『ニューズウィーク』、あるいは『US News and World Report』といったアメリカの眼ではなく、少々距離のあるイギリスのそれを通して、日本経済の現況を見ようというのが趣旨である。時事英語に慣れて欲しいのと、その時々にトピカルな話題に関して、日本経済が外国からどう見られているかを承知している必要があると思うのでこの方法を選んだ(ただし、最低2週間は遅れる)。むろん、日本の新聞・雑誌の記事や解説との比較を常時心掛けていきたい。

○授業の具体的な進め方の詳細は先輩諸君によって知られたいが、①毎週3人が各人1パラグラフずつ訳出したものを、それへのコメントを加えながらの時間が略々三分の一、残りは私の独演会になる。

②提出した訳文は加朱の上、次の時間に返却する。③目標進度は〔諸君の宿題分を含めて〕１回当たり概ね2000語程度。あまり辞書を引かず、大摑みに流れを知ることの訓練をしたい。
○１年間でどれ程諸君の読解力が増すか楽しみだが、それにしても、こうしたクラスは諸君の主体的な参加を必須とする。黙って座って毎週１時間半の経過を辛抱するだけでは何の役にも立たない。従って、出欠席が不規則の諸君には、単位取得の辞退を求めることになる。あらかじめ承知されたい。

外書講読（キリスト教社会倫理） (2)　　教　授　西谷幸介

昨年に引き続き、アメリカの神学者・政治哲学者ラインホールド・ニーバーの著作の中から「自由民主主義」に関する論文（すべて英語）を読む。

参加者は指定された箇所の熟読・翻訳の作業が課せられる。各論文について、適宜解説を加える。

参考文献１．R.Niebuhr,Christian Realism and Political Problems (1953)
　　２．R.Niebuhr,Pious and Secular America (1958)
　　３．R.Niebuhr,Christianity and Power Politics (1969)

外書講読（証券市場論） (2)　　専任講師　柴田武男

本演習の目的は、アメリカの代表的な経済新聞である The Wall Street Journal の読解力を身につけることであると、前々年度は書いてしまったが、The Wall Street Journal への道は遠かった。

そこで、目標を大幅に変更して、映画『ウォール街』を理解するということにする。映画だからといって馬鹿にしてはいけない。アメリカの証券市場の仕組みを理解できなければ、この映画の面白さを味わうことは不可能である。前期講義を真面目に受講した諸君に限り、後期に映画を見る機会を講義中に設ける。既にこの映画を鑑賞した諸君も、アメリカの証券市場の知識を持った後でもう一度見ると、別の映画のような印象を受けることは間違いないと、前年度は書いてしまったが、映画『ウォール街』への道もまた遠かったと実感せざるをえなかった。映画自体の解説にも一層力を入れたい。

本演習の進め方は、アメリカの証券市場・金融市場の理解に不可欠な The Wall Street Journal の初心者向け解説書である Guide to Understanding Money & Markets を、単元別にグループ単位で和訳してきて、その和訳の添削を通して活きたアメリカの金融・証券市場の理解を深めていくというものである。

金融・証券英語に関しては、受験英語での成績は余り影響しないから、その点心配しないでよいが、課題の予習は必須である。十分に時間の余裕のある受講生で、できれば映画の好きな方が望ましい。講義は映像時代に相応しく、ビジュアルな教材を多用する。

教科書　"The Wall Street Journal—Guide to Understanding Money & Markets", Richard Wurman, An Access Press Publication.

外書講読（比較政治論） (2)　　専任講師　鐸　木　昌　之

〝Foreign Affairs〞の論文を読みながら、冷戦後における米国の外交政策、その組織、そしてアジアとの関係、とくに対日政策について考えていく。毎回テストをするので、学生諸君は辞書を必ず持参すること。

H.Baker, L.Frost, The U.S.－Japan Alliance,
"Foreign Affairs" Spring　1992
S.W.Bosworth, The United States and Asia,
"Foreign Affairs"　1991/1992
Ernest R.May, Intelligence Refrom,
"Foreign Affairs" Summer　1992

外書講読（日米比較経済論） (2)　　助教授　大　森　達　也

日米経済関係は「貿易摩擦」という言葉で表わされ、しばしば新聞等を賑わせてきました。この問題は、日米の両国経済だけに限られるということではなく、両国間における友好かつ健全な貿易体制を堅持していくことは、全般的な世界経済の運営においても支障をきたしかねない問題となっていると言えましょう。

本外書講読では、こうした日米関係に焦点を当て、日米両国の経済的な特徴を議論していきます。具体的には、戦後の日米関係を歴史的に概観しつつ、その推移をたどり、現在の位置づけ、問題点を考えていきたいと思います。

なお、外書講読では、毎週の小テスト、前期および後期の筆記試験の他、月毎のリポートの提出などを必須とします。

教科書　Japan Times

外書講読（理論社会学） (2)　　助教授　土　方　　透

原書にてテクストを読むという作業は、読み手における労力のみが想起され、<受け身的側面>ばかり強張される。しかし、こうした<熟読>は、けっして<受身>にとどまるようなものではなく、むしろ創造的行為であるといえる。すなわち、<読み手>と<テクスト>との間<Dazwischen>に、解釈空間が成立するのである。

本講読は、こうした<創造的行為>を実感することを、その基底的目的とする。それゆえ、一行を訳出するのに、何冊も辞書を要し、何時間も、また場合によっては何日も費やすこともあろう。

こうした労働を通して獲得する<充実感>を喜びとする者が、本講読に参加する資格を有する。

本年度は、倫理学と経済学との協働を模索する論考

Peter Koslowski, Ethical Economy as Synthesis of Economic and Ethical Theory, in do(ed.) Ethics in Economics, Business, and Economic Policy, (Springer－Verlag)1991

および、それを見た人間を石に変えるという神話の登場人物メドゥサ・ステノの物語を例に、見てしまったら最後、石になってしまうメドゥサを人はいかにして認知することが可能かという、社会的観察者の位置に関する論考

Niklas Luhmann, Sthenographie in der, et al. Beobachter: Konvergenz der Erkenntnistheorien? München 1990（英語版もあり）

を講読する。

外書講読（経済史） (2) 教　授 金 丸 平 八

経済史関係の外書（英語）を講読する。

テキストは改めて指示する。

外書講読（統計学） (2) 教　授 北 山 直 樹

英文の統計学のテキストを読んで、統計学の用語や、統計学特有の表現等を学ぶこととする。

テキストとしては、

Patrick Brockett

Arnold Levine の

Statistics and Probability and Their Applications

を考えている。

統計学としても英文としても、内容は難しくないが、雑誌の記事等を読む場合と異なり、割当てられた部分だけを読んでも、内容が分らなくなる場合も多いので、注意されたい。

教科書　『*Statistics and Probability and Their Applications*』

Patrick Brockett/Arnold Levine (Saunders College publishing) (HRW International Edition)

外書講読（国際政治論） (2) 教　授 松 井 弘 明

本年度は、国際政治に関する用語と文章に慣れることを第一の目標とし、平易な文献をできるだけ沢山読むようにします。かなりの予習を必要とします。文献は未定。

外書講読（国際経済学） (2) 教　授 吉 川 元 忠

今後の日米関係はどうなるか。その鍵は結局、アメリカ経済が直面している問題・課題をどう乗越え、再生への展望を開けるかが握っている。特に1993年はクリントン新政権の発足を迎える。新政権がどのような政策を提起し、それがアメリカ経済の現実の中でどのような効果を生むのか、あるいは生まないのかは、90年代の日米関係を卜する上でも、注目を怠れないのである。この原書講読は、このような観点から1993年度に開講されるものである。

参考書は、次の２つを使用する。

① After Reagan－Confronting the Changed World Economy(Michael Aho,1988)

② The New York Times(Sunday Edition(Air))

①はレーガン政権以降のアメリカ経済の状況、諸課題等について概観したもので、現代アメリカ経済を理解する上で言わばタテ糸となるもの。これに②の〝This Week in Review" Sectionを中心とする折々のカレントな問題についての解説、評論が言わば横糸の役割を果たすことで、総合的理解を図るものである。なお①については、今後開講までにより適当な文献が現れた場合、変更することがあり得る。

教科書　『ブッシュでアメリカは救えるか』吉川元忠（時事通信社）

外書講読（環境史） (2)　　助教授　稲田敦子

近代化がもたらした諸問題は、多岐にわたっているが、新分野ともいうべき「環境史」の視点から、人間と環境との間に起こってきた多様で複雑な関連性を検討していきたい。歴史的背景と同時に個々に起きている事象をとりあげることになるため、下記のテクストを中心とするが、適宜、参考文献を提示する。

クラスは、全員の意欲とその実践によって支えられるものであり、一方的なワンマンショーには決してならないように、各自の積極性を期待したい。

文献：Simmons, I.G.Changing the Face of the Earth: Culture, Environment, History. (1989)

外書講読（キリスト教社会倫理） (2)　　助教授　安酸敏眞

冷戦構造の終結とともに、国内外において、政治における道徳的問題がますます焦眉の問題となってきている。このようなときに、ハンス・モーゲンソーによって、「キャルフーン以来のただ一人の創造的政治哲学者」と評された神学者ラインホールド・ニーバーの思想を学び直す意義は甚大であろう。なぜならば、死後二十年以上を経た今日でも、「ラインホールド・ニーバーは、人間本性、歴史、社会政策に関する難問の山積する暗闇を照らす偉大な光であり続ける」（アーサー・シュレージンガー）からである。

テキストとしては

Larry Rasmussen, ed., Reinhold Niebuhr: Theologian of Public Life (Philadelphia: Fortress Press, 1991)

を使用し、ニーバーの神学、社会倫理、政治思想の重要な側面を学んでみようと思う。

参加者には毎回十頁くらいのリーディング・アサインメントが課せられる。

教科書　『*Reinhold Niebunr: Theologian of Public Life*』Larry Rasmussen, ed. (Fortress Perss)

6．人文学部　欧米文化学科　専門科目

近代化論 (4)　　講　　師 大 木 英 夫

近代化についてはいろいろな見方があるが、この講義では現代世界を「近代化」の所産としてとらえ、現代世界を「近代化」とよばれる社会変動との関連で見る。それはいわゆる「近代の超克」というような見方をしりぞける。現代世界にその生の座をもつ人間（若い世代も含めて）が自己の所在を明確にし、日本現代の世界史的位置を把握することは、「近代化」とよばれる社会変動を、とりわけその精神構造において認識せねばならない。マックス・ヴェーバー、エルンスト・トレルチを参照しながら、イングランドの十七世紀のピューリタン革命のプロセスと、そこに含まれている世界史的意義についてあきらかにする。また近代化とのかかわりでプロセスタンティズムの果した役割を認識しその伝統を受けつぐ聖学院大学の存在の意味を考えていく。人権理念の成立、社会的自由、デモクラシー、寛容などが、ピューリタン革命の中から生まれてきた。それらが日本国憲法にもはいってきたことから、日本のデモクラシーも、この源流の学習によって理解され、守られ、発展させられねばならない。そのような意味で、この学びは、日本国憲法下の新しい日本の自覚につらなるであろう。

教科書　『ピューリタン近代化の精神構造』　大木英夫　（中公新書）中央公論社
参考書は講義の中であげるが、トレルチの「近代世界の成立に対するプロテスタンティズムの意義」（トレルチ著作集８）をあげておく。

比較文化論 (4)　　助 教 授 稲 田 敦 子

異文化に触れるということは、自分がそれまで当然と思っていたことや価値観などに対して、立ち止まり、衝撃を受け、更には捉え直していく契機となることが多い。このことは、新しい認識の出発点となる。

本コースでは、人間活動の総体としての多様な文化理解への手掛かりとして、大きく分けて次の２点を中心に講義を進めていきたい。第１には、近代文化の歴史的展開過程を概観し、西欧思想の東洋および日本における移入と変貌の推移を検討する。このことは同時に、西欧近代文化を相対化する視点を養うことに通じることとなる。第２には、文化と自然との二重関係、すなわち、自然に根付きながらも自然を越えようとする思考が内包する諸問題を思想史的視点で考察する。それは、現代文明が抱える様々な事柄への根底的な洞察の手かがりとなるものである。

特定のテキストは指定しないが、講義の際にリストを配布するとともに、適宜、印刷教材及び映像を用いる。

参考書　「国境の越え方」西川長夫（筑摩書房）1992
　　「文化の否定性」青木保（中央公論社）1988

比較宗教学 (4)　　教　　授　J. D. リード

日本宗教の国際化について学ぶ。ゼミ形式。

教科書　『日本宗教と日系宗教の研究』中牧弘充（刀水書房）

参考書　「〝*Japsnese New Religions Abroad*〟」

Japanese Journal of Religious Studies, vol. 18, nos. 2-3(June-September1991)

Mark R. Mullins, Richard F. Young, eds（南山宗教文化研究所）

現代文明と環境 (4)　　専任講師　村　上　公　久

キーワード：'人間－装置'系、'人間－環境'系、地球環境問題、南北問題、都市、環境保全、保続的(持続的）開発

人類が、人口が未だきわめて少なく、自然生態系の余剰生産物を消費する範囲で生存可能であった時代は、文明を成立させることは無かった。

文明を、人類が増大する人口を支持するために古代より築き上げてきたシステム「'人間－装置'系」として捉える。諸装置の中で重要な装置として、システム「'人間－環境'系」の中に実現させた人口支持のための第一次産業「農業」、そして人口集積のための装置「都市」を考察する。次に現代文明の成立の背後に深刻な地球環境問題があることを理解し、地球環境の破局の回避の可能性についてシステム「'人間－環境'系」の中で拡大するシステム「'人間－装置'系」の拡大の限界と、制御を検討し、Sustainable Development「保続的（持続的）開発」の方策を検討しその可能性を探る。

一方、システム「'人間－装置'系」としての文明の拡大進展は、物理的にはシステム「'人間－環境'系」の枠の中で可能なものであり、システム「'人間－環境'系」の認識と理解の根底をなす文化（文明の精神的抽象、見取り図）によって形成されている文明（具体的実体）の理解が重要である。

1．現代文明の危機的状況

　実際の事例を南北問題の観点から考察する。

2．基本的な諸概念

　文明を成立させている自然条件および風土

3．文明と文化（実体と、その見取り図）：

　文明：システム'人間－装置'系

　文化：システム'人間－環境'系についての観方・価値観、

　　システム'人間－環境'系との関わり方

4．地球環境問題と「文明と環境」の問題

5．道具革命・農業革命・産業革命（⇨7．環境革命）

　文明を進展させた（人口を急増させた）三つの革命

6．都市

7．文明における人間の自己家畜化（self-domestication）の限界問題

動物出身の人間が、自ら作り出した人工環境にどこまで適応可能か

8．環境革命の可能性

9．環境倫理と新しい技術の展望

この科目は、一般教育科目「環境学」を基礎にしているが、事情により「環境学」を受講できなかった者も受講してよい。ただし、履修計画が許せば「環境学」の並行受講を勧める。それが不可能な者は、前年度に「環境学」を学んだ友人などからノートや配布資料を借りて本科目の開講までに「環境学」の講義内容を自習しておくことが望ましい。

上記1．～9．の講義と共に、地球環境問題への具体的な解決策を考えるため Sustainable Development「保続的（持続的）開発」の事例を研究し、環境保全と開発を考えると共に、特に開発途上国における保続的開発を考える。

情報処理論 (4)　　講　師　西　方　毅

現代は情報化時代と言われる。この講座では、情報化時代とは何か、情報化は社会にどのような影響を与えるかなどについて学び、情報処理機器すなわちコンピュータや通信回線に関する知識・技術などの習得を目指す。講義と実習の割合は1：3とする。なお、講義の一部として CAI を用いる。

○講義：人間が社会を作り維持していく時に情報が重要な役割を果たす。この情報について、その形式や媒体、役割、処理、通信回線を使った伝達などを学習する。また、情報の処理システムについて、ハードウェアの構成や機能、ソフトウェア役割、種類など様々な点から概観する。ところで、技術が社会の発展に影響を及ぼすことは歴史の示すところであるが、この点について、技術と社会の関係、特に情報技術のもたらした社会の変化、その問題など様々な点から検討する。

○実習：コンピュータの作動について理解すると共に情報リテラシー養成のために実習を行う。

コンピュータを利用する場合に、キーボードを自由に操ることができれば、作業が速いだけでなく、コンピュータ操作に伴うストレスも少ない。そこでキーボードトレーニングを兼ねワープロの操作実習を行う。また、コンピュータの実際の利用としては、数値の処理、表やグラフの作成、データベースの作成・検索などが多い。こういった作業によく用いられるのが LOTUS 1－2－3 と呼ばれるソフトウェアである。このソフトウェアを利用したデータ処理実習を行う。

テキストは開講時に指示する。

言語学概論 (4)　　講　師　W. G. クレーラ

人間を人間ならしめるのは、言葉であると断言出来る。しかし、私たち人間は案外言葉に対して無知で、無関心である事が多いと思われる。そこで、この科目では生まれてから何気なく使っている日本語、また、6年間学んで来た英語について学ぶと同時に、言語一般についても研鑽を深めていきたいと思う。次のような分野について焦点を絞って授業を行う。言葉の発生、人間の伝達方法と動物の伝達方法、信号と象徴 (Sign and Symbol)、世界の言語、言葉の普遍的要素 (Language

Universals)、言語の変化や歴史、言語と文化、言語と心理、意味論(Semantics)、音声学と音韻の概念（Phonetics and Phonemes)、語形分析（Morphology)、文の分析（Syntax）等を日本語で解説する。

教科書　『言語学への招待』Zino Song（南雲堂）

ヨーロッパ史　(4)　　講　　師　松　本　宣　郎

本講はヨーロッパ世界の直接の母胎となった古代地中海世界から考察をはじめる。ギリシアに生れたポリスは世界史上でもきわめてユニークな社会だったが、ポリスの市民が生み出した社会的・文化的・思想的遺産は、ポリスに学んで、しかしのちにこれを支配したローマ帝国によってうけつがれ、全地中海世界とその北の、現代いうところのヨーロッパ地方にまで植えつけられて、中世ヨーロッパの源流の一つとなった。もう一つの源流は言うまでもなくポリスの外の、地中海の東の隅に生まれたキリスト教である。キリスト教はポリスが衰え、専制的な性格を強めてゆくローマ帝国の中で次第に広がり、ついに皇帝権力と結びついて古代世界の終末後も、次の世界の強力なイデオロギーを提供する宗教として生きのこった。中世ヨーロッパはギリシア・ローマの都市的文化の名残りと、この社会統合に適合的なキリスト教とを受容して文明化したゲルマン人たちの手によって形成されてゆくのである。

以上の大きな歴史の流れを眺めるが、それぞれの時代を生きた人間たちの考え方の枠組み（心性）に注意を払いながら、近年の研究動向を摂取しつつ、社会史的視点を多くとり入れて講義したい。スライドも使用する。

教科書　『文献解説ヨーロッパの成立』大江善男・松本宣郎他（南窓社）

参考書　「地中海」〈地域からの世界史〉松本宣郎（牟田口義郎と共著）（朝日新聞社）

アメリカ史　(4)　　講　　師　中　野　勝　郎

戦争はおろかアンポすら知らない君たちにとって、アメリカ合衆国はもはや無意識のうちに生活の一部となってしまっている。音楽や映画やファッションなどのポップ・カルチャーはアメリカを発信源としているものが多い。まったく無理なくそれに馴染んでいる君たちは「メリケン・キッズ」なのだ。考えてみれば、外交＝日米関係になってしまっている日本だって、アメリカからみれば何でもいうことをきく「メリケン小僧」なのかもしれない。でも、君たちの生活に深くかかわっているわりには日米関係は円滑でないってことや、アメリカがときとして、日本にたいして怒り、理不尽とも思える要求を突き付けるのは君たちだって知っているだろう。このようなアメリカに慣って「反米」や「嫌米」になるのはあまりにもナイーヴすぎる態度である。そこで、この講義では、アメリカについて一面的な評価あるいは印象批判を行なう前に、まず理解することを試みたい。それは君たちにとっては、無意識のうちにあったアメリカを過剰に意識すにことでもある。そうすることによって、これまで自明であると思っていたことについて疑問をもつようになったり、さらには、新たな関心が湧き上がっ

てくるかもしれない。

さて、一般的にいって外国を理解するためには、なによりもその歴史を知ることが必要である。とりわけ、アメリカは建国以来同じ憲法のもとで同じ政治体制が存続してきているだけに、アメリカ史を理解することと現代アメリカを理解することとは密接につながっている。したがって、講義では、できるかぎり現代の問題と絡ませながらアメリカ史をたどってみたい。

教科書　『アメリカ政治外交史』齋藤　眞（東京大学出版会）

参考書　「アメリカの政治」阿部斉・中野勝郎

（放送大学教員振興会、1993年３月下旬発行予定）

ヨーロッパ文学Ⅰ（英）　(4)　　教　授　杉本栄司

この授業を通して学生諸君が英文学作品に親しみ、興味をもち、そこから文学の意義や働きについて考え、その作品を生み出した諸状況に関心を向けるよう指導します。文学は私たちの個人的、社会的営為を視つめ、政治、経済、宗教、倫理、教育等々に関わる諸行動から生ずるさまざまな葛藤をとりあげ、言語芸術として作品化します。言いかえれば、私たちは、当の作家が写実的・批判的精神の持ち主であろうと、幻想的・審実的立場をとろうと、作品を通して再構成された現実の相を見ます。そこに真実を見たり、虚偽を見てさまざまな仕方で感動します。学生諸君が文学の心をとらえてくれるよう期待します。

文学はまた文化的所産として、類縁する諸芸術（建築、絵画、音楽等）とも類比されますし、隣接する視覚、聴覚性の強い言語芸術である映画、アニメ、ドキュメンタリー、漫画あるいはオペラ、ミュージカルなどとも比較できるし、そこから新しい発見も見出せましょう。

文学史における様式とか、文学のジャンル、形式、表現技法やさまざまな文学精神とか想像力の問題のような文学理論も作品理解を大いに助けます。英文学の主流をなすゲルマン、ギリシャ・ローマの文学的伝統とか、ヘブライズム、キリスト教思想と信仰も当然考察の対象になります。例えば、チョーサーとリアリズム、ルネッサンスとシェイクスピア、ミルトン文学、諷刺精神とスウィフト、ロマン派詩人の想像力などはとりあげたいテーマです。

ヨーロッパ宗教思想　(4)　　助教授　安酸敏眞

ヨーロッパ宗教思想が、キリスト教を中軸に形成されてきたことは言を俟たない。しかし、キリスト教はもともとヨーロッパに起源を有する宗教ではなく、間接的には古代イスラエルの宗教に遡る旧約聖書・ユダヤ教的な伝統に、直接的にはナザレのイエスの宣教活動に発するものである。ところが、ヘブライズムという非ヨーロッパ的な背景をもつキリスト教は、やがてヘレニズム世界に進出してゆくことによって、ギリシア・ローマ的な古典文化の伝統（ヘレニズム）と運命的な邂逅をなし、ここにヘブライズムとヘレニズムとの間の緊張に富んだ創造的総合として、ヨーロッパ的「キリスト教」並びにキリスト教的「ヨーロッパ」が形成されるに至る。かくして、キリスト教はヨーロッパの「運

命」となる。その後のヨーロッパの宗教的・文化的発展は、キリスト教（カトリシズム）の中で融合した二つの根本的衝動（ヘブライズムとヘレニズム）が、その時々の歴史的・社会的状況に対応しながら繰り広げる一大ドラマであり、そのダイナミズムは両者の間の内的緊張（葛藤と角逐）に起因する、と言っても過言ではない。

本講義においては、このようなヘブライズムとヘレニズムの総合としてのキリスト教という視点に立脚しつつ、歴史的・社会的状況の変遷を考慮に入れて、その成立から現代に至るまでのキリスト教思想の多岐にわたる発展を、「キリスト教思想史」として通史的に論ずる予定である。教科書としては、便宜的に金子晴勇『キリスト教思想史入門』を用いるが、実際の講義は、講師の独自の視点からの、かなりの変更と補足を含むことになるであろう。

教科書　『キリスト教思想史入門』金子晴勇（日本基督教団出版局）

参考書　「キリスト教史」全十巻　ウィリストン・ウォーカー（ヨルダン社）

アメリカ文化概論　(4)　　教　授　平　良

アメリカを理解するために、その土台となっている諸問題を知る必要があり、アメリカについての「常識」を豊かにする必要がある。講議は概ね以下の項目に従う。

1　アメリカの地理的特色・自然
2　アメリカ形成の土台、植民時代
3　合衆の成立と民主主義
4　地域の特性　東・南・西
5　合衆国の発展
6　パクス・アメリカーナ
7　国家組織、議会
8　　大統領
9　　裁判所
10　連邦と州　地方自治
11　財政、税制、金融
12　自由、言論の自由
13　宗教
14　原住民と移民
15　人種問題
16　産業、労働者
17　犯罪と警察
18　家庭と性差別
19　教育・福祉
20　衣、食、住
21　大衆文化
22　アメリカが世界に与えるもの　政治
23　　経済
24　　文化
25　日本とアメリカ
以上

参考書は必要に応じて示す。

教科書　『概説アメリカ史』有賀貞他（有斐閣）

アメリカ文学Ⅰ（米）　(4)　　講　師　須　山　静　夫

アメリカの小説および戯曲の登場人物たちの生と死、そして、その作者たちの生と死を見よう。「ヘブライズムとヘレニズム」といった序論を通って、ハーマン・メルヴィルとユージーン・オニールが

主題になる予定である。教室でプリントを配布して、それを読みながら話を進める。したがって教科書はないが、下記の参考書を受講者はあらかじめ読んでおけば話がわかりやすくなるだろう。なお、宿題として毎月１冊の割合いで次の作品を読んで、感想文を書いてもらう(夏休みも含む)。ナサニエル・ホーソーン『緋文字』、ハーマン、メルヴィル『白鯨』、エドガー・アラン・ポーの諸作品、マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒険』、アーネスト・ヘミングウェイ『武器よ、さらば』、ジョン・スタインベック『怒りの葡萄』

参考書　「人生の親戚」大江健三郎（新潮社）

「新しい文学のために」大江健三郎（岩波新書）

「オイディプス王」「アンティゴネー」「コロノスのオイディプス」ソポクレス（岩波文庫）

異文化間コミュニケーション論　(4)　　助　教　授　H. バートンルイス

国際交流のために、他国の歴史と心理など学ぶ必要がありますが、互いのコミュニケーションのスタイルも十分理解しない限り、大問題になることが多くなります。学ぶ為にビデオと見学を利用し、学生の個人研究発表があります。

ことばと文化（レトリック）　(4)　　助　教　授　H. バートンルイス

主に比較文化と比較言語学の問題点について学びます。前期は世界の言葉とそれぞれの社会の関係に関する一般的知識を色々なテキストによって学習し、後期は学生のレポートと個人研究発表もあります。教科書がありませんが、プリントを配付します。

7．人文学部　児童学科　専門科目

近代化論　(4)　　講　　師　大　木　英　夫

近代化についてはいろいろな見方があるが、この講義では現代世界を「近代化」の所産としてとらえ、現代世界を「近代化」とよばれる社会変動との関連で見る。それはいわゆる「近代の超克」というような見方をしりぞける。現代世界にその生の座をもつ人間（若い世代も含めて）が自己の所在を明確にし、日本現代の世界史的位置を把握することは、「近代化」とよばれる社会変動を、とりわけその精神構造において認識せねばならない。マックス・ヴェーバー、エルンスト・トレルチを参照しながら、イングランドの十七世紀のピューリタン革命のプロセスと、そこに含まれている世界史的意義についてあきらかにする。また近代化とのかかわりでプロセスタンティズムの果した役割を認識しその伝統を受けつぐ聖学院大学の存在の意味を考えていく。人権理念の成立、社会的自由、デモクラシー、寛容などが、ピューリタン革命の中から生まれてきた。それらが日本国憲法にもはいってきたことから、日本のデモクラシーも、この源流の学習によって理解され、守られ、発展させられねばならない。そのような意味で、この学びは、日本国憲法下の新しい日本の自覚につらなるであろう。

教科書　『ピューリタン近代化の精神構造』　大木英夫　（中公新書）中央公論社

参考書は講義の中であげるが、トレルチの「近代世界の成立に対するプロテスタンティズムの意義」（トレルチ著作集８）をあげておく。

比較文化論　(4)　　助　教　授　稲　田　敦　子

異文化に触れるということは、自分がそれまで当然と思っていたことや価値観などに対して、立ち止まり、衝撃を受け、更には捉え直していく契機となることが多い。このことは、新しい認識の出発点となる。

本コースでは、人間活動の総体としての多様な文化理解への手掛かりとして、大きく分けて次の２点を中心に講義を進めていきたい。第１には、近代文化の歴史的展開過程を概観し、西欧思想の東洋および日本における移入と変貌の推移を検討する。このことは同時に、西欧近代文化を相対化する視点を養うことに通じることとなる。第２には、文化と自然との二重関係、すなわち、自然に根付きながらも自然を越えようとする思考が内包する諸問題を思想史的視点で考察する。それは、現代文明が抱える様々な事柄への根底的な洞察の手かがりとなるものである。

特定のテキストは指定しないが、講義の際にリストを配布するとともに、適宜、印刷教材及び映像を用いる。

参考書　「国境の越え方」西川長夫（筑摩書房）1992

「文化の否定性」青木保（中央公論社）1988

比較宗教学　(4)　　教　　授　J. D. リード

日本宗教の国際化について学ぶ。ゼミ形式。

教科書　『日本宗教と日系宗教の研究』中牧弘充（刀水書房）

参考書　「"Japsnese New Religions Abroad"」

Japanese Journal of Religious Studies, vol. 18, nos. 2-3(June-September1991)

Mark R. Mullins, Richard F. Young, eds（南山宗教文化研究所）

現代文明と環境　(4)　　専任講師　村上公久

キーワード：'人間－装置'系、'人間－環境'系、地球環境問題、南北問題、都市、環境保全、保続的(持続的）開発

人類が、人口が未だきわめて少なく、自然生態系の余剰生産物を消費する範囲で生存可能であった時代は、文明を成立させることは無かった。

文明を、人類が増大する人口を支持するために古代より築き上げてきたシステム「'人間－装置'系」として捉える。諸装置の中で重要な装置として、システム「'人間－環境'系」の中に実現させた人口支持のための第一次産業「農業」、そして人口集積のための装置「都市」を考察する。次に現代文明の成立の背後に深刻な地球環境問題があることを理解し、地球環境の破局の回避の可能性についてシステム「'人間－環境'系」の中で拡大するシステム「'人間－装置'系」の拡大の限界と、制御を検討し、Sustainable Development「保続的（持続的）開発」の方策を検討しその可能性を探る。

一方、システム「'人間－装置'系」としての文明の拡大進展は、物理的にはシステム「'人間－環境'系」の枠の中で可能なものであり、システム「'人間－環境'系」の認識と理解の根底をなす文化（文明の精神的抽象、見取り図）によって形成されている文明（具体的実体）の理解が重要である。

1．現代文明の危機的状況

　実際の事例を南北問題の観点から考察する。

2．基本的な諸概念

　文明を成立させている自然条件および風土

3．文明と文化（実体と、その見取り図）：

　文明：システム'人間－装置'系

　文化：システム'人間－環境'系についての観方・価値観、システム'人間－環境'系との関わり方

4．地球環境問題と「文明と環境」の問題

5．道具革命・農業革命・産業革命（⇨7．環境革命）

　文明を進展させた（人口を急増させた）三つの革命

6．都市

7．文明における人間の自己家畜化（self-domestication）の限界問題

　動物出身の人間が、自ら作り出した人工環境にどこまで適応可能か

8．環境革命の可能性

9．環境倫理と新しい技術の展望

この科目は、一般教育科目「環境学」を基礎にしているが、事情により「環境学」を受講できなかった者も受講してよい。ただし、履修計画が許せば「環境学」の並行受講を勧める。それが不可能な者は、前年度に「環境学」を学んだ友人などからノートや配布資料を借りて本科目の開講までに「環境学」の講義内容を自習しておくことが望ましい。

上記１．～９．の講義と共に、地球環境問題への具体的な解決策を考えるため Sustainable Development「保続的（持続的）開発」の事例を研究し、環境保全と開発を考えると共に、特に開発途上国における保続的開発を考える。

情報処理論 (4)　　講　師　西方　毅

現代は情報化時代と言われる。この講座では、情報化時代とは何か、情報化は社会にどのような影響を与えるかなどについて学び、情報処理機器すなわちコンピュータや通信回線に関する知識・技術などの習得を目指す。講義と実習の割合は１：３とする。なお、講義の一部として CAI を用いる。

○講義：人間が社会を作り維持していく時に情報が重要な役割を果たす。この情報について、その形式や媒体、役割、処理、通信回線を使った伝達などを学習する。また、情報の処理システムについて、ハードウェアの構成や機能、ソフトウェア役割、種類など様々な点から概観する。ところで、技術が社会の発展に影響を及ぼすことは歴史の示すところであるが、この点について、技術と社会の関係、特に情報技術のもたらした社会の変化、その問題など様々な点から検討する。

○実習：コンピュータの作動について理解すると共に情報リテラシー養成のために実習を行う。

コンピュータを利用する場合に、キーボードを自由に操ることができれば、作業が速いだけでなく、コンピュータ操作に伴うストレスも少ない。そこでキーボードトレーニングを兼ねワープロの操作実習を行う。また、コンピュータの実際の利用としては、数値の処理、表やグラフの作成、データベースの作成・検索などが多い。こういった作業によく用いられるのが LOTUS １－２－３と呼ばれるソフトウェアである。このソフトウェアを利用したデータ処理実習を行う。

テキストは開講時に指示する。

言語学概論 (4)　　講　師　W. G. クレーラ

人間を人間ならしめるのは、言葉であると断言出来る。しかし、私たち人間は案外言葉に対して無知で、無関心である事が多いと思われる。そこで、この科目では生まれてから何気なく使っている日本語、また、６年間学んで来た英語について学ぶと同時に、言語一般についても研鑽を深めていきたいと思う。次のような分野について焦点を絞って授業を行う。言葉の発生、人間の伝達方法と動物の伝達方法、信号と象徴（Sign and Symbol)、世界の言語、言葉の普遍的要素（Language Universals)、言語の変化や歴史、言語と文化、言語と心理、意味論(Semantics)、音声学と音韻の概念（Phonetics and Phonemes)、語形分析（Morphology)、文の分析（Syntax）等を日本語で解説する。

教科書　『言語学への招待』Zino Song（南雲堂）

児童学概論　(4)　　講　　師　本　田　和　子

本講義は、大略、次の内容から構成されている。

(1)　「子供」というキー・ワードで、人間の生の現象を問い直し、従来とは異なる新しい光の中に浮かび上がらせること。具体的には、「子供」の視座から期成概念を異化すべく、子供に関わる諸事象（例えば、身近な子供のエピソード、メディアに登場する子供の話題、文学や図像世界に描写された子供など）を題材として複数の視点からの読み解きを企て、諸学問を逆照射する試みである。

(2)　子供研究の現状の総合的展望。具体的には、18世紀の「子供の発見」に始まる近代的子供観の歴史、及び20世紀以降の科学的児童研究の歩みを、要約・解説する。

参考書　「異文化としての子ども」本田和子（筑摩学芸文庫）

「子供の世界」（日本放送出版協会）

「現代哲学の冒険２－子ども」（岩波書店）

児童文化論　(4)　　講　　師　本　田　和　子

文化史・文化論的視座による「子供」の探求。内容の大要は、おおよそ、下記の通り。

1）子供と遊びの文化史。

2）活字文化と子供。

3）エレクトリックメディアと子供。

4）都市空間における子供。

※講義の補助及び学生の皆さんの検討素材として、しばしばビデオを視聴する。

「トム・ソーヤの冒険」「わんぱく戦争」

「赤毛のアン」「若草物語」

「小公子」「ホームアーロン」

「シベールの日曜日」「エマ」

「モモ」「泥の河」など

児童文学　(4)　　講　　師　森　下　みさ子

クマのプーさん、パディントン、ムーミン、ハイジ、ハック、ピノキオ……と、私たちの周りには、児童文学の世界に生まれて、長く、広く、親しまれてきた「人気者」がいる。彼らの魅力とは、いったい何なのか、そのキャラクターをさぐることで、児童文学の世界が創り出す魅力、および「子ども」や「動物・人形」がもたらす力について考えてみたい。と同時に、これらのキャラクターのうちのいくつかは、アニメーションとなり、グッズとなることで、その造型を微妙に変えながら、広範囲の人気を得るにいたっている。作品の原典にあたるだけでなく、こうした映像化・商品化と児童文学との

関係についても、目を向けていく。

前もって扱う作品を伝えるので、これを機に、原作を読んで受講すること。また、作品のヴァリエーションや市場化の動きなどに関しては、学生諸氏にも調査・発表の機会を用意したい。

参考書　講義の中で随時、指示していくつもりです。

児童心理学　(4)　　教　　授　新　田　倫　義

ヒトの生まれてから主として児童期までの心身の発達・形成の過程について理解を深めることを目指す。

講義は、この目標に沿って、いわゆる講義形式を中心とし、必要に応じて映画やビデオを見てもらったり、アンケートに答えてもらったり、可能ならば見学をしたりなどいろいろなやりかたで進めたいと考えている。一応教科書を指定するが、これを読んで丸暗記すればよいというものではなく、おおよその筋道を示しているものと心得てほしい。

内容は概ね下記の通りである：

児童心理学とは　乳児期まで　身体および運動　認知　ことば・コミュニケーション　動機づけ・自我・パーソナリティ　社会的行動　価値観。

なお、発達・形成の過程は児童期で終わるものではなく、一生を通じて進行して行くものであるし、また、どのような働きかけがなされるかによっても影響を受けるものである。これらについては、この講義の中でも触れるが、発達心理学、教育心理学で問題にしているところでもあるので、そちらの面からも理解を深めていくことがのぞましい。

教科書　『児童心理学』白井　常（光生館1980）

参考書　「乳幼児の世界」野村庄吾（岩波新書）

教育心理学　(4)　　教　　授　新　田　倫　義

教育の過程に関与する諸問題に心理学の方法で取り組み、人間の理解を深めていく。

内容は概ね下記の通りである：

心理学と教育心理学　教育心理学の問題と方法　教授・学習の過程　学習することの学習　発達の最近接領域　適性処遇交互作用　観察学習　動機づけ自己学習能力の形成　競争と共同　援助行動　教育の測定・評価

なお、児童心理学および発達心理学をも併せて受講することがのぞましい。

参考書　「子どもの能力と教育評価」UP 選書　東　　洋　（東京大学出版会）

「新訳アベロンの野生児」イタール，J. M. G.著

中野善達・松田　清訳（福村出版）

発達心理学 (4)　　教　　授　新　田　倫　義

ヒトが生まれてから死ぬまでの変化の過程、およびこれに参与するさまざまな条件について考えていく。生まれてから児童期までの変化については、児童心理学で詳しく取り上げるので、そのほかの時期について問題にすることが中心となる。また、ヒト以外の他の種における変化と比較することによって、ヒトにおける変化の特徴をあきらかにすることも試みて行きたい。

内容は概ね下記の通りである：

発達・学習・成熟・形成　発達段階と発達課題　生涯発達と生涯学習　認知の発達　社会的行動の発達　価値観の形成　発達の障害　感覚遮断・文化疎隔

なお、児童心理学および教育心理学をも併せて受講することがのぞましい。

参考書　「発達の心理学」藤永　保（岩波新書）

「知力の発達」波多野誼余夫・稲垣佳世子（岩波新書）

児童教育学 (4)　　講　　師　松　川　成　夫

ペスタロッチ（Pestalozzi, J. H.1746－1827）の生涯と思想を学び、児童教育の理論および実践の諸問題を検討する。

ペスタロッチはフランス革命前後の波瀾の時代に児童教育に生涯をささげたスイスの教育者である。その81年の生涯を通して人間ペスタロッチを知り、彼がスイス各地で展開した教育実践から教育者ペスタロッチの本領を学び、またその著作を読んで思想家ペスタロッチに触れたい。

その生涯については主として「ペスタロッチ」（長尾・福田）を読み学びながら詳しく研究する。その教育思想については主として「隠者の夕暮　シュタンツだより」（長田訳）を読みながら、ルソー・フィヒテ・フレーベルなどの関係も学び、検討する。

前期で生涯を、後期で教育思想を取り上げるが、教科書は年間使用する。

ペスタロッチをよく知り親しんでほしい。

教科書　『ペスタロッチ』長尾十三二・福田弘（清水書院）

『隠者の夕暮　シュタンツだより』ペスタロッチー（長田新訳）（岩波文庫）

参考書　「ペスタロッチーとその時代」村井実（玉川大学出版部）

教育社会学 (4)　　講　　師　金　子　養　正

教育は人間社会の根本的な機能として成立しているが、人類の歴史のなかで、現代ほど教育が人びとの生活の中に大きな比重を占めている時代はなかったと言うことができる。そしてまた、現代はさまざまな教育に関する問題を抱えることにもなった。そこで、本講義では、現代の教育・教育問題を社会的な広がりのなかで捉え、同時に受講者に教育社会学的視点を学習してもらうことをねらいとする。

講義の主な内容は

1．教育社会学の基本的性格

2．集団と社会化

3．学校の組織と文化

4．教育と社会

である。1、2を前期に、3、4を後期に計画している。

講義は、論述が中心となるが、間に参考文献や配布資料をもとにテーマを決めて受講者の発表や相互討論を取り入れて進めたいと考えている。

受講者には、現代社会、人間関係、教育に旺盛な興味・関心を持ち、講義に積極的な参加を期待している。

教科書は定めないが、講義のテーマに応じて参考文献はその都度紹介する。

参考書　「教育社会学を学ぶ人のために」柴野昌山編（世界思想社）

児童社会学　(4)　　講　　師　田　村　喜　代

1．講義のねらい

価値観の多様化は、現代社会と家族に様々な影響を及ぼし、特に力の弱い子どもの尊厳と福祉には憂慮すべき諸問題が発生している。子ども基本的な生活環境としての家庭は、核家族化、小家族化、子ども数の減少、雇用による成人たちの社会進出で、子どもたちには新しい養育機能の必要性も求められる実情である。本講では、こうした中で子どもの成長・発達を促進・阻害の両面から、背景となる原因を実証的な分析資料で考察し、現在及び将来に向けて、子どもの存在意義を再確認するのが目標である。

2．講義内容と方法

まず、現代家族の特質、夫婦・親子・きょうだいの基本的な人間関係を前提に学習してから、それぞれ危機といわれる問題点は何か、その発生の要件と現実面の特色をふまえ、それらが子どもに派及すると考えられる問題状況を教科書にそって、論及するが、福祉施策　福祉施設の実態にも触れたい。教科書以外に調査分析の資料・示唆に富むビデオ等利用する予定である。

3．講義の年間スケジュール

前期は主に基礎的な内容の学習に、概説的な説明の講義になり、後期はやや各論的な具体例の内容を予定しているが、いずれかの途中で、子どもの生活に役立つ簡単な紙細工、遊び方なども導入する。

4．受講生への要望

将来の家族構成予備軍として、子どもの問題には強い関心を持ってもらいたい。この種の書物多数発行されているので、自由に読んで考えてほしい。授業はやさしくたのしいものにしたい。

教科書　『現代の保育学3、入門　児童福祉』井垣章二、岡本栄一（編）（ミネルヴァ書房）

参考書　「現代の保育学9、児童精神保健」島田照三、森田啓吾、横山桂子（ミネルヴァ書房）

「事例と技法　子どもの見える行動、見えない行動」菅野　純（瀝々社）

国　語 (2)　　講　　師　福　田　梅　生

児童に正しく豊かな国語を身に付けさせていくための指導のあり方を学ぶとともに、教師として必要な言語教養を磨く。前半では、小学校低学年の国語科の内容とも関連を図りながら、国語による表現と理解をはじめ、言語の本質と機能、言語と思考力・想像力、言語感覚、言語発達、言語障害等について授業を行う。後半では、特に幼児の言語生活の中核となる音声言語（話し言葉）に焦点を絞って、演習を交えながらその実態と指導法を追求する。

算　数 (2)　　講　　師　小　松　喬　生

算数はギリシァやインドにおける初期の数学に始まる。数学の科学としての課題解決性は概念の正確さを計り、数学の歴史は概念の一般化による体系の再構成を繰り返してきている。ところが児童期の概念とは知覚から表象が形成されてクラス化し、クラス間の包摂関係が定められることによって形成される。これは表象の分化を前提とし、その分化は概念の一般化の順序と逆転する。しかも、この分化は現代数学の推論的研究における概念の特殊化と同調する。以上の状況について一例を挙げれば、1889年のポアンカレーによるトポロジーの創始が今世紀の幼児の空間認知の研究を可能にしたことである。数学では演繹推理によって記述するが、実際は類推や帰納推理を用いるように、算数でも概念づくりと、その一般化、特殊化に止らず、上記学習は無論、その他試行錯誤や洞察などの学習と認知との相互関連に注目しながら、その構成に工夫を重ねていかなければならない。

以上の意図の下に、テキストの流れに沿い、算数の四領域　1．数と計算　2．量と測定　3．図形　4．数量関係の順に進める。

前期は数学史や数学的背景に基づく試みに触れ、算数の教科書を併用して研究する。

後期は幼児・児童の算数的資料に対する反応の研究を通して算数の再構成の論理を共に考えたい。

教科書　『算数科教育研究』算数教育学研究会（学芸図書株式会社）

参考書　「小学校指導書」算数編（文部省）

生　活Ⅰ（社会） (1)　　講　　師　秋　山　秀　一

生活科は始まったばかりの新しい科目である。実際の教育現場では、児童の興味、関心、疑問に思うようなことを軸に、活動を展開していく必要がある。「生活への関心・意欲・態度」「活動や体験についての思考・表現」「身近な環境や自分についての気付き」これら三つの互いに強く関連しあった観点を、具体的な事例、体験をもとに、育てていかなければならない。この講義のねらいもそこにある。

講義のすすめかたは、まず私達の身のまわりで展開するさまざまな人々の暮らしぶりに焦点をあてて、そのようす、とくに、苦労している点や工夫しているようすについて具体的に見ていく。人々のくらしぶりを理解するだけでなく、風土や自然環境にも目をむける。対象も、私達の周辺から、埼玉県全域、日本、そして、世界各地へと徐々に拡げていく。

授業では具体的なさまざまな資料を活用する。スライドはすべて、実際にその場所に出かけていって撮ったものを使用する。世界各地の「衣・食・住」全般について認識していきながら、私達の極々身近な様々な問題についても考えていきたい。

受講性への要望は、「授業は教官と学生とがいっしょになって作っていくものである」ということをしっかりと認識しておいてほしいということ。授業はある種のパフォーマンスである。そして、楽しくなければ授業でない・・・双方にとって。

教科書　『バルセロナのアメまき祭り』秋山秀一（芦書房）

参考書　開講時に指示する

生　活II（理科）　(1)　　教　　授　志　田　俊　郎

以前、小学校理科は1年から履修されていたが新指導要領により、1・2年時は社会科と合併の形で生活科となった。生活II（理科）とは生活科の中の理科分野と捉えることも可能である。しかし、生活科とは理科でも社会科でもない。まさに生活科であり、日常生活にその根拠をおく。子供が将来色々な学習体験を積んでいく上で大切なことは日常生活との関連を常に考えていく習慣を身につけることである。観察があり、仮説があり、実験があって結論があり、現象の法則化が、また次の原因となるという理科学習の基本的な方法論も、それが生活に根ざしたものでなければ自然に対する理解も学情も、興味も好奇心もわかないであろう。子供にとって日常生活とは、つまり「遊び」である。理科も「遊び」が根底になければ、豊かな人間形成の寄与にはならない。この授業では簡単な実験・製作を通して、子供の日常をどう認識し、理解し、発展させていったらよいかを学ぶ。

音楽・器楽I　(1)　　専任講師　深　山　千穂子
専任講師　村　山　順　吉
講　　師　笠　井　かほる
講　　師　渋　谷　みどり
講　　師　塚　原　晴　美

ピアノを用いた音楽表現の基礎を学ぶことが目的である。

ピアノを弾くための技術を身につけることだけでなく、音楽とは何か、また音楽を教育と結びつけた時にどのようなことが重要なポイントになるかを考えながら、音楽に対する理解を深め、音楽性を養いたい。

器楽のような実技科目では、身体を通して理解するための準備が必要であり、受講の条件となる。「出席さえしていれば」という安易な受講は控えてほしい。

テキストは、それぞれの進度に応じたものを担当の教師より指示する。

音楽・器楽II　(1)

専任講師　深　山　千穂子
専任講師　村　山　順　吉
講　　師　江　間　孝　子
講　　師　笠　井　かほる
講　　師　渋　谷　みどり
講　　師　塚　原　晴　美

器楽Ⅰの基礎の上に、更にピアノを用いた音楽表現を深めることが目的である。

ピアノを弾くための技術だけでなく、さまざまな角度から実習を通してよりよい表現の方法を学ぶ。

毎回、充分な準備をした上で授業に臨むことが必要であり、受講の条件となる。「出席さえしていれば」という安易な受講は控えてほしい。

教科書　『幼児さんびか』(キリスト教保育連盟)

音楽・声楽Ⅰ　(1)

教　　授　遠　藤　喜美子

声楽は人声による音楽の総称で器楽と分けられる。人声は普通ソプラノ、メゾソプラノ、テノール、アルト、バリトン、バスの6種に区分することができる。声楽はふつう歌詞を伴ないⓐ　宗教的なものⓑその他に大別され、独唱、斉唱、重唱、合唱の種類があり、器楽の伴奏を付するものと無伴奏のものがある。ⓐには、オラトリオ、ミサ曲および聖書の言葉を引用した歌曲などがあり、ⓑには、オペラ、リート、民謡などがある。

技術的に声楽は、発声法（呼吸法)、唱法（演奏法）に区分される。発声法にはイタリア式（ベルカント)、ドイツ式などがあるが、今日では科学的な考慮をもって合理的な研究がなされ、理想的な発声法が主張されるようになった。唱法は、声の連係、音型唱法など技術的なものを指すときと、歌い方、曲想などの情緒的なものを指すときおよびその両方の場合がある。発音法は、発声法の基礎の上に成り、拡大される母音、子音は会話型と同一にみなして練習することはできない。

外国語の歌詞を唱う必要があるから外国語の発音法などは、唱歌法の範囲で取扱かう。特に母国語（日本語）の正しい発音と美しい歌い方は声楽で学び修得していただきたい。これに関連してアジアの音楽も学び、その発声・発音法なども修得したい。

音声・音色は先天的なものである。他を真似る必要もなくただそれを如何に美しく利用し表現しうるかが声楽を学ぶものにとって必要なことである。「健全なる音声は、健全なる身体に宿る」といわれるように声楽を志すことは身体の健康法にも密接な関係があることを認識されたい。

教科書

◎コールユーブンゲン――音程を唱うための教科書であるから、この種の練習は声楽を学ぶものは根本的に必要である。これは発声法の練習の中に用いる基礎的なものであって唱歌法の範囲には用いない。

教科書　『合唱・混声ハレルヤ、コーラス』堀内敬三訳詞　ヘンデル作曲（シンキョウ社)

『愛吟集　改訂ポケット』玉川学園編（玉川大学出版部）

『コールユーブンゲン　全曲二部、三部、四部合唱練習曲（音楽之友社）

参考書　「歌いかたの基礎」加古三枝子（音楽之友社）

「声のしくみ――やさしい音声学入門――」石井未之助（音楽之友社）

音楽・声楽II　(1)　　教　　授　遠藤　喜美子

声楽は人声による音楽の総称で器楽と分けられる。人声は普通ソプラノ、メゾソプラノ、テノール、アルト、バリトン、バスの6種に区分することができる。声楽はふつう歌詞を伴ないⓐ宗教的なものⓑその他に大別され、独唱、斉唱、重唱、合唱の種類があり、器楽の伴奏を付するものと無伴奏のものがある。ⓐには、オラトリオ、ミサ曲および聖書の言葉を引用した歌曲などがあり、ⓑには、オペラ、リート、民謡などがある。

技術的に声楽は、発声法（呼吸法）、唱法（演奏法）に区分される。発声法にはイタリア式（ベルカント）、ドイツ式などがあるが、今日では科学的な考慮をもって合理的な研究がなされ、理想的な発声法が主張されるようになった。唱法は、声の連係、音型唱法など技術的なものを指すときと、歌い方、曲想などの情緒的なものを指すときおよびその両方の場合がある。発音法は、発声法の基礎の上に成り、拡大される母音、子音は会話型と同一にみなして練習することはできない。

外国語の歌詞を唱う必要があるから外国語の発音法などは、唱歌法の範囲で取扱かうべきである。特に母国語（日本語）の正しい発音と美しい歌い方は声楽で学び修得していただきたい。これに関連してアジアの音楽も学び、その発声・発音法なども修得したい。

音声・音色は先天的なものである。他を真似る必要もなくただそれを如何に美しく利用し表現しうるかが声楽を学ぶものにとって必要なことである。「健全なる音声は、健全なる身体に宿る」といわれるように声楽を志すことは身体の健康法にも密接な関係があることを認識されたい。

教科書

◎コールユーブンゲン――音程を唱うための教科書であるから、この種の練習は声楽を学ぶものは根本的に必要である。これは発声法の練習の中に用いる基礎的なものであって唱歌法の範囲には用いない。

◎ソルフェージ――音楽理論での問題を知的に理解し、それを感覚的にソルフェージで経験し、それを演奏上に反映し、発展させ、音楽理論を生きた音として実感する。

◎声楽曲――世界の芸術的声楽曲を教材として、合唱、斉唱などの唱法を学ぶ。

教科書　『合唱・混声ハレルヤ、コーラス』堀内敬三訳詞　ヘンデル作曲（シンキョウ社）

『愛吟集　改訂ポケット』玉川学園編（玉川大学出版部）

『コールユーブンゲン　全曲二部、三部、四部合唱練習曲（音楽之友社）

参考書　「歌いかたの基礎」加古三枝子（音楽之友社）

「声のしくみ――やさしい音声学入門――」石井未之助（音楽之友社）

音楽・理論Ⅰ (2)　　専任講師　村　山　順　吉

音楽理論とは、広い意味においては音楽に関する理論的な認識すべてのことである。もう少し狭い意味では、音楽を構成している諸々の要素について、経験や実践をもとにしてそれらを理論的に組織し体系だてたものを言う。この狭義の音楽理論には、さらに２つの面がある。

１つは経験や実践から与えられた規則に、学的反省を与えるものであり、これは音楽学としての１側面をも有する厳密な学問である。もう１つは、音楽を実践するために必要な知識に関するものである。この中には音楽通論、楽典、さらに旋律論、リズム論、和声論、対位法、楽式、ソルフェージュ、音声学、作曲法、管弦楽法等に関するものが含まれる。

授業では先ずはじめに、この音楽を実践するための方法的根拠を与える知識としての音楽理論の中から、楽典を取り上げる。楽典とは音程、音階などに関する一般的な理論を含む、楽譜の読み書きに必要な音楽の基礎的な諸規則を扱うものである。

楽典をなるべくはやくに終え、その後は音楽と人間の関りについて様々な角度から考えてみたい。

評価は、試験とレポートの両方により行う。

使用するテキストは、授業の時に指示する。

図画工作Ⅰ (2)　　専任講師　寺　内　幸　雄

児童の絵画、工作を通じ児童の身体的発達段階に於ける造形活動を理解し学習する。又表現活動に於ける各種の技法と教材研究などを実習を通し体験学習をする。

教科書　『子供の絵はなぜ面白いか』安斉千鶴子（講談社）

図画工作Ⅱ (2)　　専任講師　寺　内　幸　雄

日本の民話、郷土の民話をもとに、影絵、紙芝居、指人形、マリオネットなどの制作を通し、児童芸術への理解を深め、児童とのふれあいの場を持つ学習を考えています。又からくり人形等の研究を通し、伝統的造形芸術の精神を学ぶ。

体　育Ⅰ (2)　　教　　授　窪　田　恭　子

体育においては、「身体の運動」（スポーツも含む）が、その対象となる。人間が人間として発達するには、その人間が創造し、現在までに引継いできた文化財の学習にある。即ち体育においては、「運動文化」を学習することである。小学校、中学校、高校においても、その学習はなされてきた。大学では、その対象となる、「運動」、「スポーツ」とは何か、について学ぶことにある。

従って、内容となることは、「運動」や「スポーツ」の構造や、人間との関係を追求し、理解することにある。高校までに学習してきたことをふまえて、次の２点について進める。

(1)　器械、器具によって、身体をいかにコントロールするか。(器械運動)

(2)　人間の力を加えることによって、用具を思うように動かすこと。(主に球技である。ボールをコン

トロールし、ある一定の施設を使用することによって、目的を達成することをねらう)

１年次は、高校において学習したことを再度確める。そして運動の名称などを正確に知ることを学習し、さらに技術を向上させる。運動の分析をする方法として、記録をとることを行う。

運動をするだけに終らず、その運動をすることによって、人間が主体的に少しでもよいから、変化があることを認識できることにある。

体　育II　(2)　　教　　授　窪　田　恭　子

１年次で学習したことをさらに深める。運動としては次のことを行う。

(1)ある一定の場所を使って、ゴールへどのようにからだを動かすのか。(陸上運動)

(2)ボールを使って、ゴールへいかに運ぶか。(球技)

(3)新しく自分たちで、運動を創り、仲間に教える。(運動創造、伝達)

以上のことを、小集団による活動で、運動の分析、特性の把握をすることによって、運動とは何かについて追求する。

運動を創造する、ということは、まったく新しいことを考えるのではなく、既成の運動の一部を変革したり、きまっているコートの変革であったりすることから始める。それを、他に伝えることによって、また変えることを考えていくように、段階を追って進めていく。

保育内容総論Ⅰ　(4)　　教　　授　川　村　登喜子

幼児期は心身の成長発達が急速にみられ、また人格形成の基礎が培われる重要な時期である。

この講義では幼児教育の基礎理念を学んでいく。子どもを発展しつつある生命と考え、人間として生きていくことを学ばせていくことである。二年次の保育総論Ⅰでは、保育の学問的意義、原理、目的、方法等幼児期の特徴を明らかにしながら幼児理解の観点に立ち、保育の実践とのかかわりあいの中から基礎理念、幼児理解の方法を学ぶことを目的とする。なお講義と伴行して演習もとり入れていく。学生は発達心理学及び児童心理学を必ず受講しておくこと。

教科書　『幼稚園教育要領』(文部省)

　　『保育総論』川村登喜子（東京教科書出版)

参考書　「あそびの指導」(同文書院)